建築と社會

住宅
アパート

6

第十七輯　第六號
昭和九年六月一日

日本建築協會

鋼製建具界の權威



（某氏邸＝御採用ヲ蒙リタル引違サツシ）

東洋鋼材株式會社
建築金物商會　總代理店

三機工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島三丁目五番地（大阪三井ビル内）

電話土佐堀（44）8365(3). 1776. 3103

本　店　東京市麹町區有樂町（三信ビル内）
電話銀座（57）5140. 5941(9)

支　店　大　連・名古屋・福　岡

出張所　京　城

派出員　新　京・奉　天・台　北・札　幌・廣　島

取扱店　三井物産株式會社各地支店出張所

（型錄贈呈）

會告

都市武裝促進運動趣意書

『都市を護れ』とは近時識者の頻りに唱導するところである。都市の防護は空の護りと共に都市の武裝であらねばならぬ。空の護りは兵備であつて都市を武裝するは我等建築關係者をはじめ社會人の義務である

我が國都市の現狀を見るに都市計畫法並に市街地建築物法の實施以來改善進歩したりとは云へ猶建築物の防火防空の方面に於て又避難道路空地等に於て歐米都市に比し缺くるところ甚だ多く一朝空襲を受けんか我國の如き木造建築の集團たる都市の被害は彼の關東大震火災近くは函館大火災以上の慘狀を現出すること火を睹るよりも明らかである

この時にあたり祖國日本指導の第一線にある我々都會人がこの脅威を自覺し率先して防火防空の建築物普及に邁進し都市自體の防護施設の完成を期せねばならぬ。時恰も今夏七月京阪神を中心として擧行せらるゝ陸軍防空演習を機としこれが助成促進の第一歩として我が協會は防火防空建築の普及並に都市計畫の擴充を計る爲め下記目的方法により都市武裝促進運動を爲さんとするのである

この緊急重大なる計畫運動に對して敢て愛國先覺の士の御賛同を乞ふ次第である

目　的

1. 防火防空建築の普及促進
1. 防火地區の擴大
1. 防火地區内建築完成の促進助成
1. 避難施設の完備
1. 環狀射放道路及公園廣場の設置
1. 都市航空港の建設

實行方法

1. 都市武裝に關する建議
1. 都市武裝に就いての論文懸賞募集
1. 都市武裝展覽會の開催
1. 講演並に映畫會に依る宣傳
1. 『都市武裝號』の特輯
1. パンフレットの發行頒布
1. ポスターの懸賞募集
1. 都市武裝に關する座談會の開催
1. 燈火管制の調査
1. 重要建築物に於ける擬裝遮蔽避難演習
1. 都市航港計畫案の懸賞募集
1. 都市武裝週間の設置

昭和9年5月

社團法人 **日本建築協會**

都市武裝に就いての論文募集

趣　旨

「都市を護れ」とは近時識者の頻りに唱導するところである。都市の防護は空の護りと共に都市の武裝であらねばならぬ。空の護りは兵備であつて都市を武裝するは我等建築關係者をはじめ社會人の義務である

我が國都市の現狀を見るに都市計畫法並に市街地建築物法の實施以來稍改善進歩したりとは云へ猶建築物の防火防空の方面に於て又避難道路空地等に於て歐米都市に比し缺くるところ甚だ多く一朝空襲を受けんか我國の如き木造建築の集團たる都市の被害は彼の關東大震火災近くは函館大火災以上の慘狀を現出すること火を睹るよりも明らかである。

時恰も本年7月京阪神地方を中心として擧行せらるる防空演習を機としこれが助成促進の第一歩として我が協會は防火、防空建築の普及並に都市計畫の擴充を計る爲めに都市武裝に關する論文を江湖より募集せんとす。

懸賞應募規程

1. 枚　數　400 字詰原稿用紙にて 20 乃至 40 枚　他に寫眞及び圖面 10 面以下を挿入するも妨げず。
2. 賞

1 等	賞牌	副賞 200 圓	1 名
2 等	賞牌	副賞 100 圓	2 名
3 等	賞牌	副賞 50 圓	3 名
佳作	賞牌	副賞 20 圓	若干名

3. 締　切　昭和 9 年 6 月 20 日正午
4. 版　權　入選論文の版權は本協會の所有とす
5. 審　査　審査員（五十音順）

大阪府知事	縣　忍
日本建築協會都市武裝促進委員會委員長	池田　實
大阪都市協會理事	小川市太郎
日本建築協會々長工學博士	片岡　安
大阪市長　法學博士	關　一
京都帝國大學教授	武居高四郎
第四師團長陸軍中將伯爵	寺內壽一
海軍監督官海軍少將	原　五郎
日本建築協會副會長	松室重光

6. 發　表　審査の結果は「建築と社會」誌上に發表す
7. 返　却　原稿は一切返却せず
8. 匿　名　誌上の匿名は差支へなし但し封筒及び原稿第 1 枚に住所氏名を明記のこと
9. 送　先　大阪市北區中之島 3 丁目 3　朝日ビル內日本建築協會懸賞論文係

昭和 9 年 5 月

社團法人 日本建築協會

都市武裝に關するポスター圖案募集

趣　旨

本年七月京阪神地方を中心として擧行せらるゝ防空演習を機とし、木造建築物の集團たる都市の兵火に依る脅威を自覺せしめ防火防空的都市の構築を暗示すべきポスター圖案を江湖より募集せんとす

懸賞募集規程

1. 大きさ　縦 75 糎　横 51 糎
2. 挿入文字　都市武裝に關する簡單なる標語
   日本建築協會
3. 着色　3 色（墨及び紙色の外）
4. 圖面　原圖紙を用ひ原寸とす
5. 賞
   1 等　賞牌　副賞　100 圓　1 名
   2 等　賞牌　副賞　50 圓　1 名
   3 等　賞牌　副賞　30 圓　1 名
   佳作　賞牌　若干名
6. 締切　昭和 9 年 6 月 20 日正午
7. 版權　入選圖案の版權は本協會の所有とす、入選圖案は修正して用ふる事あるべし
8. 審査　審査員（五十音順）
   日本建築協會副會長　葛野壯一郎
   神戸高等工業學校長　古宇田實
   京都高等工藝學校教授　霜鳥正三郎
   工學博士　武田五一
   洋畫家　鍋井克巳
9. 發表　審査の結果は「建築と社會」誌上に發表す
10. 返却　應募圖案は一切返却せず
11. 氏名　應募者の住所氏名は裏面の左下に明記すること
12. 送先　大阪市北區中之島 3 丁目 3 朝日ビル内　日本建築協會ポスター圖案係

昭和 9 年 5 月

社團法人　日本建築協會

會　　告

住宅研究に關し座談會に協會員の隨意參加を希望の件

本協會住宅委員會に於て委員長武田博士の下に左記の通り座談會の形式で住宅に付いて研究致して居りますので協會員各位の隨意御參加を歡迎いたしますから奮つて御出席の上適切なる御研究談を御洩し下さることを希望いたします

月　日　　毎月（本年度は 1. 2. 8. 12 月を除く）
　　第一水曜日（但シ6月は6日）

時　間　　午後正六時開會

會　場　　建築倶樂部

研究科目及各月豫定表

3月	防盜		7月	防熱（冷房）……簡易なるもの	
4月	防鼠		9月	防虫	
5月	防濕	防腐	10月	防寒	
6月	防臭	防音	11月	防火	

昭和9年6月

社團法人　日本建築協會

建築と社會

第17輯第6號　昭和9年6月發行

住宅・アパート

目　　次

住宅寫眞……（2）

アパート寫眞……（31）

ジードルンク概要……山田　守（35）

集合住宅の將來……奥田　讓（41）

住宅と防濕防腐に關する座談會……住宅委員會（44）

アパート雜想……永戸俊雄（46）

神戸市改良住宅に就いて……奥田　讓（50）

大阪パンシオンに就いて……杉浦　巴（53）

諸アパート工事概要……（54）

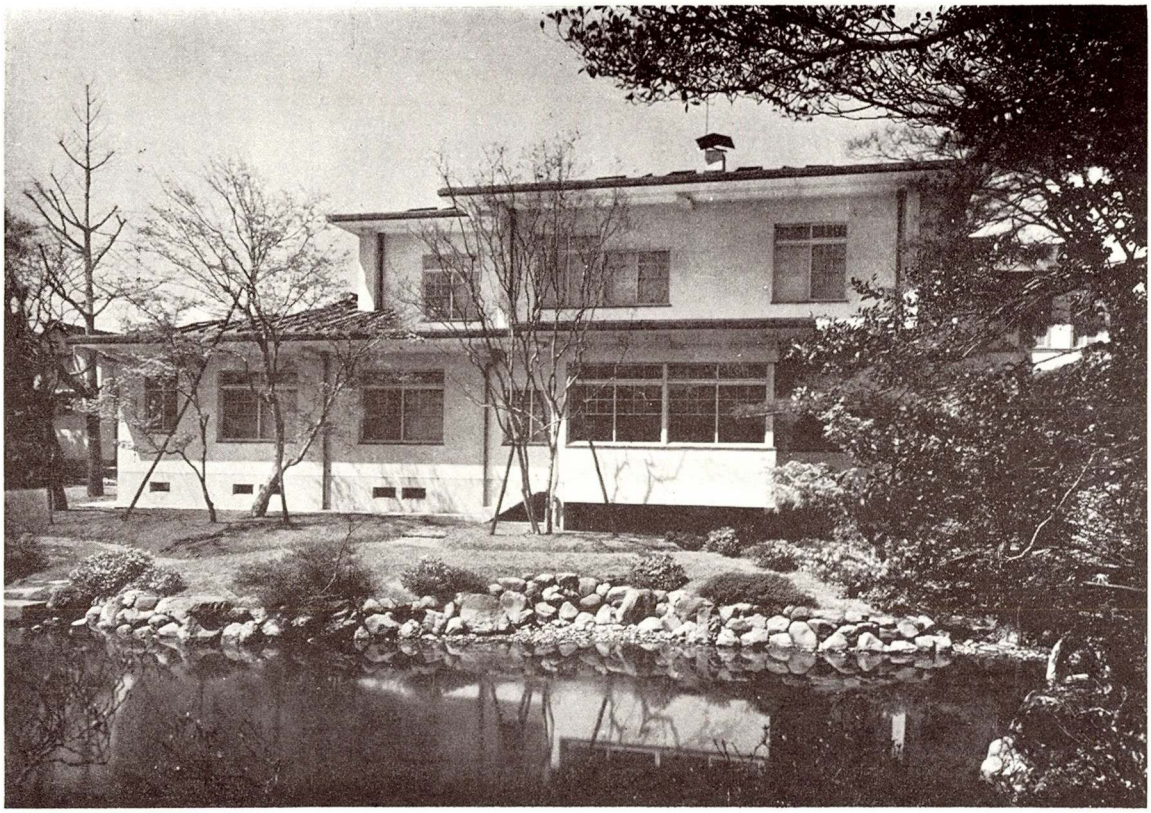
日本ポルトランドセメント技術會
第22回例會に出席して……三浦尙史（71）

建築材料陳列場記……（78）

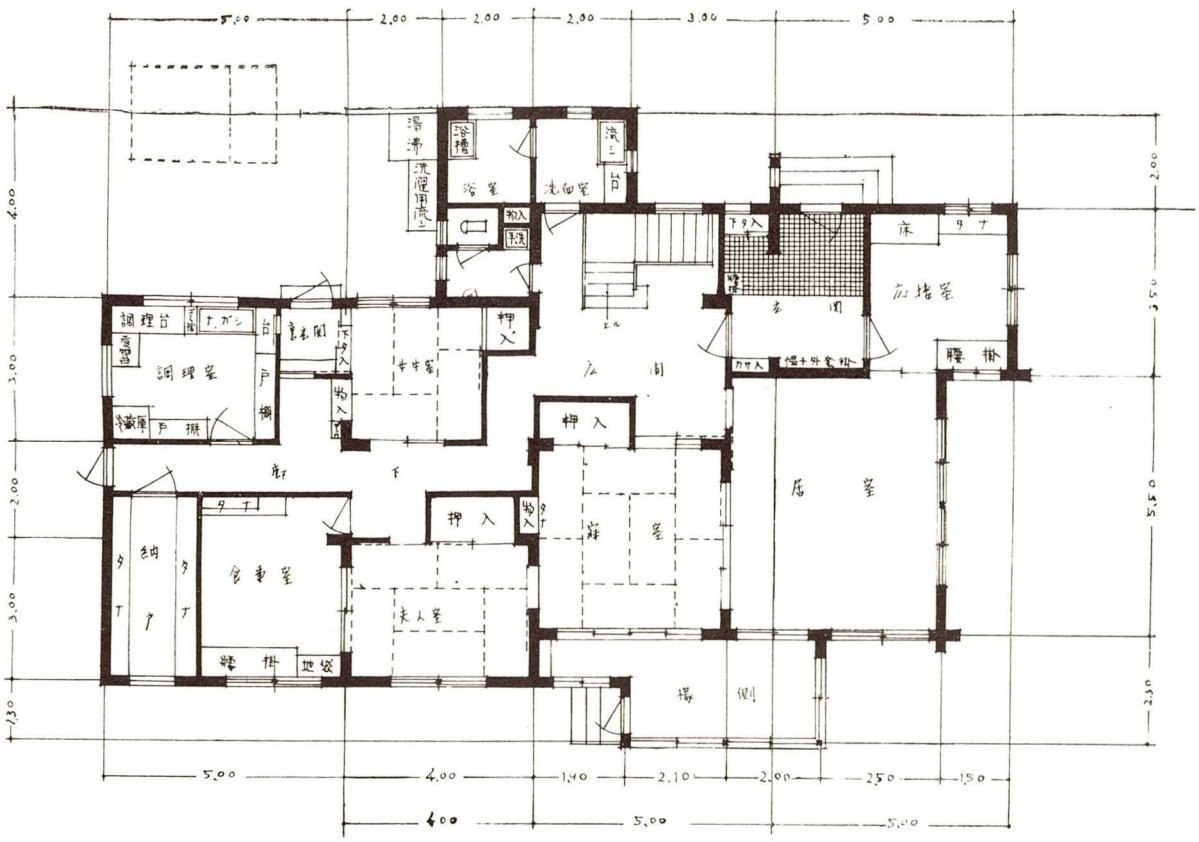
國際新建築……（57）

新刊紹介……（86）

會　　報……（82）



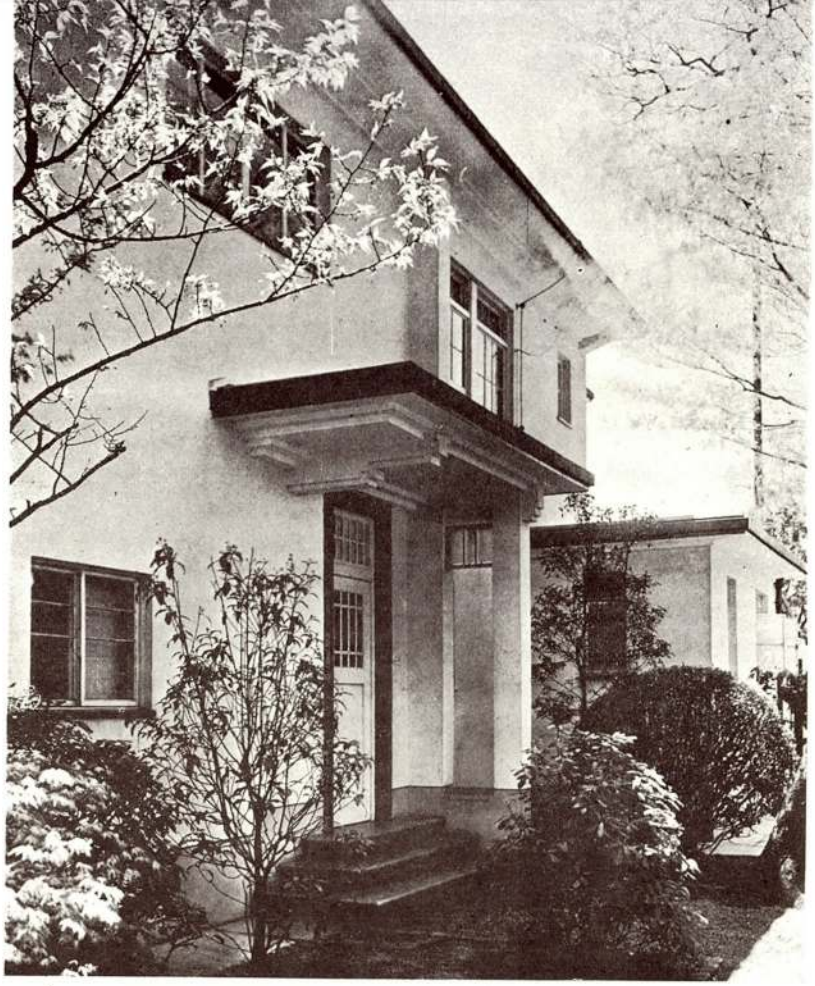
1・南面の外觀

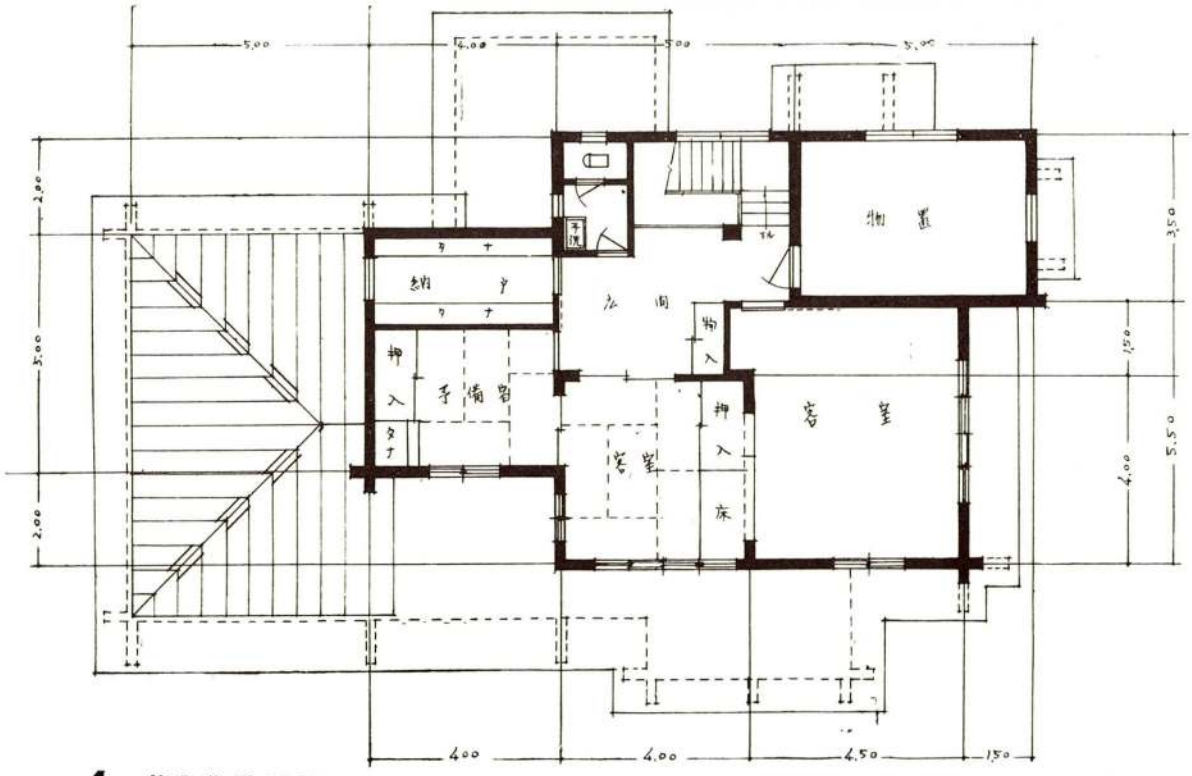


2・第1階平面圖

VI 2　清野氏邸（京都）　設計　工學博士　藤井厚二氏

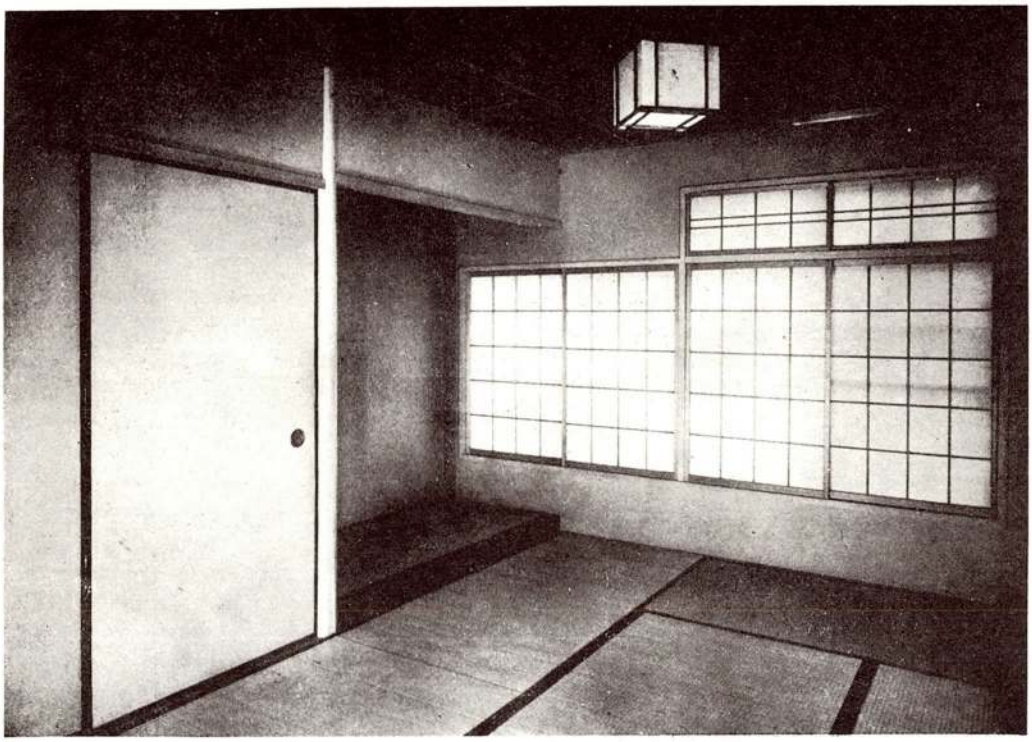
3・北面の外観



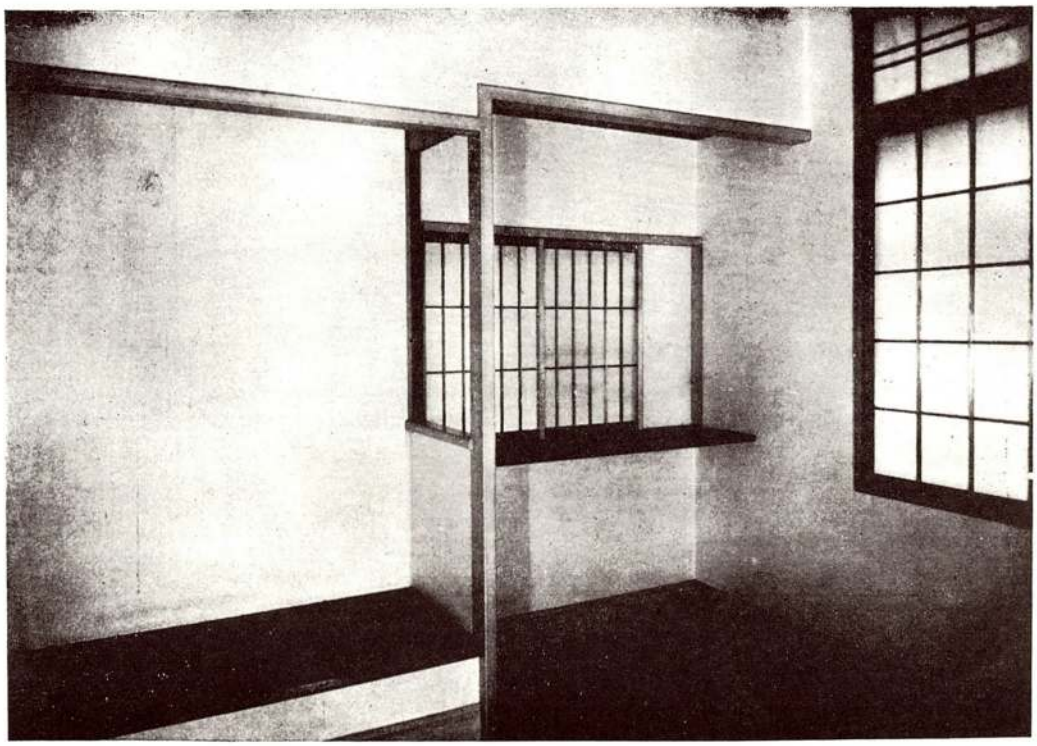


4・第2階平面圖

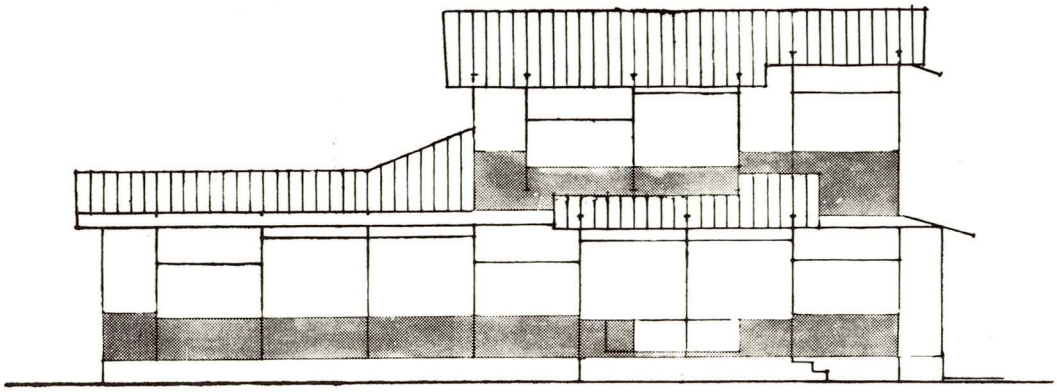
清野氏邸（京都）



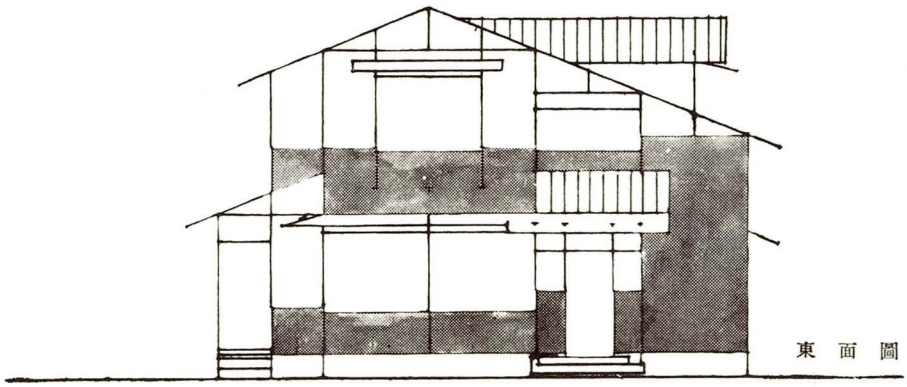
5・座式の客室（2階） 客の寝室をも兼ねる



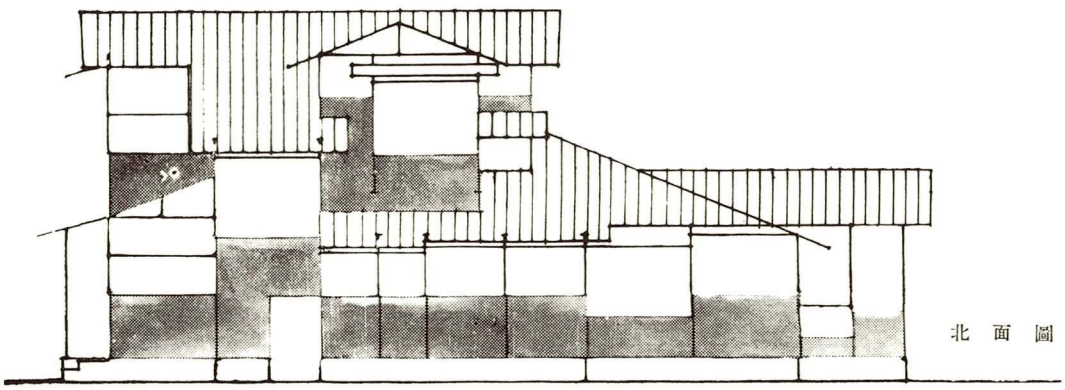
6・腰掛式の應接室（1階） 窓は外側に鐵製引違障子を嵌め込む



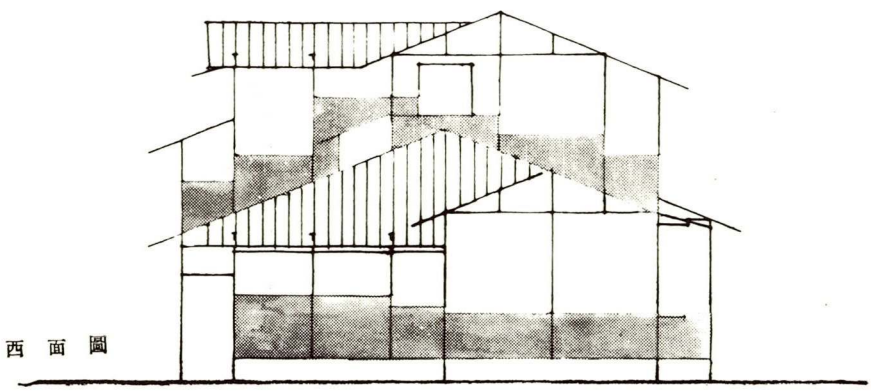
南 面 圖



東 面 圖



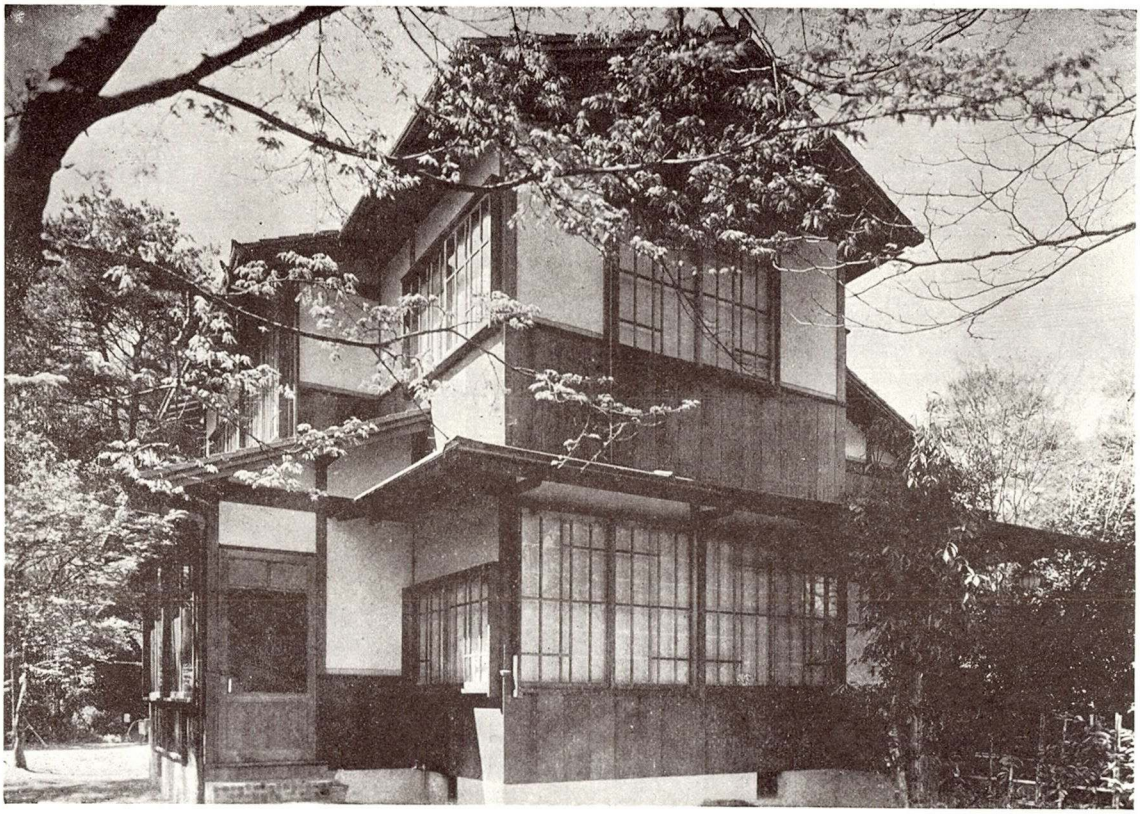
北 面 圖



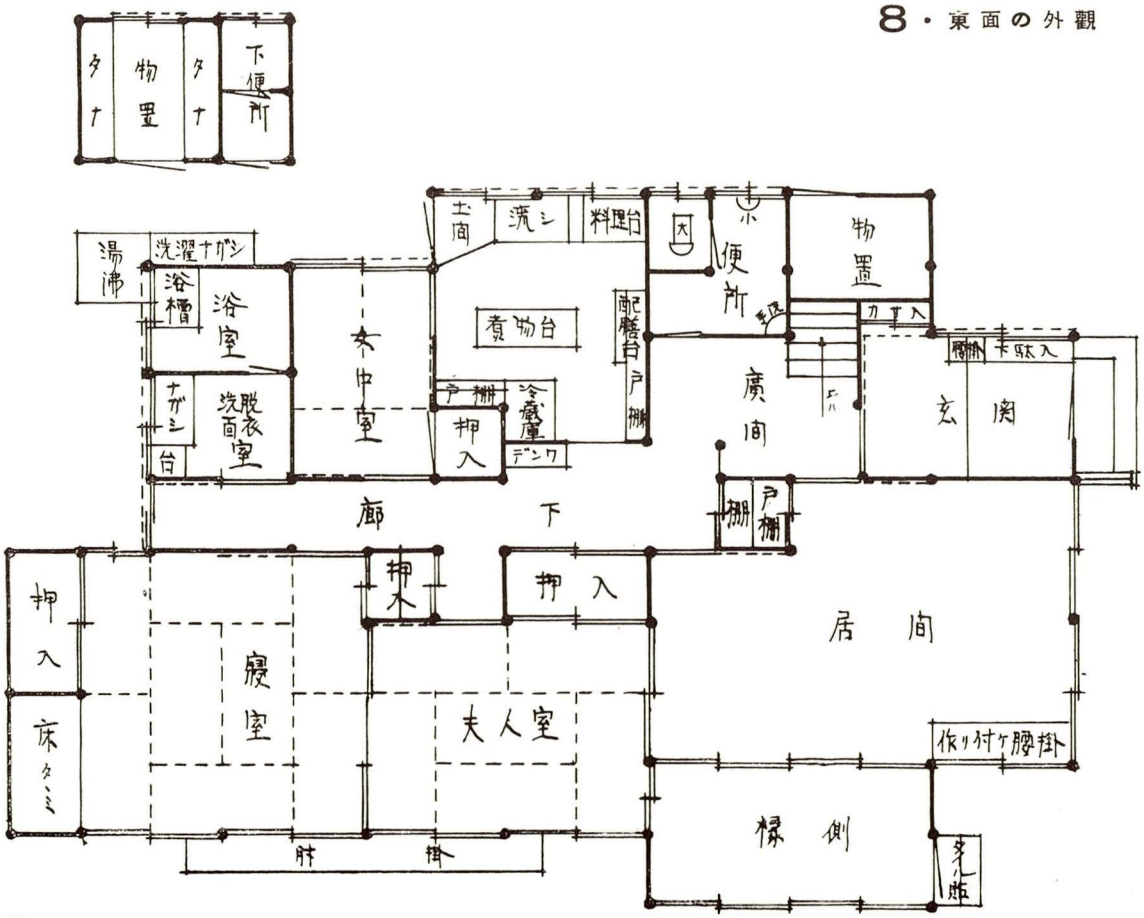
西 面 圖

7 ・ **外觀略設計圖** 柱は中心線にて、窓の高さは内法にて、屋根は棰下端にて示す

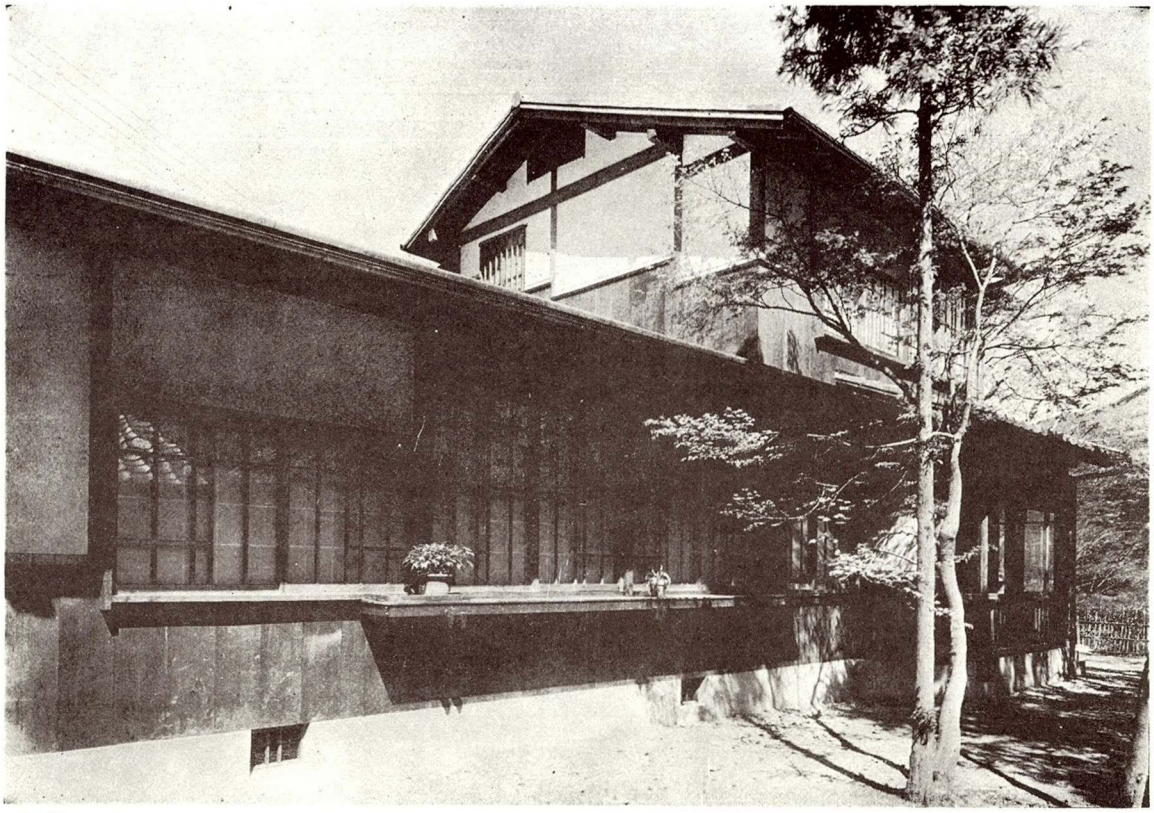
汐見氏邸（京都）　　設計 工學博士 藤井厚二氏



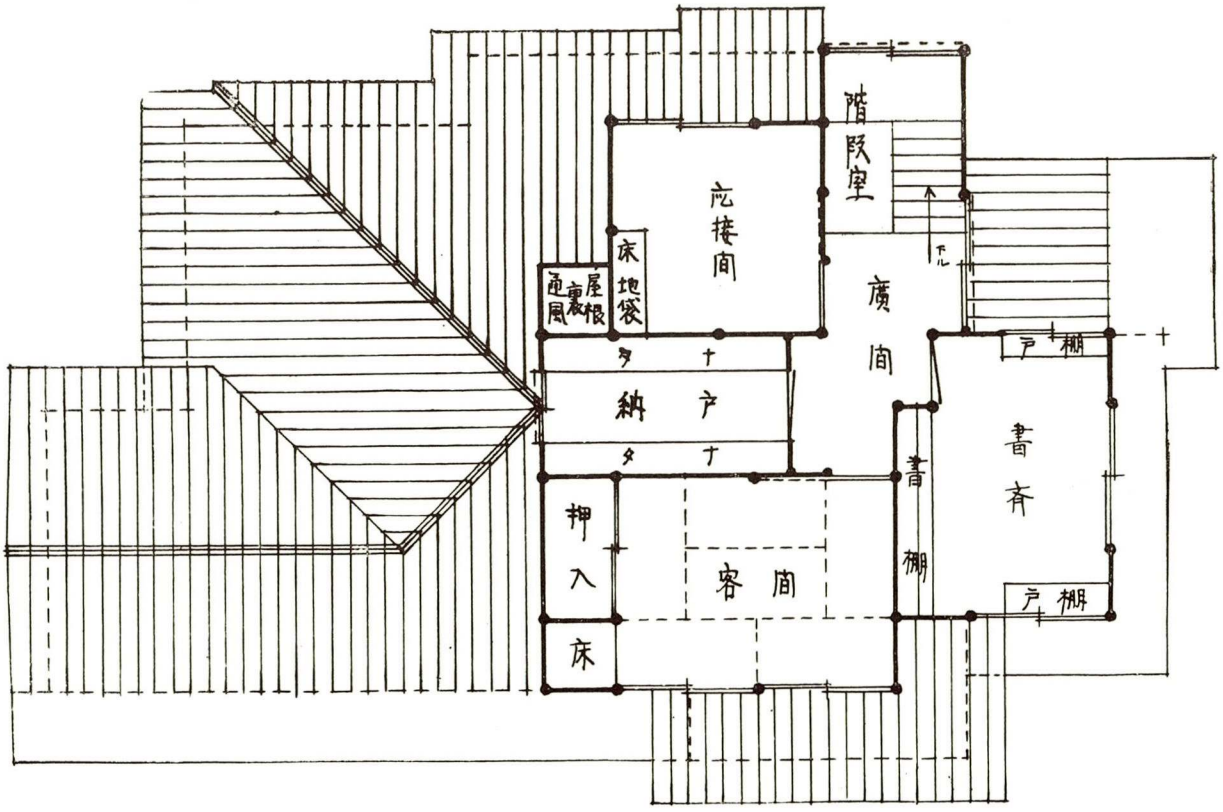
8・東面の外観



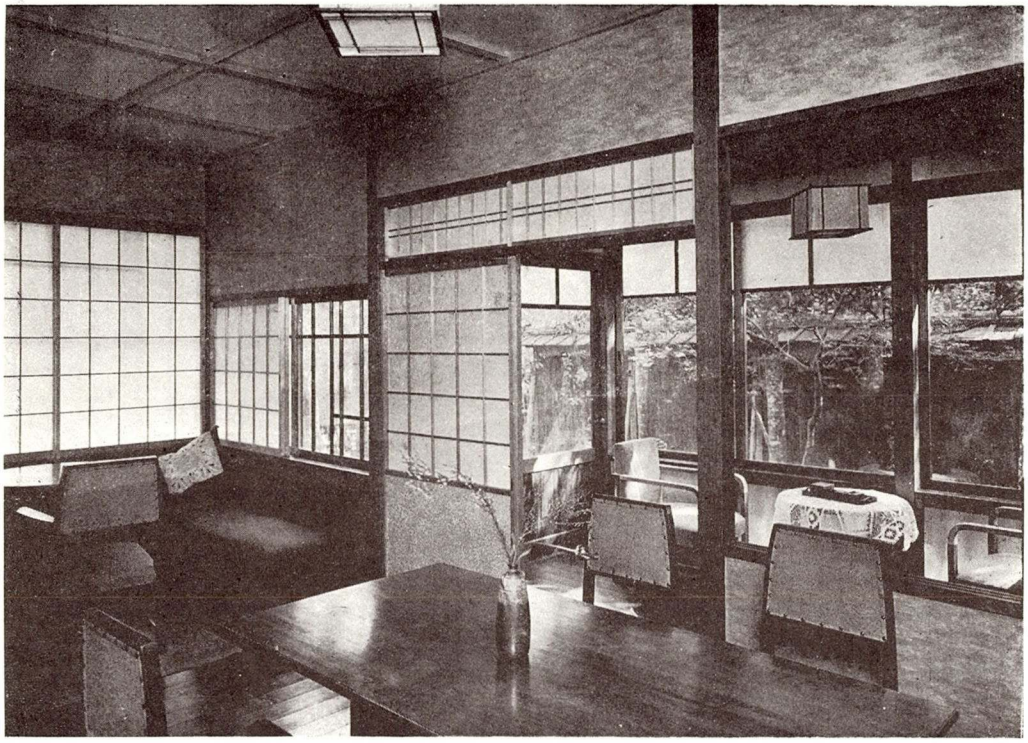
9・第1階平面圖



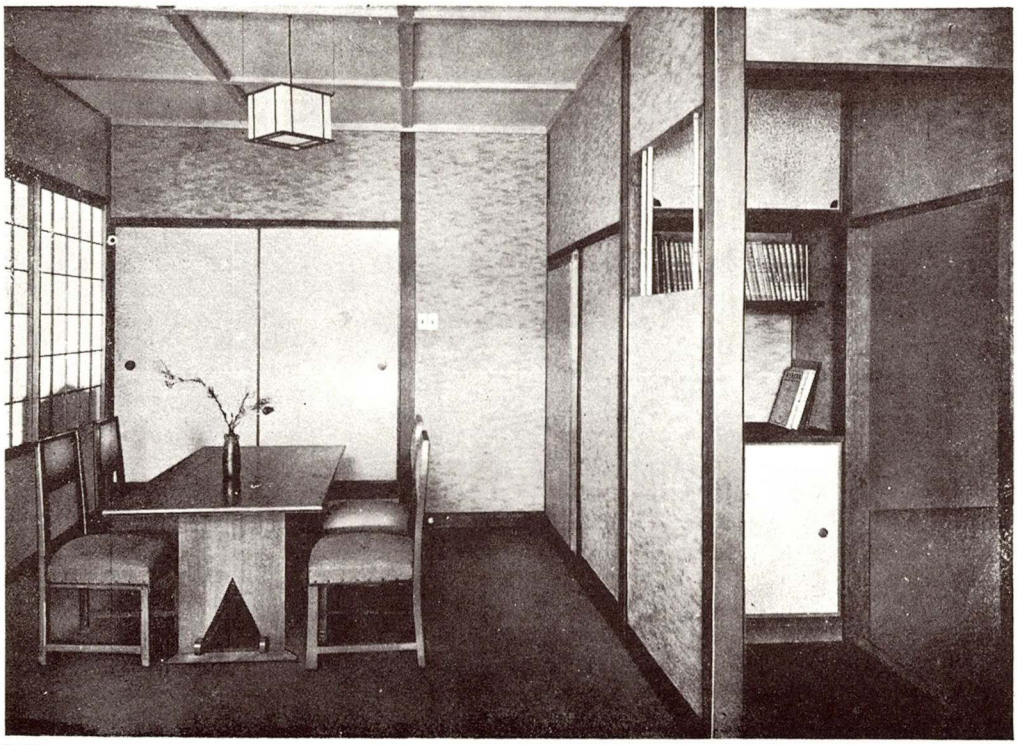
10・南面の外観



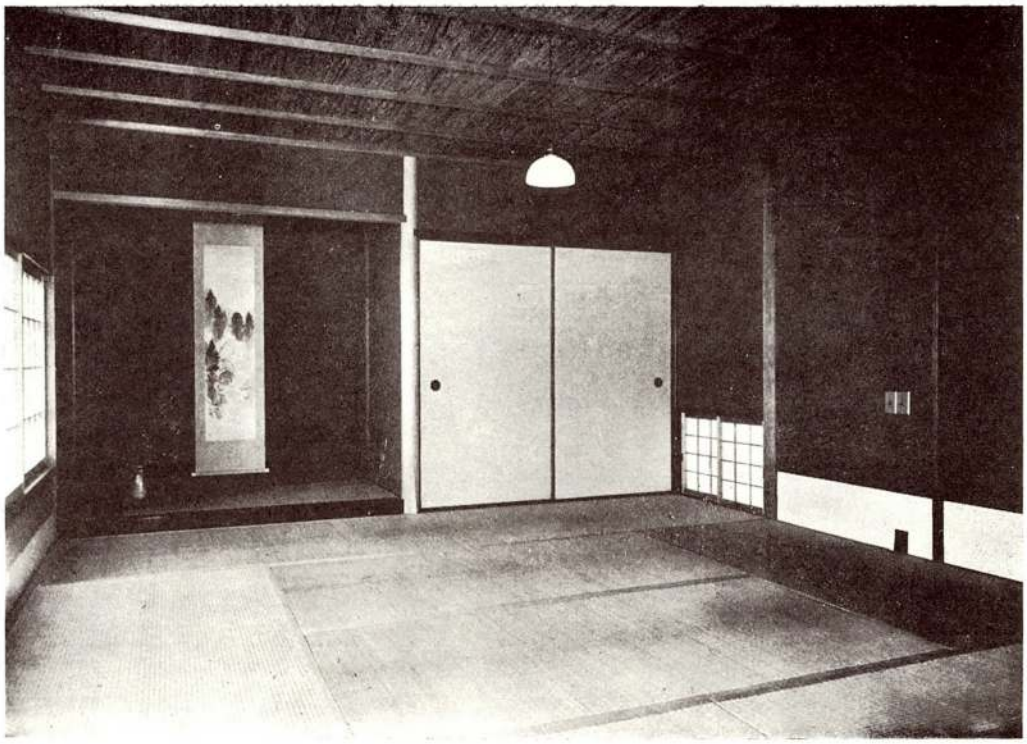
11・第2階平面圖



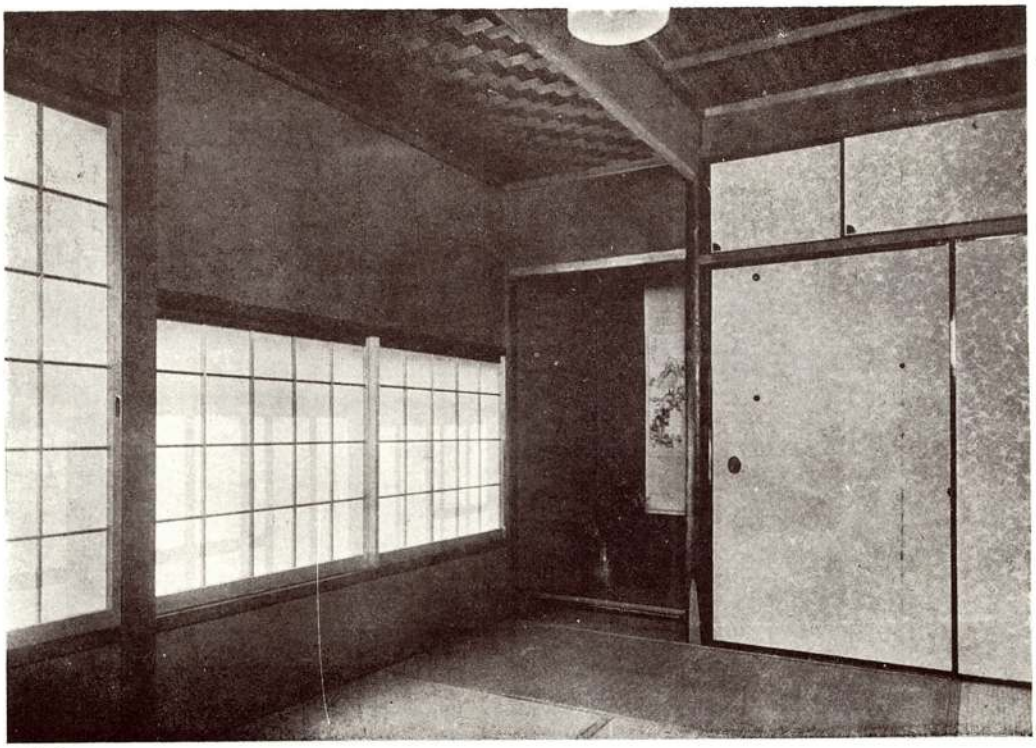
12・腰掛式の居間兼食堂



13・腰掛式の食堂　上圖の向つて右の部分



14・座式の寝室(1階)



15・座式の客室(2階)



御影の高みの場所を敷地として海一帯を懐ろにしたいと云ふ位置を占めたスパニツシ好みの家

16・外　觀



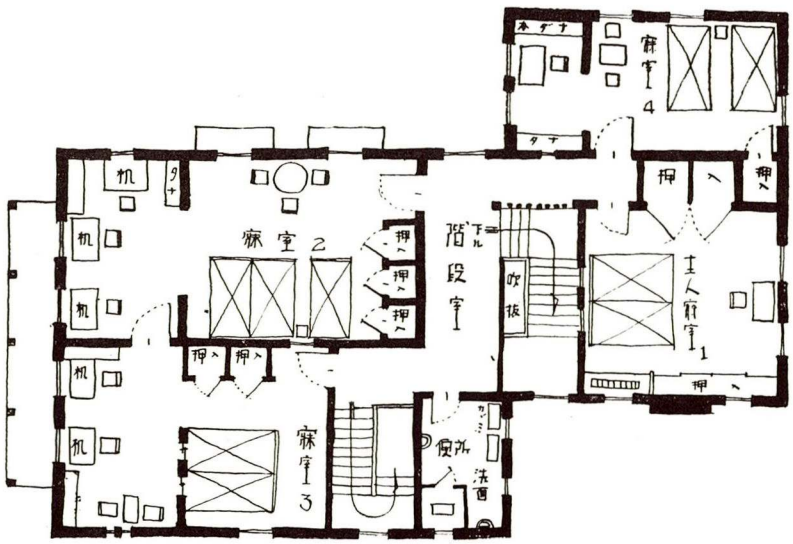
1階　46.48
2階　41.47
展望台　2.04
　　89.99

17・1階平面圖

左手和風住居、右手洋風趣味の住居兩方の中間にある此玄關が程よく大事な役目を働いてくれて居る

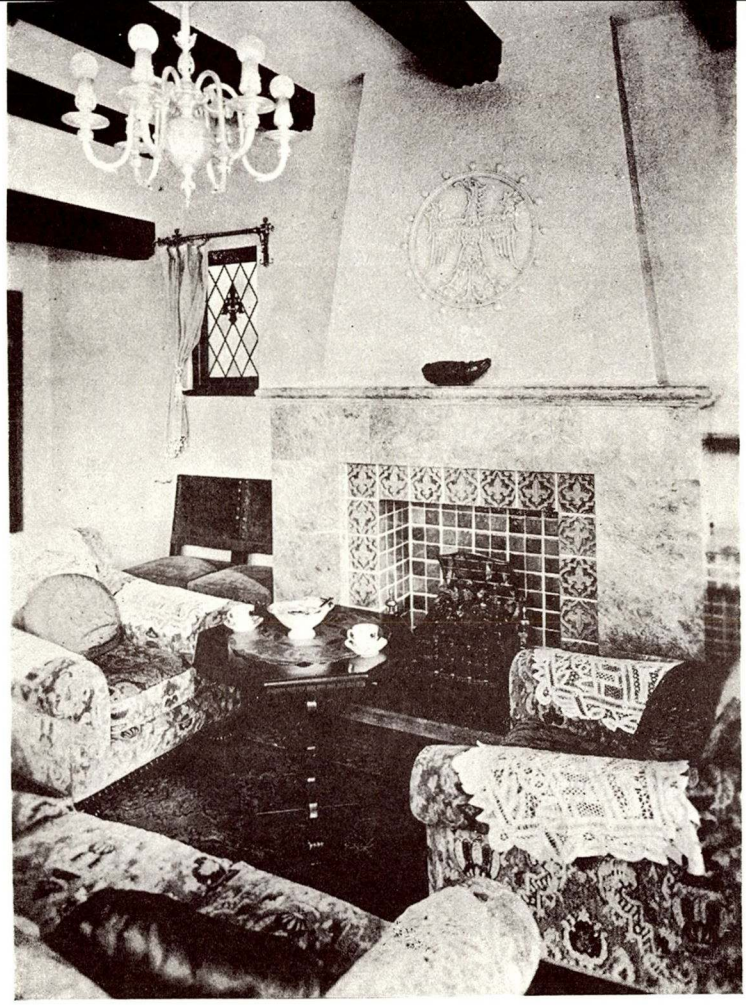


18・玄　關



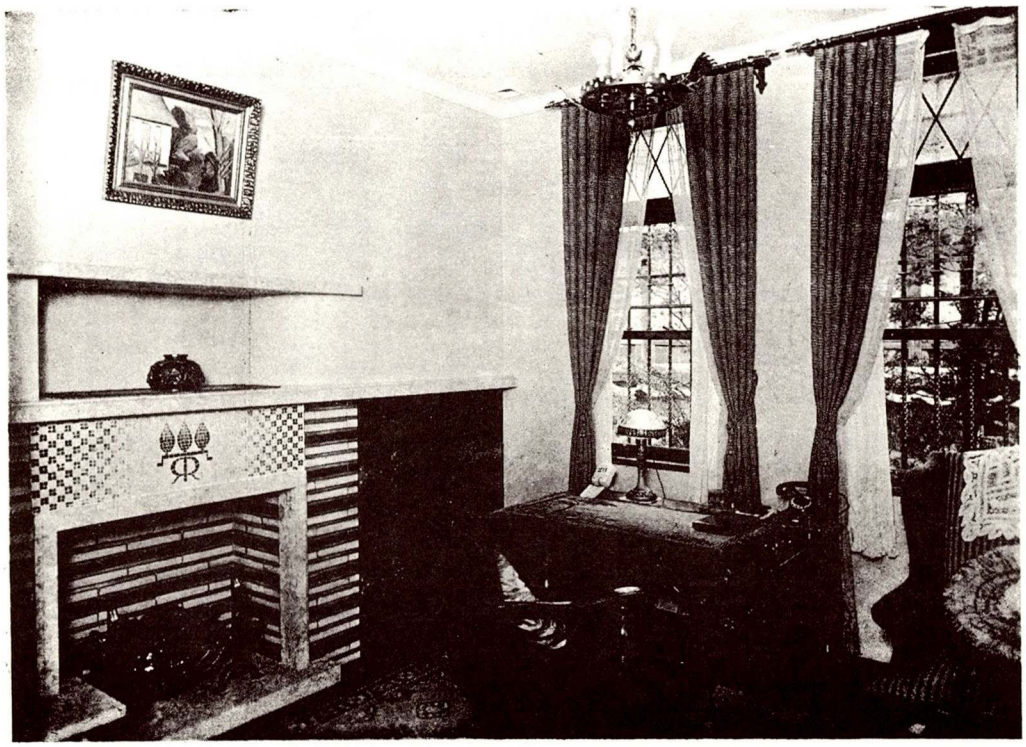
19・2階平面圖

濱崎氏邸（阪急・御影）



家の人は尚更のこと來訪者もコンホータブルな氣持でと云ふ……應接兼居間である

20・應接室兼居間



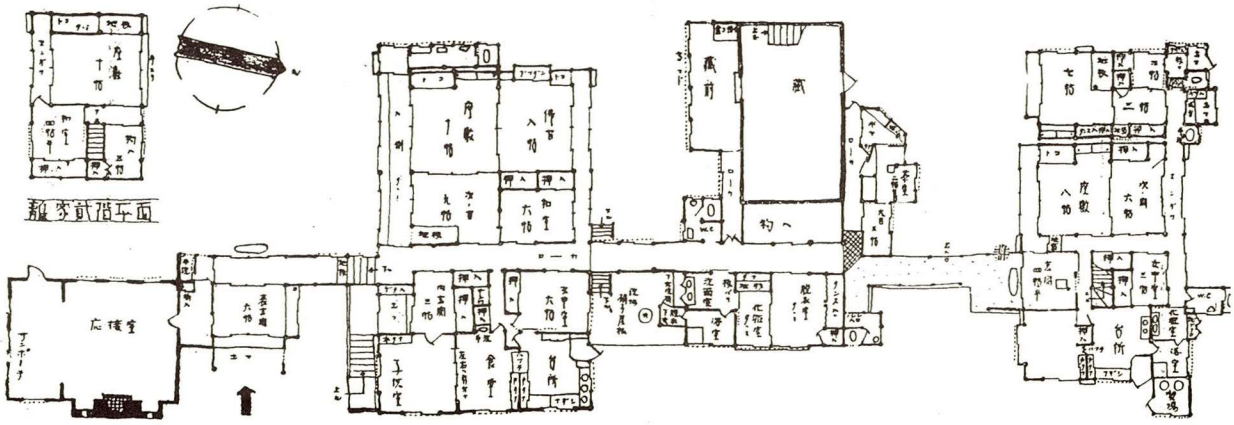
暇のまにまに落付いた氣分で讀書もしてみたいと云ふ趣旨で出發した讀書室

21・書齋



22・玄　關

芦屋寄りの小高い位置へ自然の高低のまんまに建てられた家の和風趣味玄關

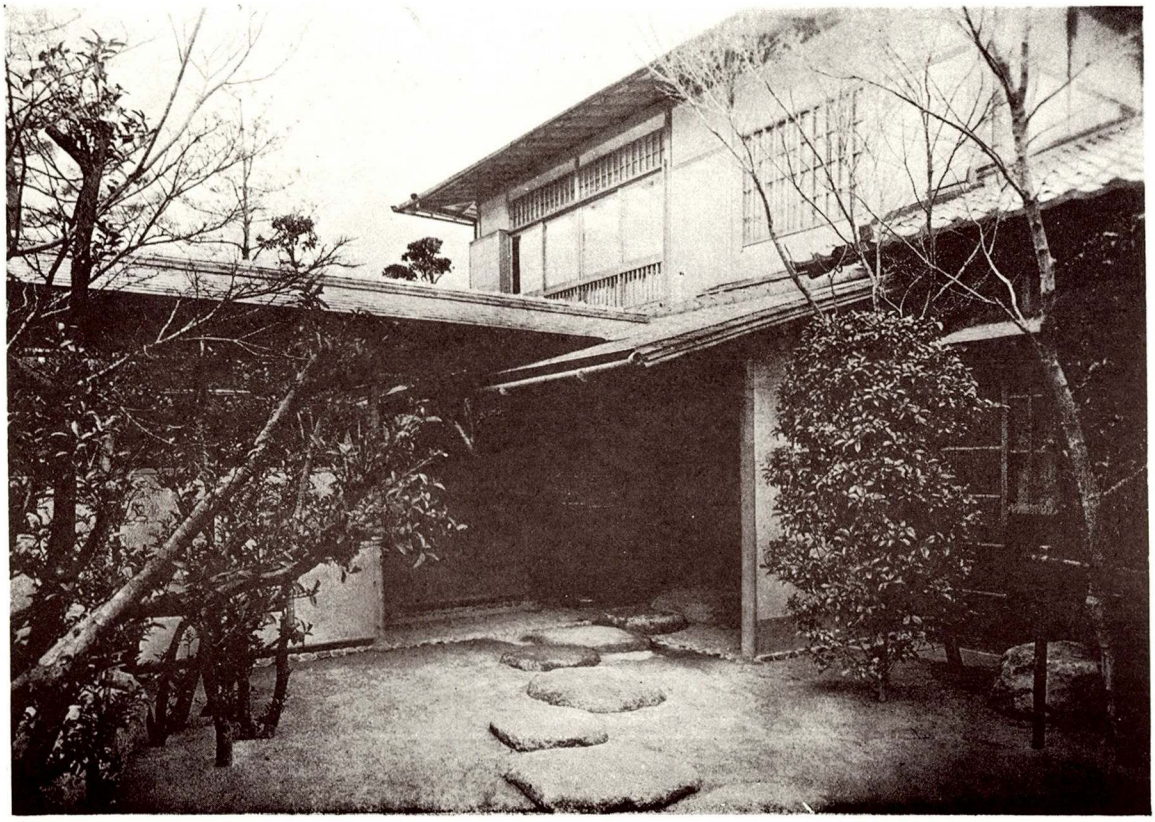


23・1階平面圖



右手洋風構の應接の家が正面からすると左側になつて何れも室々が庭を取圍んで利用する事になつてゐる

24 ・ 庭園よりの外觀

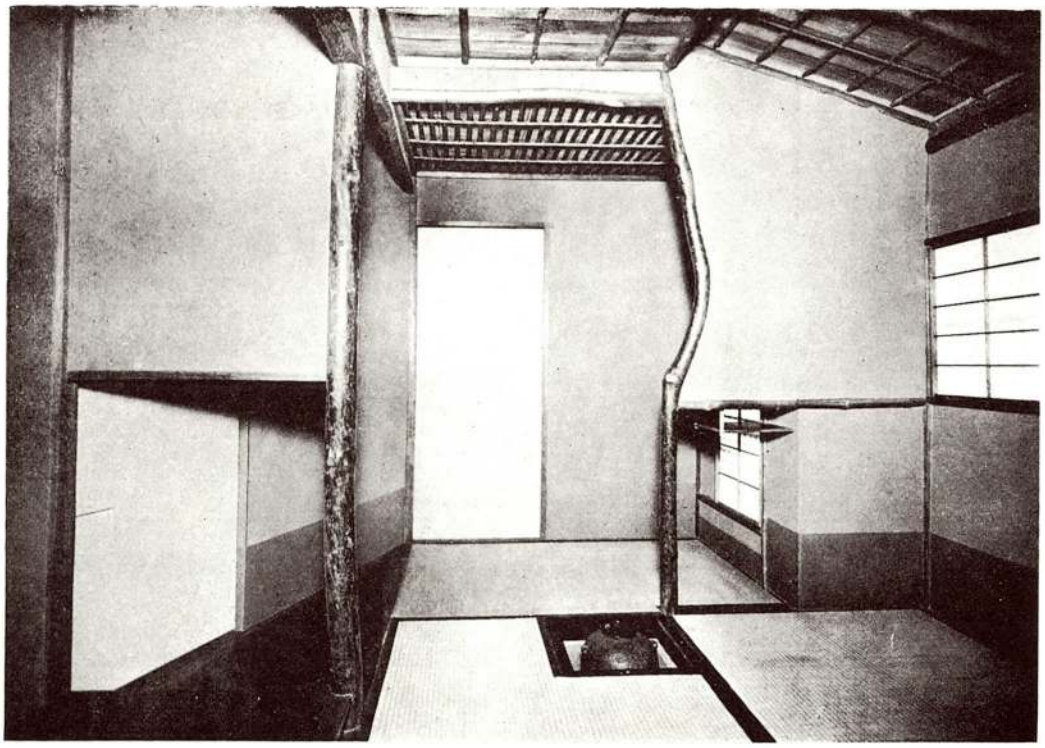


數寄屋趣味になつた奥離れの老人の爲めの家の出入口

25 ・ 離れ家玄關



26・茶室外觀

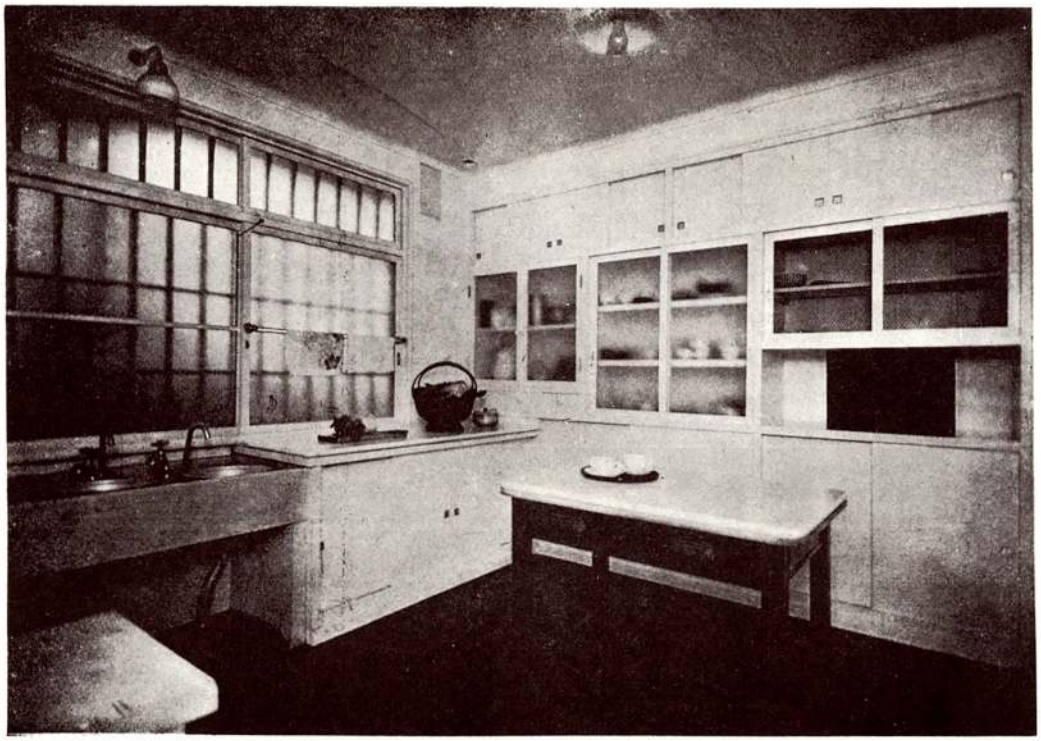


27・茶　室

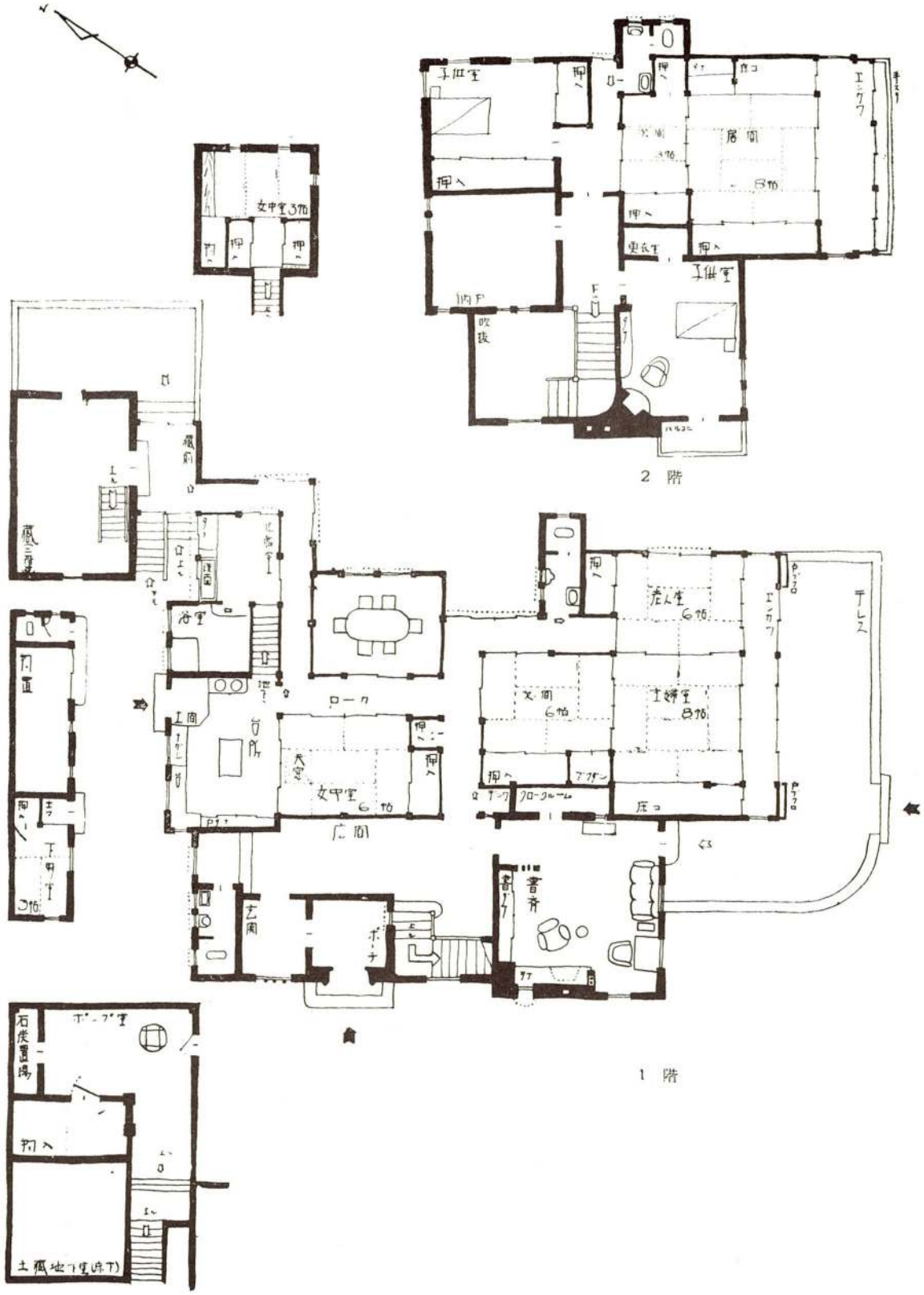


28・應接室

來客の爲めには應接となり家の人の爲めには居間にも使ひたいと幾重にも利用しようといふ室



29・臺　所

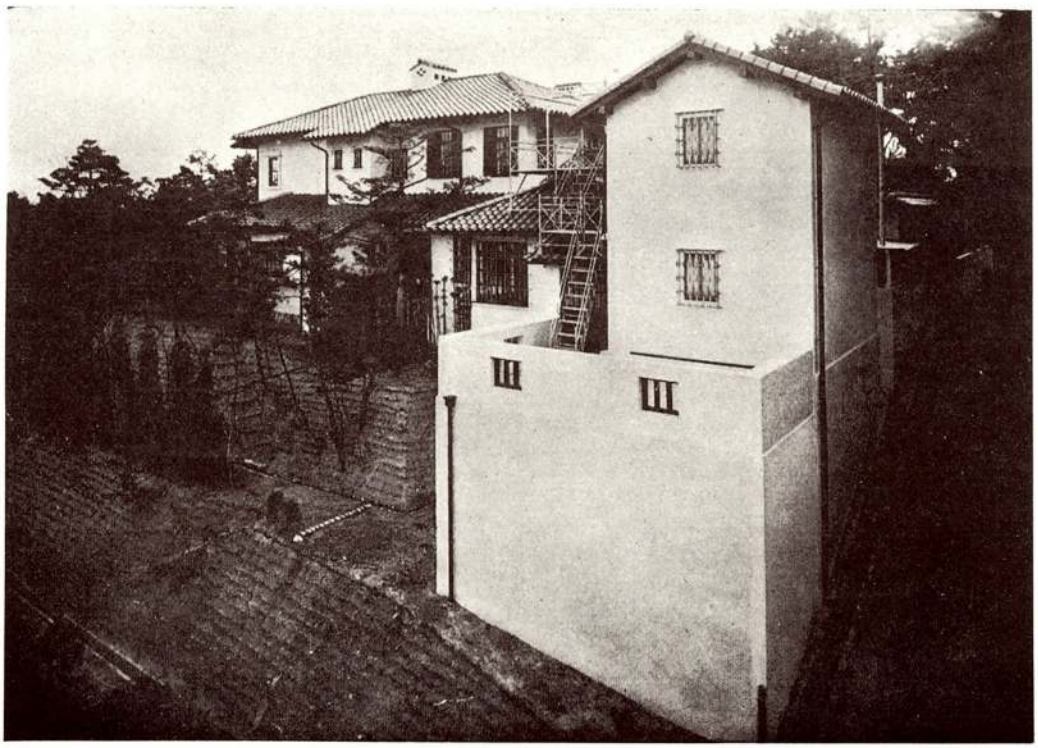

2 階
1 階
女中室3帖
居間
8帖
主寝室
子供室
バルコニ
吹抜
ホール
和室
浴室
ロータ
女中室 6帖
広間
玄関
ポーチ
書斎
食堂
6帖
主婦室
8帖
フロールーム
テラス
ポンプ室
石炭置場
物入
土瓶地下室(床下)

30・各階平面圖



夙川丘陵地のどんどろ坂を上りつめた南に面したスパニッシュ構えの家の正面出入口廻り

31・正面玄關



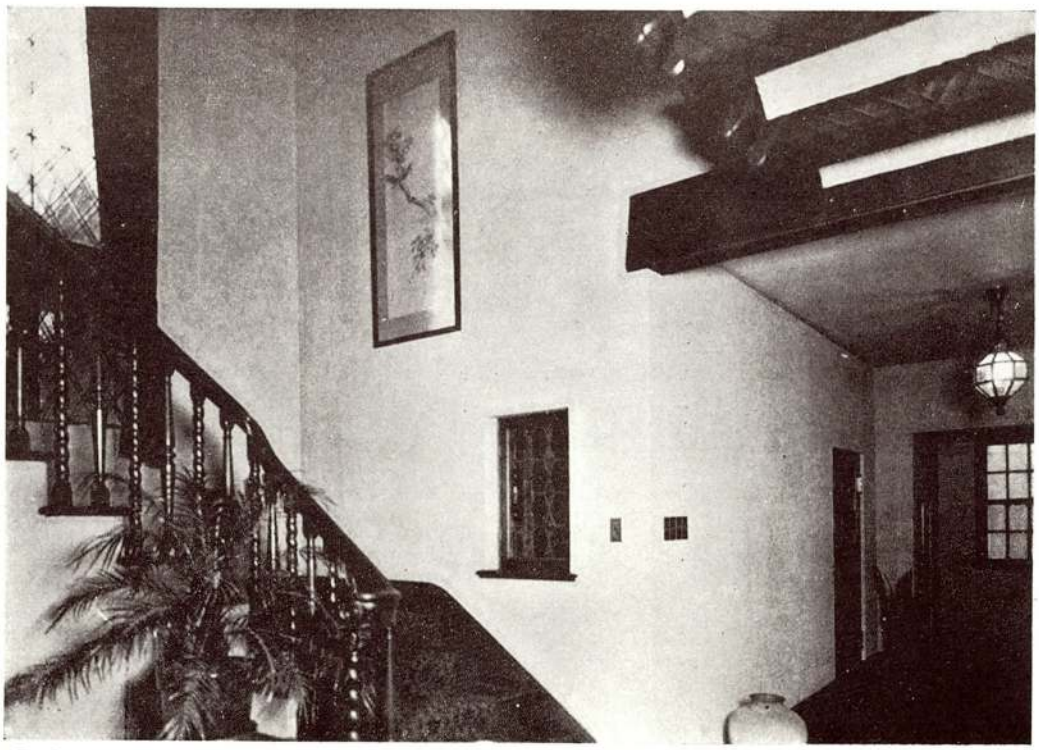
正面眼下はフアインクレストのバルコンと相對し少し離れて甲山を視界に取込んで春先から夏にかけての眺めは一入ほの場所である

32・背面外觀



キツタテに建つて坐りながら山も海も一望のうちに取入たいと云ふ東南北三方眺望室

33・テレース廻り



スパニツシュ趣味を振かざした階段室の一部

34・ホール



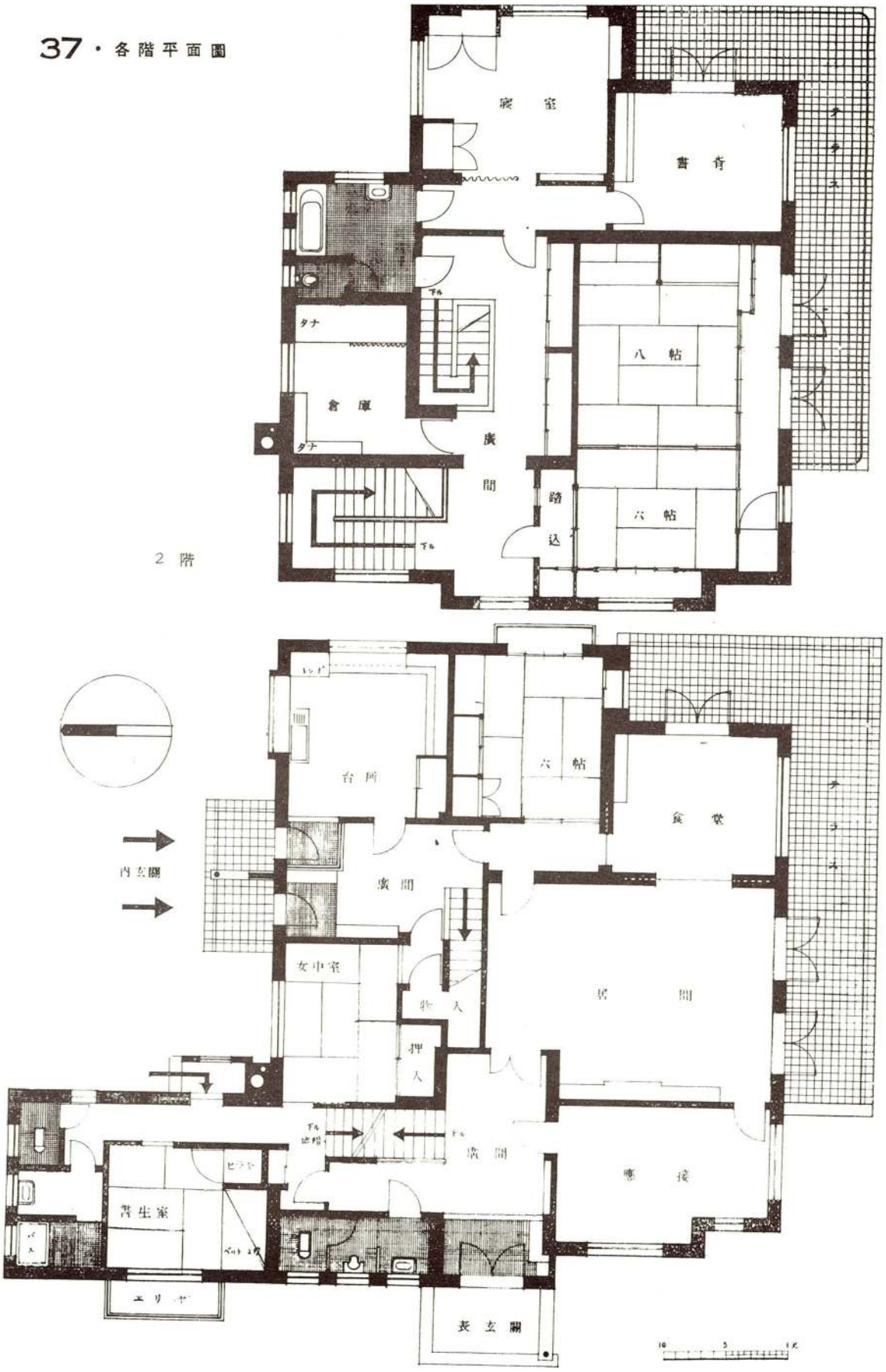
ふだんは主人室の書齋であるが昵懇の人の訪問の折には談話室にも應接室にもなる室

35・書　齋



東南に面して居る面皮好みの日本室

36・日本座敷

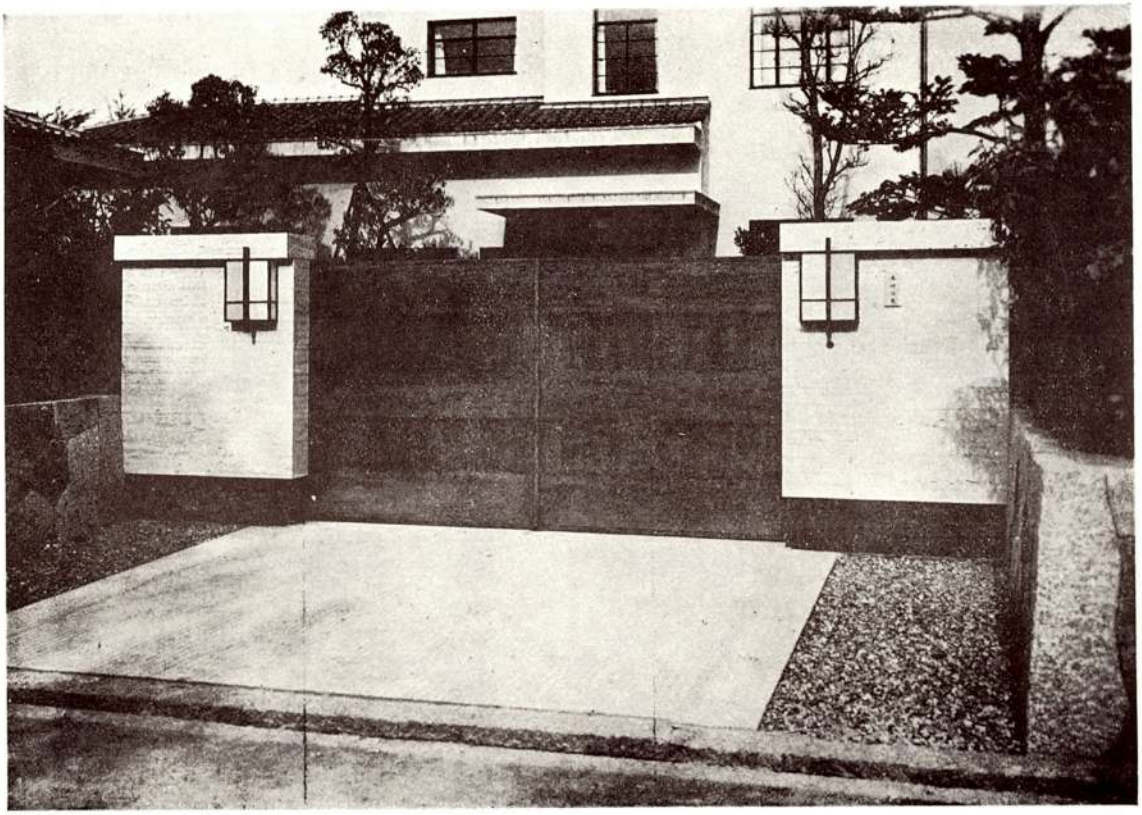


木村氏邸（大軌•小阪）

設計 中西六郎氏



38・正　面

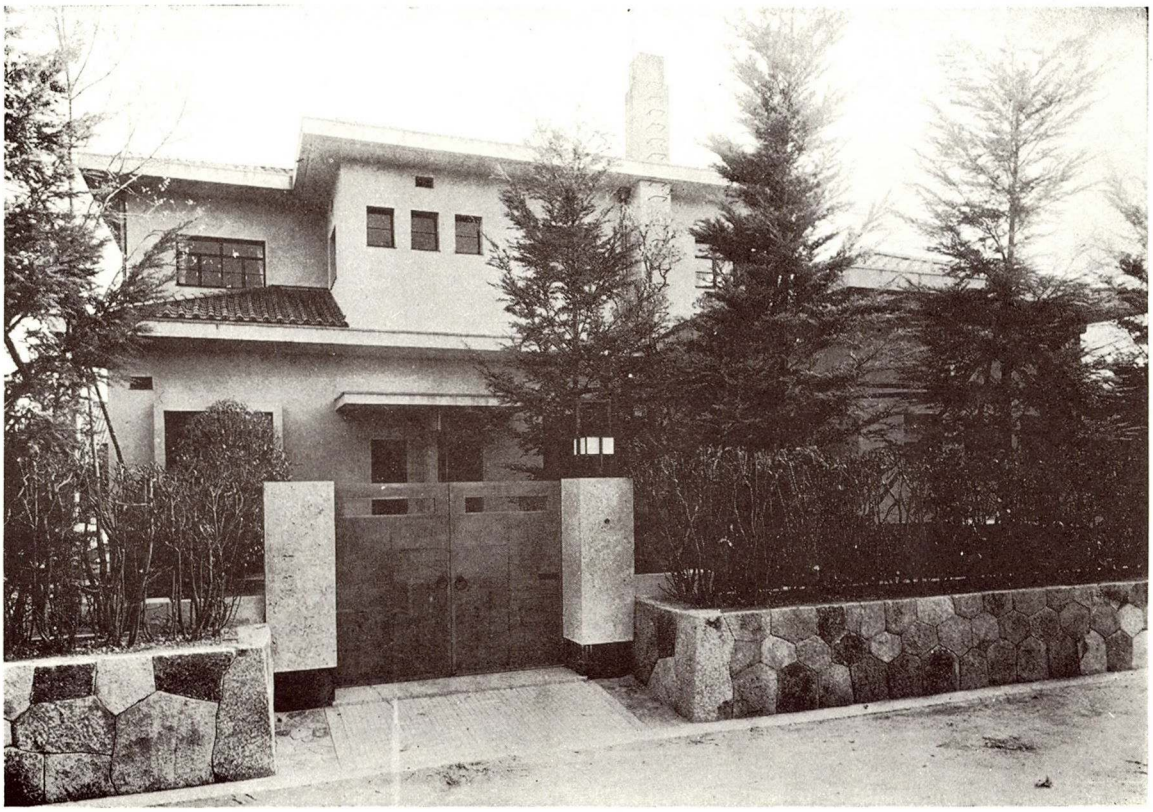


39・表　門

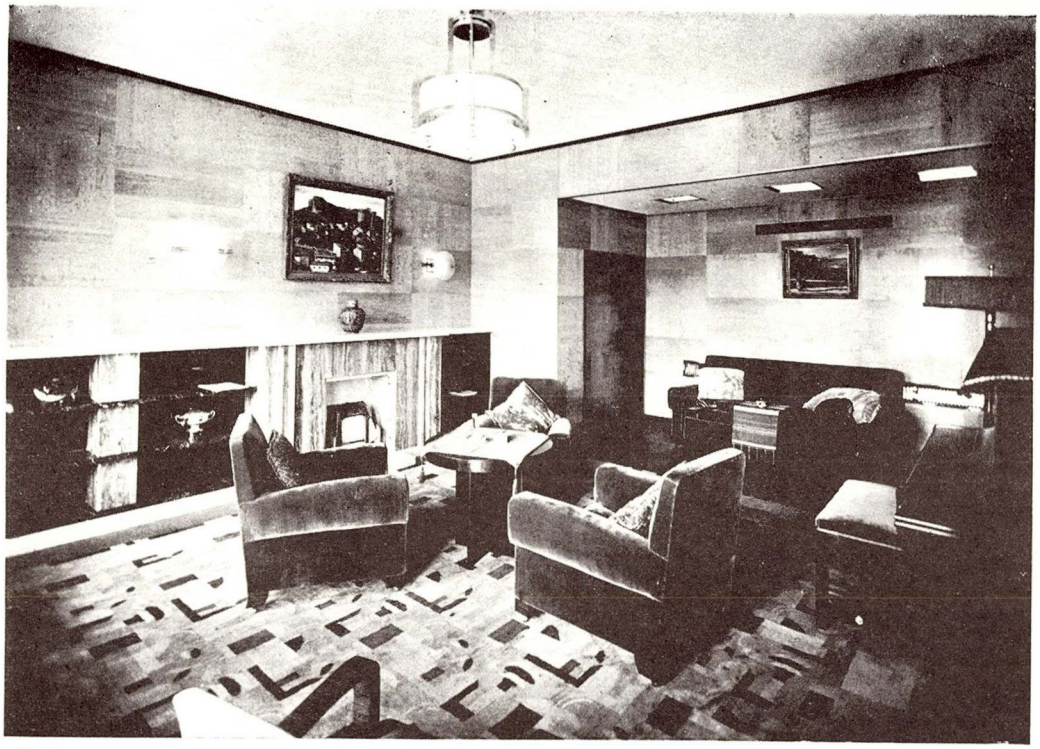
木村氏邸（大軌•小阪）



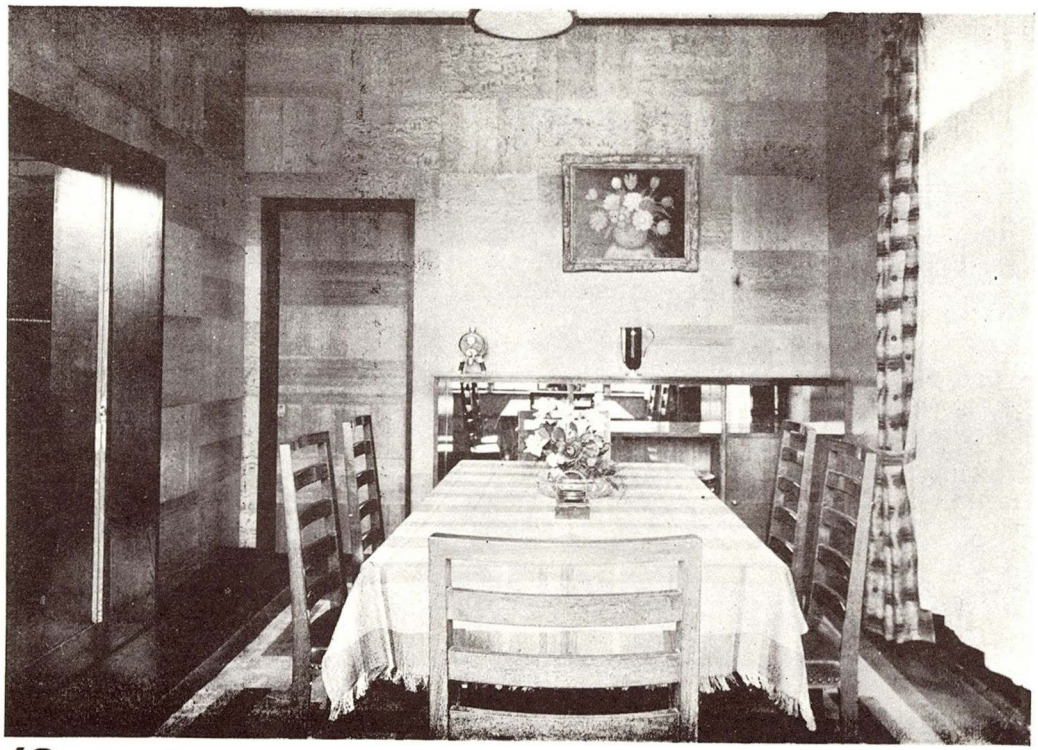
40・庭　面



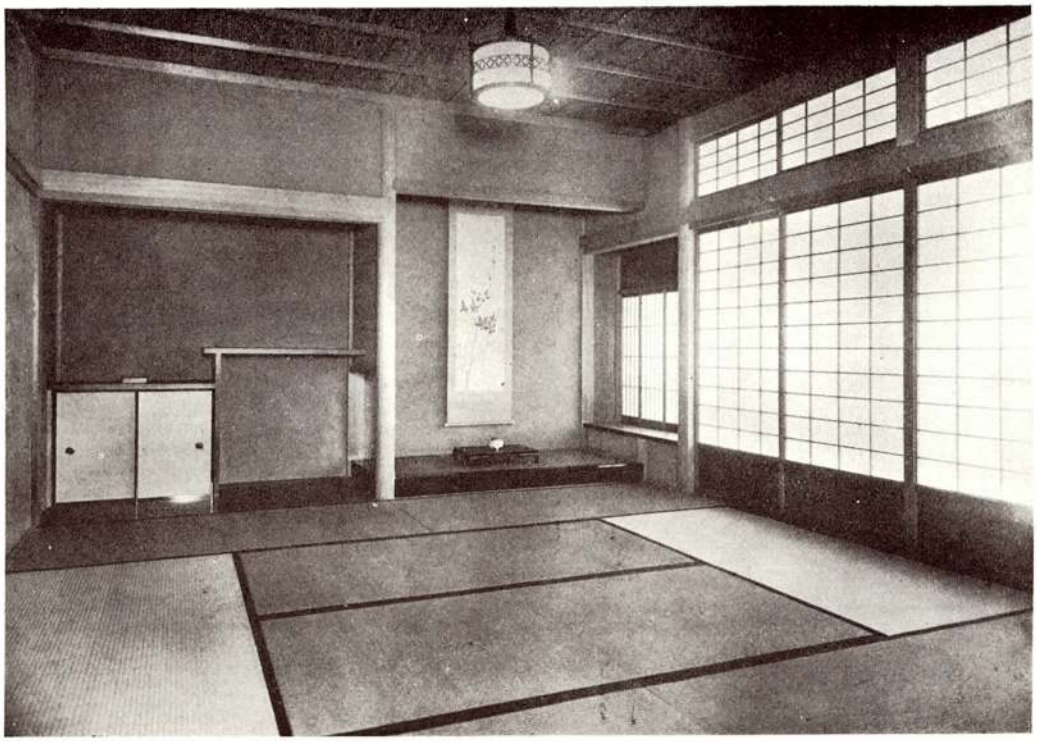
41・北　面



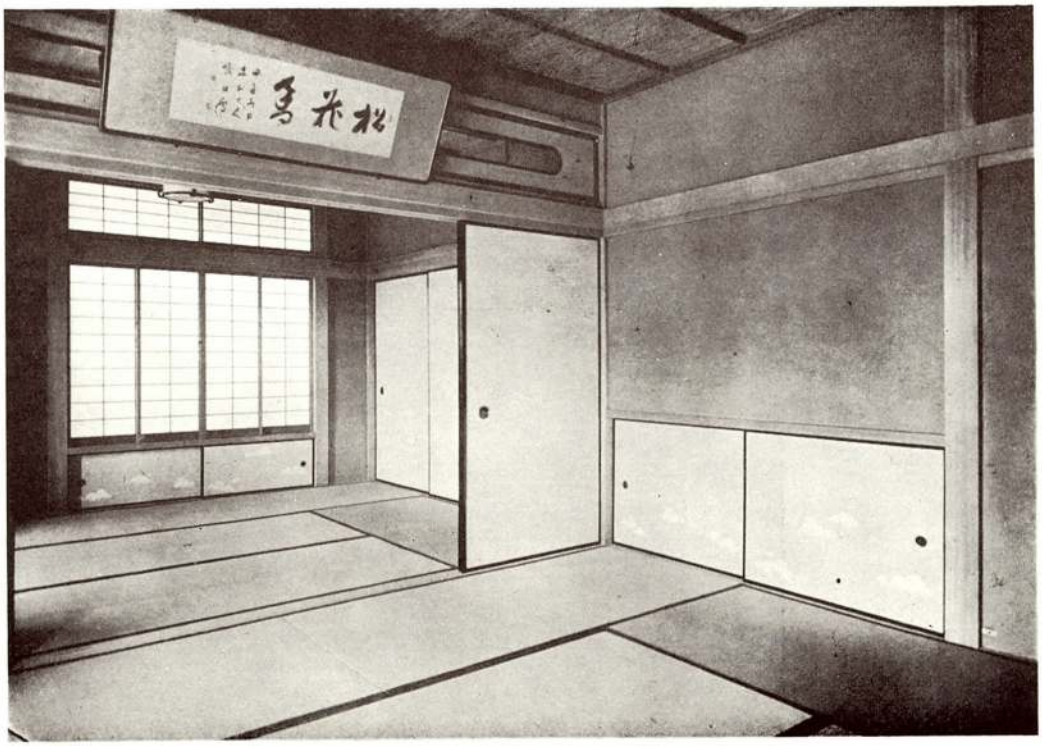
42・居　間



43・食　堂

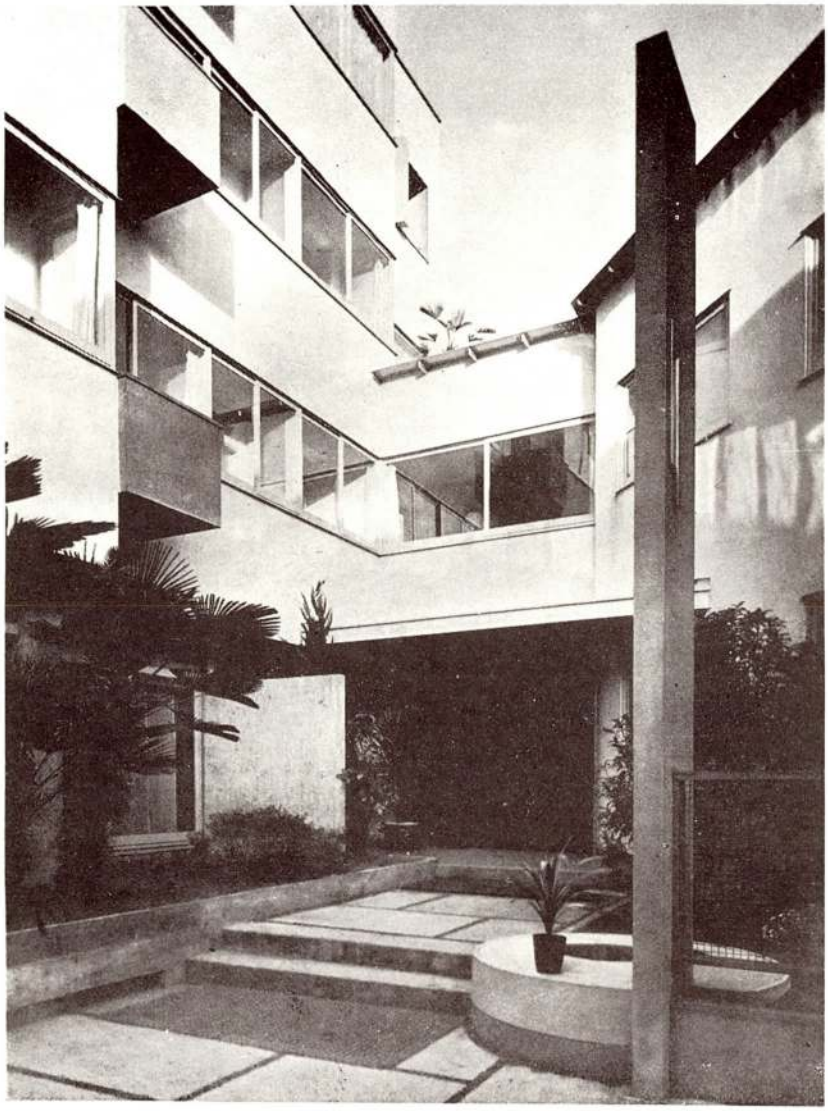


44・2階日本座敷

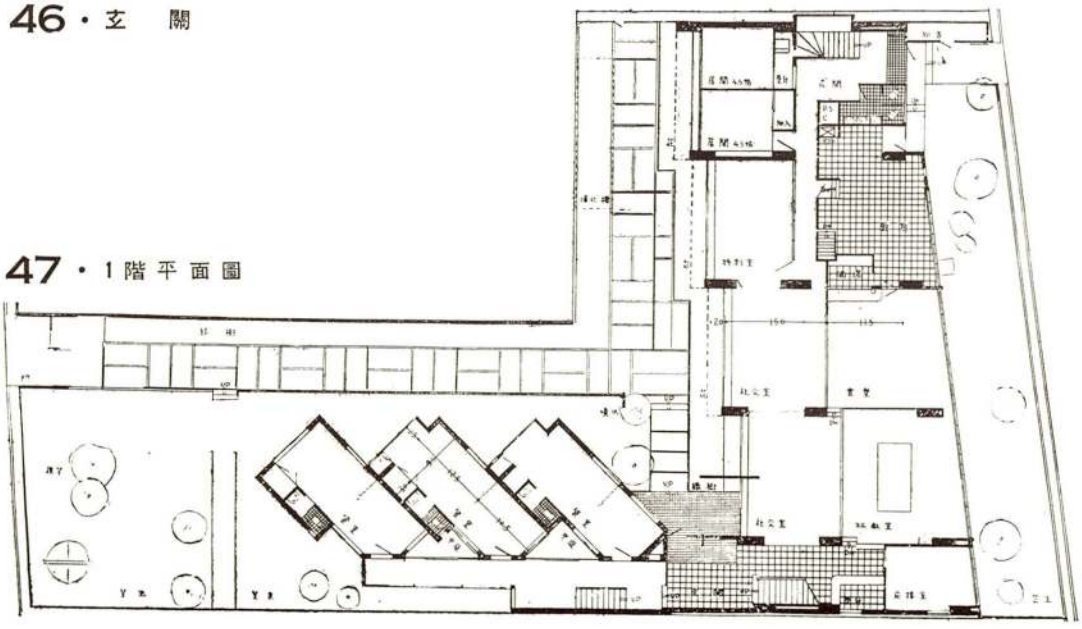


45・同　上

木村氏邸（大軌•小阪）　設計　中西六郎氏

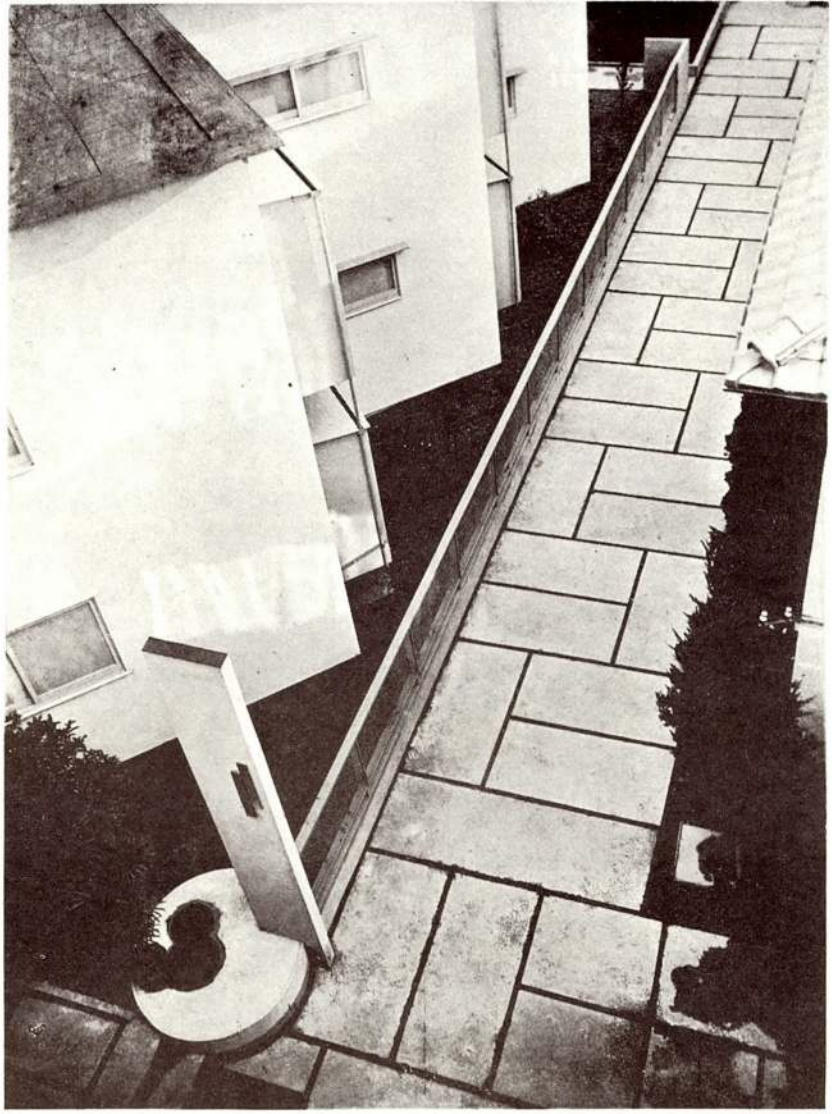


46・玄　關

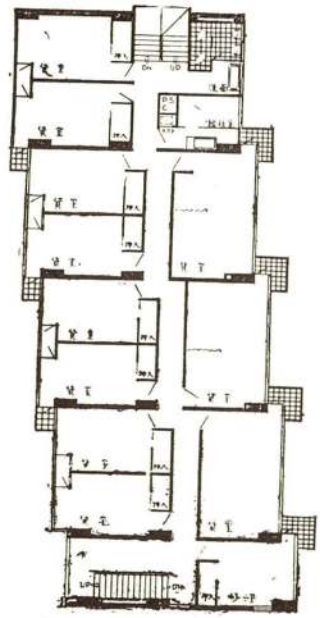


47・1階平面圖

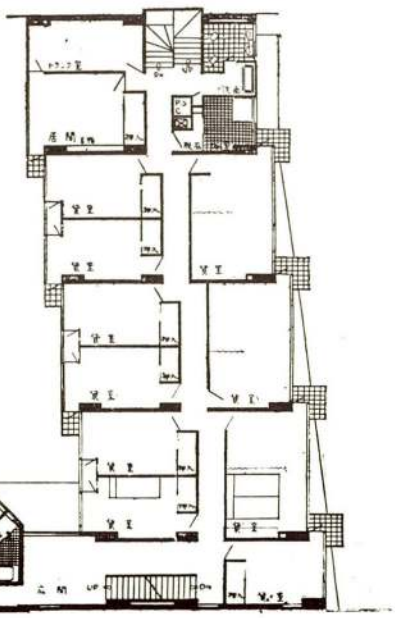
48・屋上より玄関前を見下す

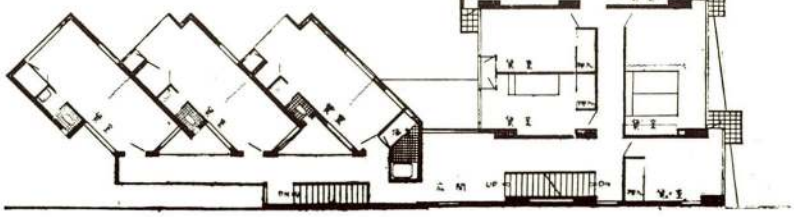


49・各面平面圖

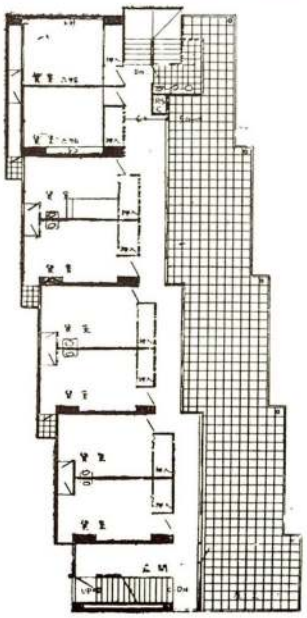


3 階





2 階



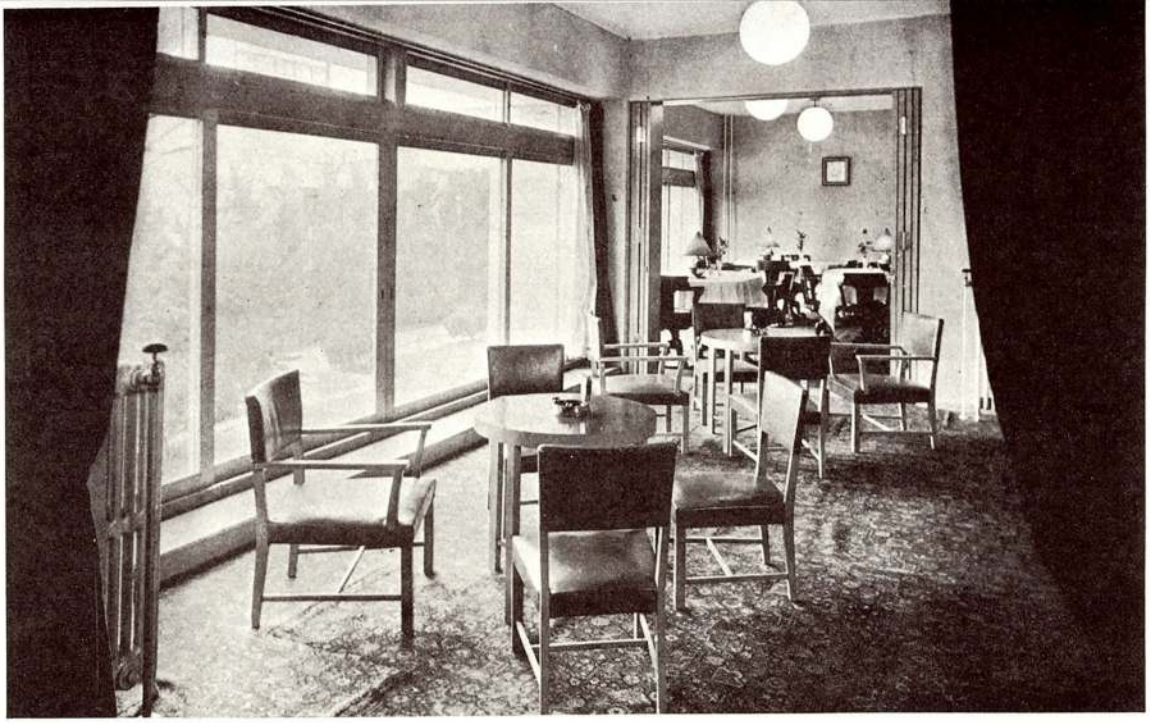
4 階



50 ・ 南側（玄関より見上る）



51 ・ 外觀（正面入口より）

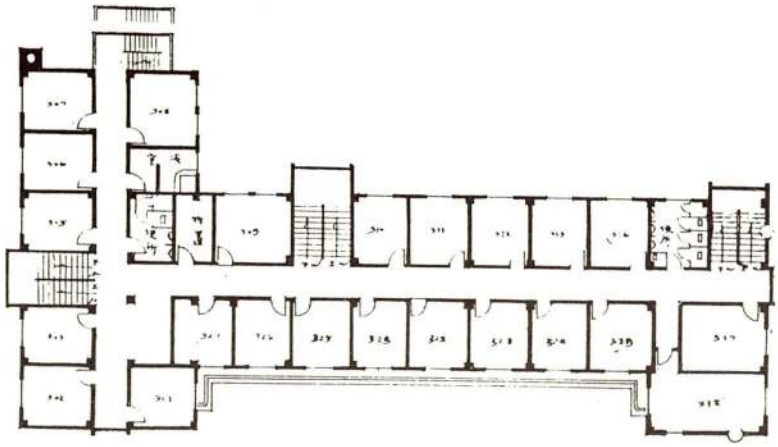


52・談　話　室

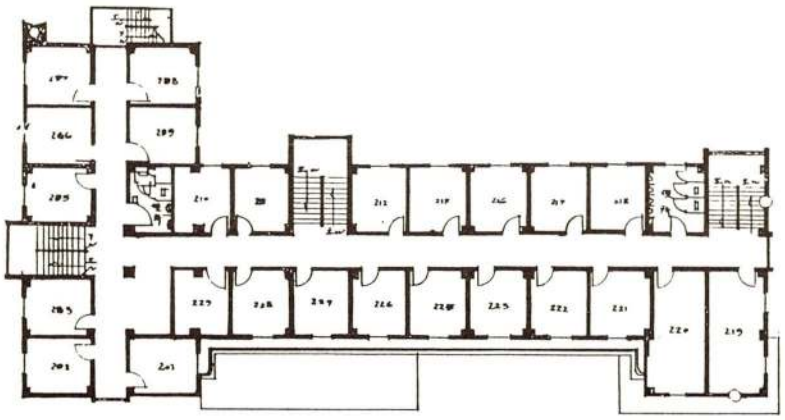


53・玄關ホール

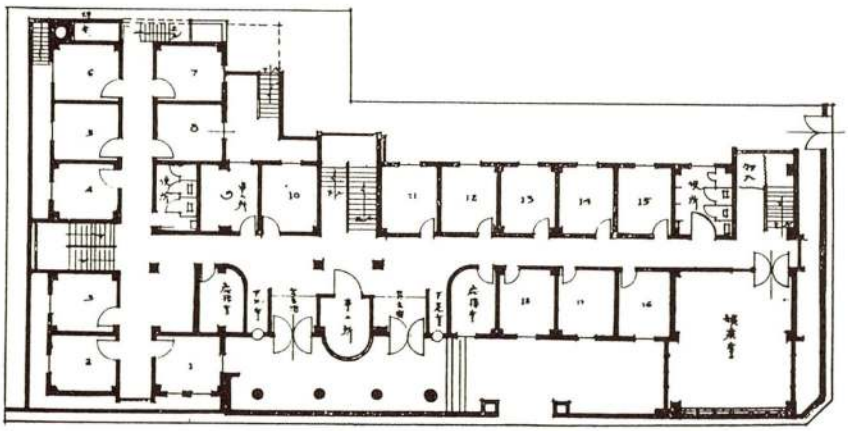
大阪パンシオン　　設計　村野藤吾氏



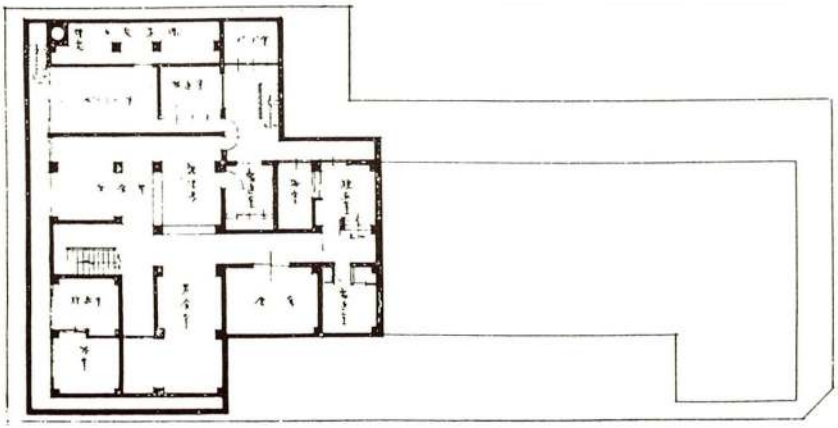
3 階



2 階



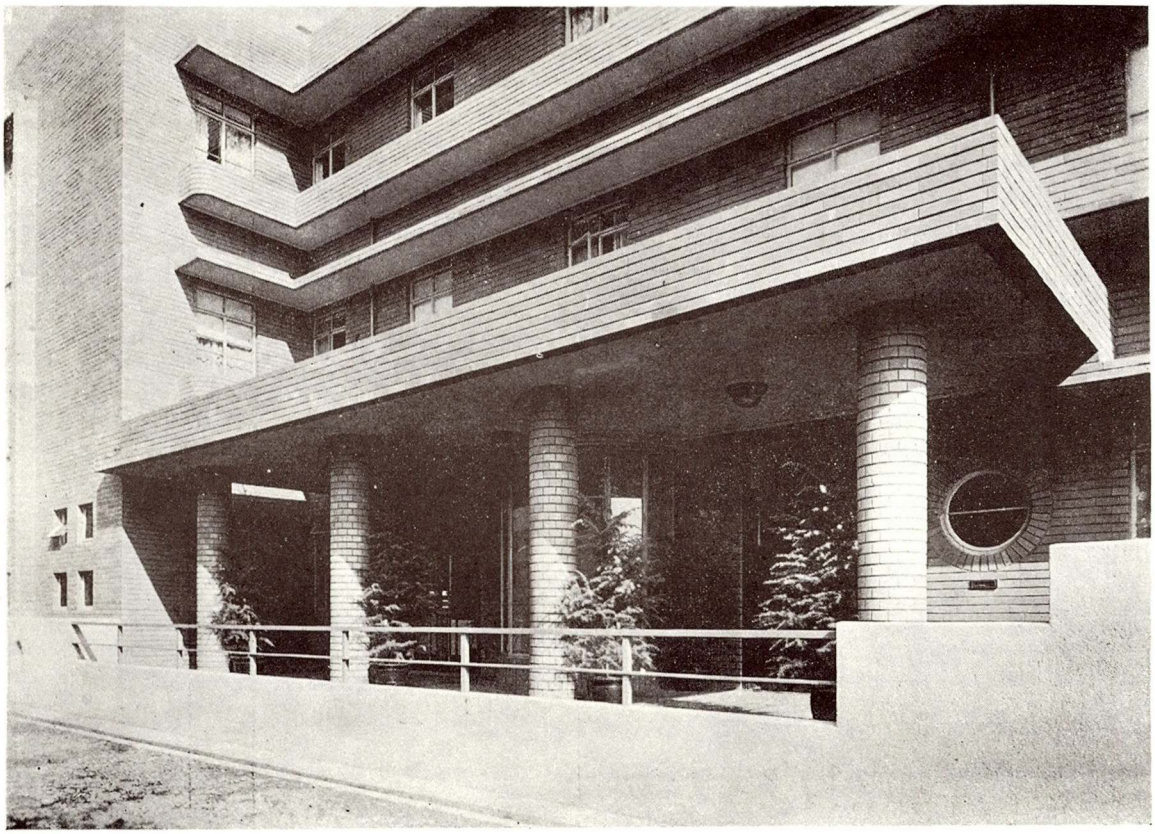
1 階



地 階



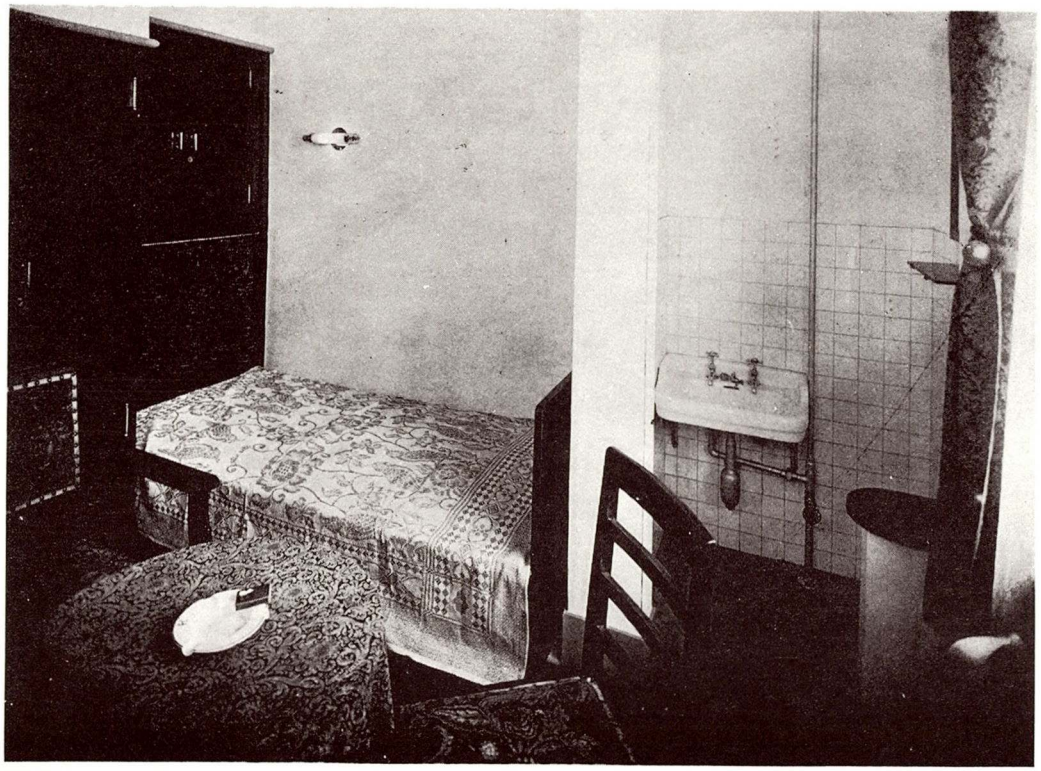
55・外　觀



56・外部正面入口



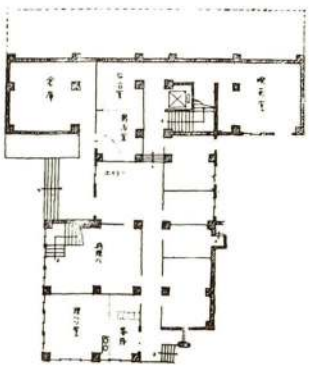
57・一般貸室



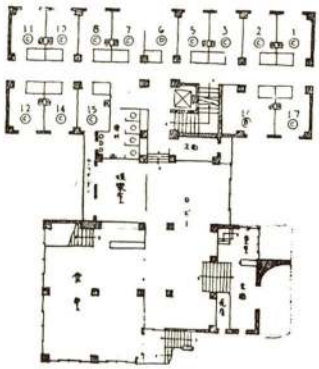
58・一般貸室



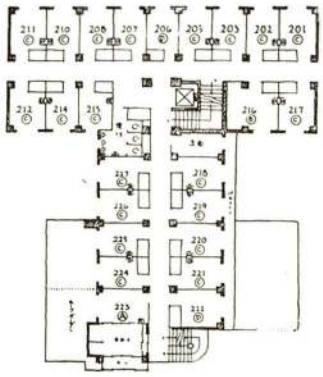
59・外　観



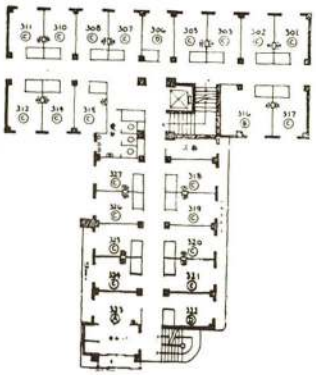
地　階



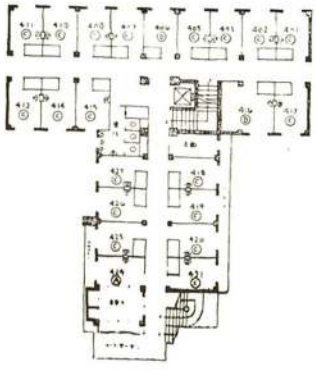
1　階



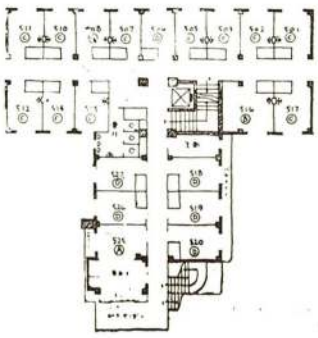
2　階



3　階



4　階



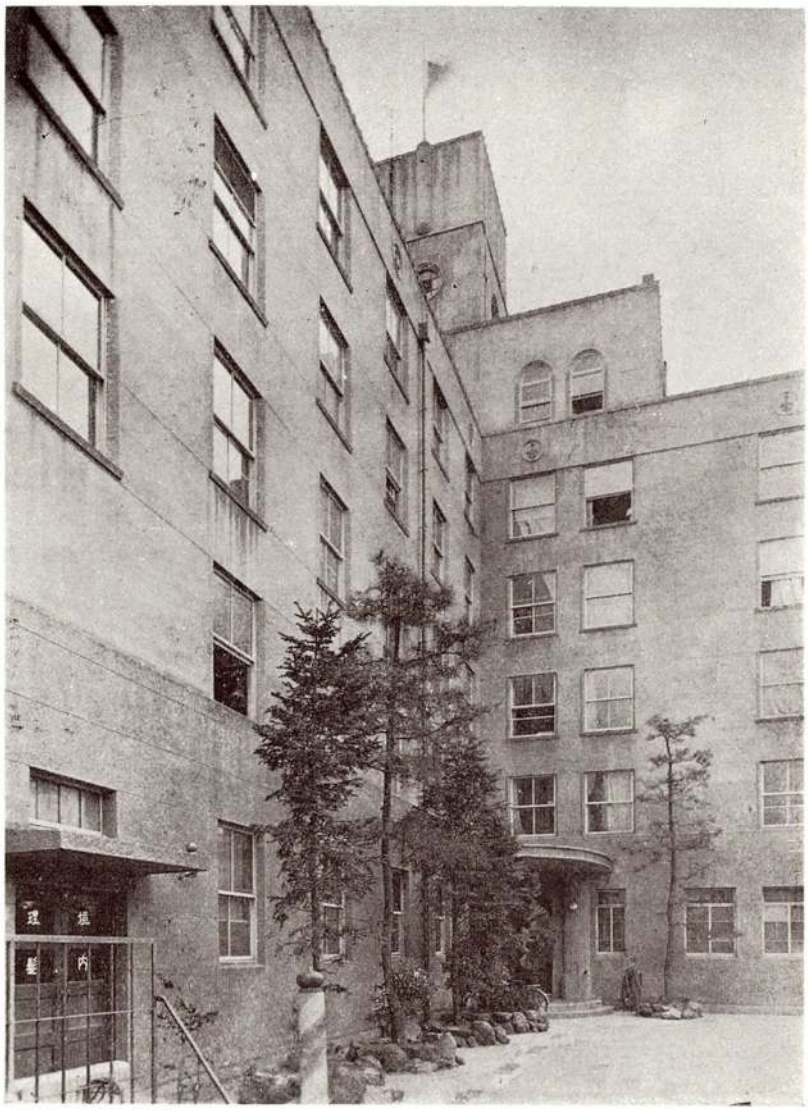
5　階

60・各階平面圖

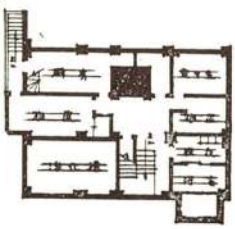
洛東アパート（京都）

設計　土浦稲城氏
施工　安倍工務店

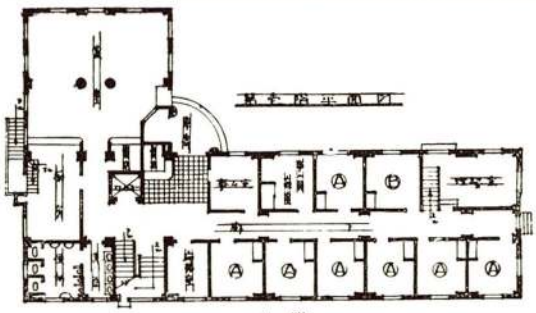
61・外　観



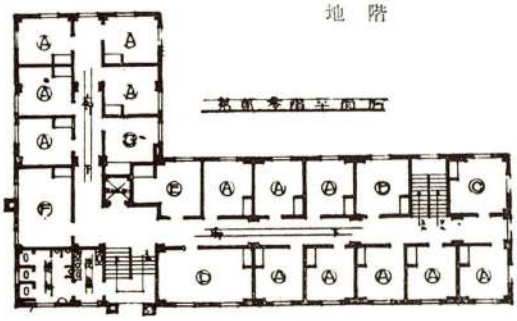
62・各階平面圖



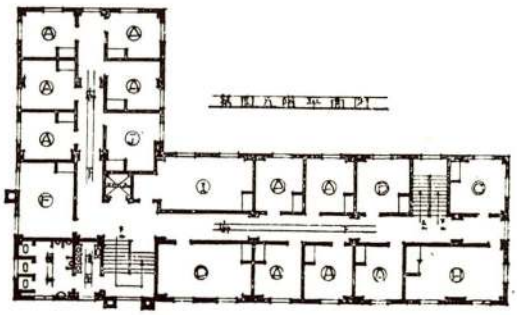
地　階



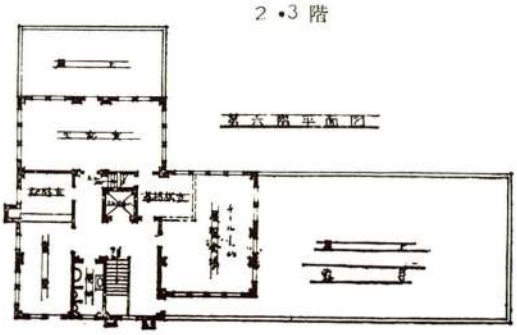
1　階



2・3 階



4・5 階



6　階

VI 34　京都アパート

設計　松村次郎氏
施工　上田工務店

ジードルンク概要

山田守

アパートメントハウスは多く集合住宅と譯されてゐる。最近米國に發達したものがこの字の觀念を支配してゐる様である。それは都市に於ける簡易にして設備の整つた便利な生活に適する事、その多くはホテルと同様に營利的に發達した事、多數の住居に分割使用さるゝ一魂の建物即ち集合住宅である事などが其特徴である。（とは云ふものゝ言葉の内容はそのものゝ歴史的發展によつて變遷する現に社會的意義を有するアパートも續々出來る。）

ジードルンクは獨逸には古くからある文字である。英語のセツツルメントとか、コロニーと云ふ文字に相當する文字である。殖民、移住等の場合に建設した村落などに使用されたのであるが、最近獨逸を中心に發展したものがこゝで述べるジードルンクの觀念をなすものである。それはやはり村落の様に一つの住居地全體を指すのが本來である（時には一魂の集合住居建築を指して云ふこともあるが）そして昔の村落の様に一家族宛一獨立家屋に住む單獨住居がポツポツ配置されて村の様に成立つものでもよければ、集合住居建築たる住居ブロツクが幾つも集つて住居地を形式してもよい。田舍の農村とか漁村とか又は郊外の地價の安い所などでは前の單獨住居的住居地が多く、大都市郊外の比較的地價の高價な所では多く住居ブロツクの集つた住居地の形式となる。この文字の持つ移住、殖民等の建設的意味は今日ではさほど強くはないが、今日の合理的ジードルンクは都心の商業地域などにはなるべく置かず、緑地の郊外の或部分を限つて住居地を建設するであるから建設的意義はあるにはある。

最近ジードルンクの發展の特性は一民族の内に起つた住居の不足を補ひ、其缺點を改良する爲に起つた公共的又は團體的な住居更生の主張を基としてゐるのであるから、營利的な室貸などとは多少趣を異にしてゐる。かようにして合理的ジードルンクは、社會公共の財政的行政的援助によつて成る規格住居の大量製産による住居解決方法であつて、それに並行する合理的建築方法は、建物及其部分品の規格化、工業化、組合化等により安くてよい住居を提供することに努めた。家賃は一週間の賃金を超過せぬ様にとか、室の大さ形狀が今日の衛生學に適ひ、今日の文化人の生活に不便のない様に、又心理的にも滿足の行く様に努めた。無駄は出來る丈これをはぶき、又必要なこと丈は生かして經濟的に解決する様に努めた。この經濟的な制限と文化人の要求との間に立つて、建築家も其解決に相當苦勞したのであるが、それが例の最少限住居の問題などである。

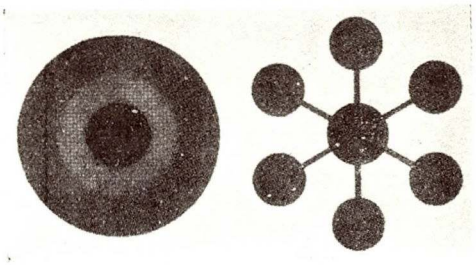
大都市とジードルンクの問題は最重要なる問題であつて、以下こゝに述べんとする所は主としてこの大都市に於ける住居問題解決の結果たる大都市に附屬する新たに建設された住居地に就てである。

自然に發生した村落は發展して町となり、次第に膨脹して大都市となる。村であつた時の道は町には狹くなり、町の自然に膨脹したまゝでは住宅が工場に圍まれたり、商店の間に有毒瓦斯を出したり、やかましい音を立てたり、又は爆發の危險のある様なセルロイドの玩具店とか色々の工場とか實驗所とか貯藏場とかが出來る。かような自然發生的な大都市に對しては交通系統とか地帶の整頓とかをして全體を有機的に人爲的に計畫し組織するのでなければ、大都市の機能を充分に發揮する事が出來ない事になる。住居の採光、通風とか綠地とか、衛生的な問題又保安上の問題即ち火事地震其他附近からの危險を除く事、住居相互の便利施設等及保安慰安の點などを遺憾なくするには、どうしてもよい都市形態を計畫して其れによつて適當なる住居地を設けなければならない。こゝに計畫的都市の必要な所以がある。大都市形態の有機的組織と其の內に於ける合理的住居地こそは大都市住居解決の本格的なものである。

都市發展の同心圓的形式と衛星的形式

從來の都市の發展狀態を見ると、中央の市街から外へ外へと擴がつて成長する、即ち同心圓的發展をなすものである。かような場合、中央は商業地帶の様な繁華な所で、外の方に工場とか住宅が出來るのであるが、その成長が進むに從つて住宅や工場が繁華な商業地帶の內に沒してしまう、かくして雜然たる建築の混亂を來して相互迷惑な事となる。住宅も不便、有害、危險の內に置かれてしまう。衛生的發展とはこれに反し一層人爲的發展形式であつて、中央の都市を一定限度に制限して其の外部は綠地帶を以て取り巻き、この外廓の綠地帶へ放射線狀高速度交通機關を走らせ、其の端に（地球に月ある如く）衛星的に附屬村落又は附屬小都市を置くので、勿論この附屬都市相互間の綠地帶も中央大都市と衛星都市との間の綠地帶も法律を以て護られてゐるのである。（綠地帶は田畑、森林、公園、運動場、墓地等）この衛星都市をジードルンクとせば、其住居地としての機能を永久に保證さるゝことゝなる。

第1圖　都市發展形式



同心圓的發展　衛星的發展

今日の合理的ジトルンクに於ける住居と都市の關係

住
↓
家
↓

居……　……一家族の住むに用ふる空間

屋……住居が其中に 1. 2. 3.……多數等包含す

連 續 家 屋……今日の合理的ジードルンクでは多くは家が續き連續家屋となる
↓
そ の 集 團……連續家屋が更に集つて村の様になる
↓ 其他の要素……後出ジードルンクの組成參照
↓
ジードルンク……住居地
↓ 其他の要素……商、工、各地域其他
↓
大 都 市

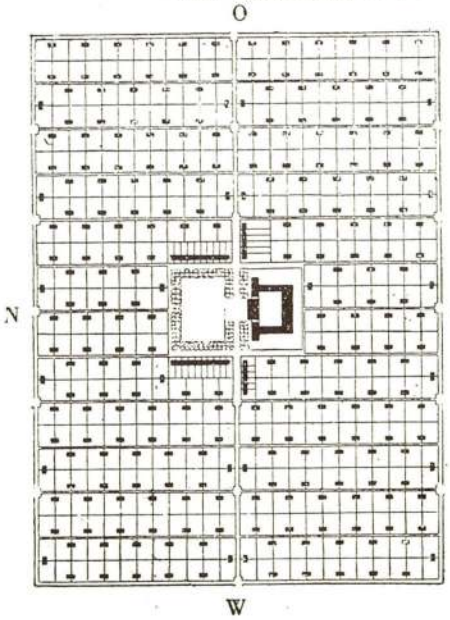
ジードルンクの組成

ジードルンクの組成
- 建築敷地
  - 住居建築
  - 中央施設建築
- 道路敷
  - 一般交通用街路
  - 居住者用道路
- 空地
  - 運動場、公園、畑等

ジードルンクの住居形式たる家屋の種類

住居形式
- 個別的住居……自然發生的村落に多く今日の合理的ジードルンクには用ひられず
- 規格住居……
  - 一家族式家屋
    - 獨立一家族式家屋
    - 連續一家族式家屋
  - 二家族式家屋
    - 獨立二家族式家屋
    - 連續二家族式家屋
  - 三家族式家屋
    - 獨立多家族式家屋
    - 連續多家族式家屋

第2圖 田園 ジードルンクの例
（獨立一家族式家屋による）

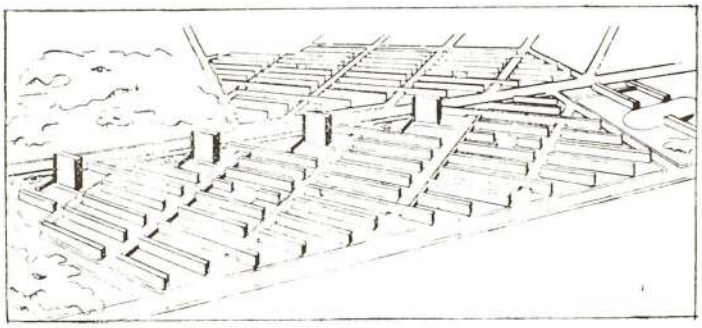


ジードルンクと中央施設建築

中央煖房汽罐室洗濯場等……一住居毎、或は一家屋又は一連續家屋毎に其の施設あるものもあるが、其の合理化によりジードルンク全體の中央煖房、中央洗濯場を設くる事がよい。

日用品賣店……これはジードルンクの規模によつて

第3圖 ベルリン市ノイケルン・ジードルンク案



（Otto Haesler 氏の住宅家室高層建築を配す）

ほんの小賣店ともなり又小商店街ともなる。

學校病院等……これもジードルンクの規模により或は幼稚舍丈とし或は小學校實業學校それ以上ともなす、病室病舍に就ても同樣である。

教會堂（神社佛閣）……其居住者によつてことなるが村に寺や宮がある樣に設けらる。

自動車庫……各住居用の自轉車置場は其家屋に設けらるが自動車庫は必ずしも其處に設けられ得ないので獨立に纏めて建てらるゝ例が多い。

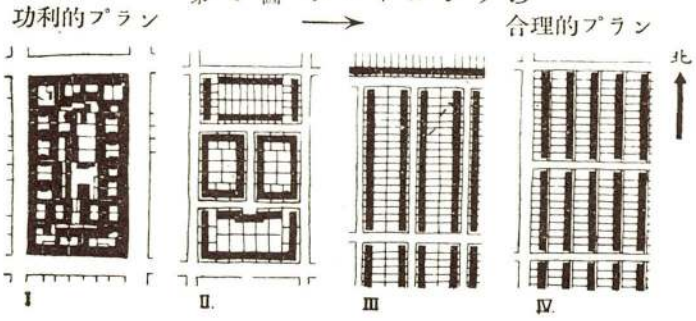
ジードルンクの規模

第3回國際新建築會議に提出されたジードルク 56 案に就て見るに、一ジードルンクの住居の數即ち幾家族住み得るかは最小で 70家族、最大 16,000 家族、平均950家族である。これを人口に計算すれば最小 300 人、最大約 6 萬人、平均約 4 千人住み得る。然らば之れに要する全面積は最小 9,000m³ 最大 14,723,000m³ 平均 386,000m³ である。住居密度は 1 h.a.（10,000m³）に對して最小 11. 最大 965. 平均 108 であり、人口密度は 1 h.a. に對して最小 40 人、最大 3,861 人、平均 463 人である。

ジードルンクのプラン

合理的ジードルンクのプランは村落の樣な自然發生的な不規則なものでなくして、一定の方針のもとに配列されたものである。大都市の住居は、最初は功利的な貸家である市中の住居ブロツクから次第に住居の保安、衛生、便益、慰安と云ふ點を頭に置いて、住む人の爲になる社會的意義ある合理的なジードルンクのプランに進化したのである。

第 4 圖 ジードルンクの

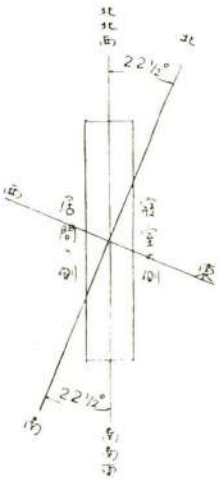


ジードルンクの採光配列軸

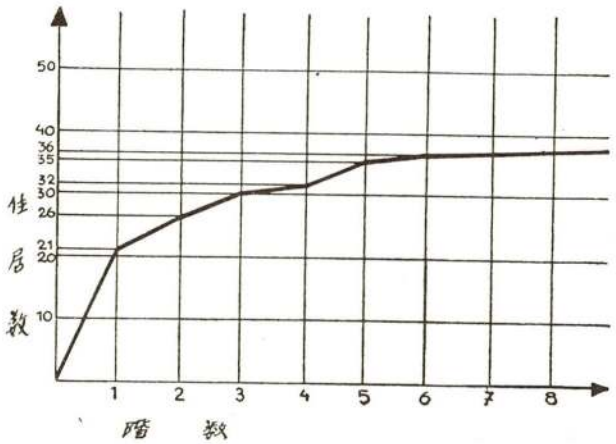
昔のジードルンクは地形道路の方向に從つて家屋を配し、其の採光に對しても家々で向きが違つてゐた。今の合理的ジードルンクのプランの特徴は、採光に最もよい家屋の向きを研究して、其一定の方向に全體の住居を整列せしめるのであつて、其の家屋は普通長屋形式であるから、家屋の長軸が一定に定められてゐる。之れで住居を南向にするか、東向きにするかの問題が起きる。日本の家は多く南向きであるが獨逸では主に東と西とを向いてゐる。即ち日本式は東西軸の配列、獨逸のは南北軸の配列が多い、これには地理的關係もある、即ち、日本では南北に於ける夏の通風が必要である事と、獨逸では緯度の低い爲に東西軸による配列は前列の家の影が長くなつて、相當大なる距離をへだてなくては採光が出來ぬ爲もある。一體居室は1日中に一度は日光の 直射を必要とするのであるから、東西軸即ち南向の場合は室を一列にとり、南北軸即ち東西向きの場合は室を二列として（中

廊下でもよろしい）午前は東より午後は西より採光すべきものである。第5圖は獨逸に於ける採光に適すると云はれる軸で正南北より少しふれてゐる。

第 5 圖
住居建築の採光配



第 6 圖　住　居　數



Fischer, Karlsruhe

ジードルンクに於ける住居建築の高さ、間隔、其の成す入射角

低層か、中層か、高層かの問題は今日尚ほ問題である。第3回國際新建築會議に於ては主としてこの問題が論ぜられた。低層は理想かも知れぬが合理的化の爲には高層の外はないと云ふのが高層主張者の云ふ所である。いろいろの長短の比較はあるが、大體に於て地價の高い所では高層を以てし、安い所では比較的低い建物を以てすることゝなる。（第6圖はフイシヤーの圖表で同一敷地に階數が 1. 2. ……と增せば收容住居數が急に增して非常に經濟となるが、5 階以上は住居數の增加は殆んどなくあまり經濟でないと云ふ結果となり、今日現存の住居建築が 5.6 階どまりになつてゐる事を對照して面白い）尙例の 56 案に就ては 20 が低層ジードルンク、16 が中層、8 が高層、6 が各層、3 が低、中層、1 が中、低層であつた。第7圖に就て見るに建物の距離と高さは其の成す角度、即ち光りの入射角が衞生上問題となる事は明で、この角度は小なる程よいが例の 56 案では最小 9° 最大 75° 平均 23° である。

第 7 圖　入 射 角



一 住 居 の 組 成

- 有用面積（正味住居面積）
  - 居室
    - 居間
    - 仕事場
    - 寢室
  - 附屬室
    - 炊事場
    - 浴室便所
    - 通路
- 其他
  - 物置
  - 露臺
  - 庭園

一 住 居 の 規 模

ダムマーシユトツクジードルンクの實例に就て（勤勞者住居にて最小限より大）

面積は最小約 50m² 最大約 110m² 平均 70m²

月家賃は最小 49.51 R.M. 最大 137.50 R.M. 平均 85.53 R.M.

居室數は最小 2 室最大 6 室 平均 4 室

正規ベツド數は最小 2.5 最大 8.5 平均 5.5

第 2 回國際新建築會議最小住居展に就て有要面積は、一家族式家屋では、最小 14.7 m² 最大 76.5 m² 平均 51.4m² であり二家族式家屋では最小 24.7 m² 最大 52.7 m² 平均 38.5 m² であり、多家族式家屋では最小 16.3 m² 最大 91.2 m² 平均 45.8 m² であり、其正規ベツト數は一家族式では 1 乃至 8 で平均 4.5 二家族式では 2 乃至 6 で平均 2.9 多家族式では 1 乃至 7 平均 3.3 である。

住居階高と幅

階高は約 3 m をジードルンクの標準とし天井高では 2.7 m 位を可とす。幅員は約其二倍である（兩面採光として）。

ダムマーシユトツク、ジードルンクの實例では平均階高 2.85 m 幅 7.4 m である。

住居建築構造

鐵筋コンクリートの現場鑄造はドイツでは、今日殆んど用ひられてゐない材料の工場製品化其組合化によるもので、鐵骨に煉瓦或はブロツク積など多い。

住居各部

居間…南でなくば西に、又は西と少し南、に向けらる、(日本では別だが) ダムマーシユトツクの實例では平均有用面積の 26% である、勿論この種の住居に客間とて別にないこゝにベツトに化する長イスを置く事がある。

食堂…居間の一部を兼用し別に設けざる例が多い。

仕事場…主人の書齋の如きものニツチを附してこれに宛てるものが上等の方で多くはなし

寢室…夫婦用寢室の外に小寢室一つ二つを具備するが普通でダムマーシユトツクの實例の平均は有用面積に對して 40% である。內夫婦用寢室の大いさは平均 14m² でこれを夫婦と小兒一人とに用ふれば一人宛 5.5 m² となる。ベツトは疊込式として晝間室として廣く使用する事が流行して來た。

炊事場…前の例では有用面積の平均 9 % で約 7 m²

浴室便所…普通一ケ所

露臺、陸屋根、庭…屋外生活を好む近代的傾向がある。

集合住宅の將來

奥田　讓

近代都市に於て急速に發展しつゝある集合住宅が如何にして成立するか、その由來する原因は近代都市生活の複雜さに比例して、複雜であり簡單に表明することは困難ではあらうが大體次の二つが擧げられるであらう。

(1.)近代都市の社會狀態が必然的に住居を密集せしめ、在來の如き家屋狀態ではその質が著しく低下する。

(2.)都市居住者の重な部分を占める俸給生活者の自覺により、日常生活の合理化が求められそれに對して在來の家屋が滿足を與へず。

(1.)は社會狀態が然らしむるもの即ち外部より必然的に惹起する原因であり(2)は即ち人間生活の內部より起る要求である、之を更に細別すれば種々の具體的條項をあげることが出來るであらうが、要するに生活の內外より舊來の住居に滿足せず、新しきものへの要求が起りこれに應ずるべく生み出されたものの一つが所謂集合住宅であらう。

然らば集合住宅の近代都市生活への適應性は如何なる點にあるか、これを具體的に列記すれば次の如くなるであらう。

(1)敷地の利用が合理的なこと、これが最も大きな點であつて單に敷地面積に對する建築面積の增大と云ふことばかりでなく、建物の適當なる配置により空地を共有し保健衛生上或は快適さに於て遙かに優れたものになし得る。

(2)生活の合理化、よく考究された平面により、或は共同施設による利便により各住居內の勞務が簡單になり、從つて生活そのものの能率が上る。

(3)都市計畫的効果、集合住宅と云へば小にしても都市の一區劃を占め、大なるは都市體として計畫されるものであるから都市全體より見て、個々の小敷地につき建物が計畫される場合よりもより効果的であることは明かである。

(4)建築費の節約、同程度の住居を得るためには、獨立家屋に要するよりも敷地費、建築費、設備費に於て相當の節約をなし得る。

以上は何れも主として經濟的問題であつて現代の社會機構に大變化なき限りこの適應性は益々深められるものと考へられる。

歐米諸外國に於ける集合住宅の狀況はさておき、我國に於ける集合住宅を見るに、その適應性にも拘らず未だ盛に興つてゐると云ひ難い、我國諸都市發達の歷史が相當新らしく上に述べた外的狀況が大程切迫してゐないと云ふことも多少あるであらうが然し次の樣な

重要原因があると考へられる。

（1）我國民性によるもの、我國多年の鎖國の影響によるものが、多數のものの共同生活よりも寧ろ狹い乍らも一廓の主とならうとする向きが多い、それで集合住宅と云つた風のものよりも獨立家屋を好む結果となり、集合住宅の要求が割合に稀薄である。

（2）在來家屋の構造によるもの、我國の木造家屋はその構造、材料及び工法等により非常に開放的であり融通性に富む且又多數が平家造である等のために家屋が密集して周圍の狀況が相當悪くなつても屋內の居住狀態が夫程悪化しないと云ふことがあり從つて相當程度までその儘で辛棒出來ることになる。

（3）家賃及び建築費の問題、家賃は經濟に關する一つの問題であるが然し居住者にとつては最も重大な問題であらう、家賃がその居住者の全收入の約二三割を占めてゐることは常識にまでなつてゐるがこれが相當重過ぎる負擔であることは明である、一方集合住宅となれば原則として層數は2以上、構造は耐震耐火の鐵筋コンクリート造其他衛生設備、共同施設等と建設費に相當多額の費用を要し單價も在來程度の木造家屋より增額するは止むを得ない所である、勿論このやうな構造施設ならば木造家屋に比しその耐久力は大となるのであるからこの原價を長期間で償還することが可能であれば家賃の如きも在來木造家屋の一般家賃に比して大した差は生じないのであるが、一般には此の途が無く勢ひ短期償還となり家賃も相當多額となり集合住宅が一部少數の愛好者によつて占られ本來の意味と異つた風になつてゐる、一方又供給者側にしても一時に相當多額の資金を要し且つ又一般向でない程度の家賃を取らなければならないとなると簡單に手を着けるわけにはいかなくなる。

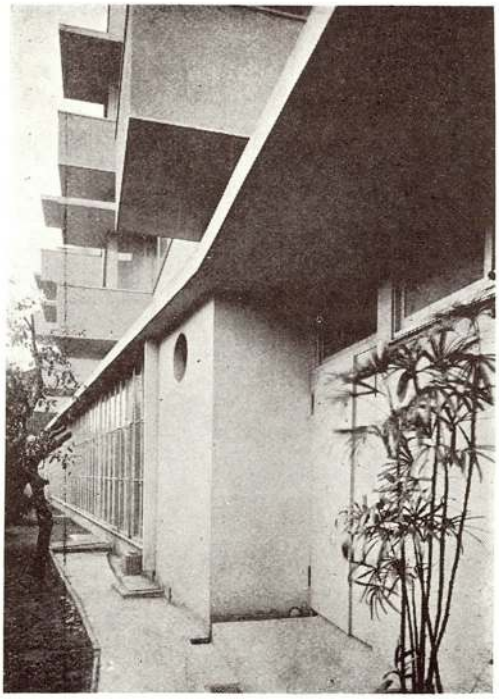
以上の様な重大な原因のため集合住宅の近代社會への適應性にも拘らずその發達の遲々として見るべきもののないと云ふのが現在の狀態であるが將來は果して如何？その發展を抑止してゐると考へられる諸原因が消滅すれば自然に大に興るであらうことは疑へない。諸原因の內（1）は要するに趣味の問題であり、そうした一城一主式の性質が深い所に根ざしてゐるとは考へられない、少くとも新時代に生活してゐる人達はさう云ふ事に捉はれなくなるだらうとの見極めはつけ得られる。（2）は程度の問題である、在來家屋に辛棒してゐると云ふに過ぎないのであるから同條件或はそれ以下で同等以上のものがあればそれに移り行くことは明かである。（3）が最も大きな難關である、此處にこれに關聯して住宅の經營と云ふことについて考へて見る。

現在では人間物質性生活の三要素の一つである住居が手頃な投資の對象となつてゐる、人は少し金が出來ると先づ借家でも建てやうかと云ふことになる、或は資金を工面して借家を建てそれを巧く運轉してやつて行かうとする、かくして無統制に亂雜に空地が埋められてゆく、これでやつてゆく人達にとつては誠に結構であらうが都市居住者の大部分を占める借家人にとつて或はもつと大局から見て果してこれでよいものであらうか。

社會狀態が合理化されんとする現代に於ては總ての社會現象に人爲的工作が加へられるのは當然のことであつてその背景が强大なる程その効果は大きい、最近に於て重要な諸産業が官公營化乃至は統制化されつゝある趨勢にあるのはその爲であつて從つて住居の發生と云ふ一つの社會現象に關してもその合理化の究極は官營或は公營より外はないと考へられる、然る時は住居の建設については一團地、一地方或は一都市として考究せられ經濟的問題も解決し斯くして集合住宅が選ばれることは必然的である、住居の官公營となると現狀からの大飛躍であつて、その具體化には種々の困難のあることは勿論であるが此の他に考へられる途は建築物に對する資金の長期償還による貸付方法である、この方法が一般にも開放せられるならば經濟的問題は殆んど解決するであらう。

要するに現在に於ては主として經濟的障害のため微々たる集合住宅も何れは此の如き途が拓けて大に發展し時代に適應する本來の性質を發揮するに至るであらうと信ずるものである。

整然たる街路、全體的に統一配置された數層の住宅群、適當な空地そして眼を安める綠蔭、その中に人は生活を樂しむ、人々は明快にして合理的な生活を營むにいたり共同生活は訓練されるであらう、「建築が生活を規程する」と云ふ建築家にとつては最後の「ゴール」は此處に始めて達しられるのである。



大阪パンシオン
裏　出　入　口

住宅と防濕防腐に關する座談會

出席者

委員長　武田　五一

幹　事　小川　陽吉　　增山　新平　　松本　儀八

委　員　岡本新次郎　　三木　來三　　赤松　　修　　小川安一郎

會　員　藤原　義一　　宮飼　克二

武田委員長座長席につき住宅と防濕、防腐に關して建築的立場から、如何に之に善處すべきかと云ふ問題について、出席員一同から忌憚のない意見が、次から次へと展開せられて、坐談會とは云ふ條頗る眞面目の研究會であつた。

茲に順序的に各出席員の發表された意見を悉く記載するの紙面に餘裕がないので、之を結論的に書流すことにした。

濕氣とは如何んなものか

防濕に關する諸問題を研究するにさきだつて先づ「濕氣とはどんなものであるか」と云ふことの解釋を一定して置く必要があらうと思ふ。(建築の方面から見た濕氣)即濕氣とは空氣中の水蒸氣が氣溫の變化に遇つて飽和凝結して起つた一現象を謂ふので、例へ空氣中には如何程多量に水蒸氣が含まれてゐても夫は決して直ちに濕氣とは云は無いのである。例へば或る藏の中は濕氣が多いと云はれる場合、其の藏の中の空氣中の水分は濕氣とは云はない、室の中に含れる水分が泡和狀態以上に多い時始めて濕氣があると云ふ事となる譯で此際快感帶とか又は不快感帶等の感覺の意味とは全々別個のものである事は勿論である

防　濕

扨て防濕問題の第一歩にはいるのであるが、然らば如何にすれば部屋の中に水分が溜らない樣にすることが出來るか、換言すれば、冷たい空氣を部屋の中に入れても、それを如何にすれば濕氣を招かない樣にする事が出來るか。

家のプランと防濕の問題

夫れにはまづ防濕について家として如何なるプランが理想的であるか!!　無論之と相關聯して構造の良否、材料の選擇等にも充分留意せなければならない譯ではあるが、我國の樣な四周圍らすに海を以てした所、夏季は多濕であり高溫であるので、蒸暑い事は此上ないといつた所では特に防濕の必要さを感ぜしめさせらるゝのである。

防濕的立場からプランについて考慮することは

1. 通風を良くすること

2. 部屋の容量を太くすること

1 の通風を良くするには通風孔となる窓の位置、其太さ等を考慮し、尙其土地の有つ季節風をうまく取入れることが肝要である。尙部屋部屋の配置如何が直接間接濕氣に影響することとなるので、部屋の配置と云ふことと通風、防濕と共に考へるべき問題だ、部屋の容量を大きくすることも防濕上最も肝要な問題である。

吾々はよく押入の中は濕氣が多いと云ふ事を耳にするが、之は空氣が流通せない爲で、畫、押入にはいつた空氣が夜になつて氣溫が下つた爲に水蒸氣が凝結する結果である、尙濕氣は天井の高さにも大いに影響する事は今更云ふ迄も無く、小さい部屋程濕氣は多い事となるわけ、更に部屋の內外の空氣の溫度を成る可く變化させない樣にする事も防濕の一方法である。建築物の地下室を夏期に殊更暖房を施して完全に防濕の目的を達したと云ふ事實さへもある。

又コンクリート造の建物は濕氣が多くて困ると云ふ事は素人から往々聞かされる言葉であるが、之はコンクリート面には熱の傳導力が多く、且濕氣が附着し易い事に起因してゐる、此の樣な場合には內部に水分を誘導せない材料を用ふれば相當効果がありうる譯で、其際木材ならば桐杉其他テツクス類等はより良い結果をもたらすことになる、又敷地の地形の點から見ても建物の濕氣と多大の關係を有し、特に注意すべきは三方森、藪等に取り圍まれた樣な所は風通し惡く自然濕り勝である。

防濕と構造

次に防濕の構造に就て比較的好結果を得て居る例は、窓を多く取る事の出來ない部屋從て通風の餘り良くない部屋には、空氣を一度床の下を通してから部屋に入れるのである而して床下にはコンクリート打又はモルタル塗が防濕の目的に良いと云ふ說と實際問題として、床下はコンクリートよりも砂の方が適當であるとの說とあるが、多方面に亘る色々實驗談を徵したる結果、床は出來得るだけ高めとし、中央部から四周へ幾可かの勾配をつけて通風を計れば、防濕の目的は充分達し得られると云ふ結論となつた譯である、各地の古社寺の床下に就て見ても、床が高く通風の良い所は決して濕氣なく、床下が傾斜してゐたり又凹地の所などがある場合には、濕氣が多く通風の良くないが爲である事を立證してゐる。更に防濕材料の問題であるが可成り濕氣の多い山上の住宅等に於て、從來日本のテツクス類では濕氣に對し充分の効果を得られなかつたのであるが、この新材料として出現したモリノイトなど防濕材として逸材であるなどと種々經驗に依る意見も出た、又防濕に加ふるに防火的材料として「イソライト」等は最も都合が良い材料だとの意見もあつた、尙多少高價に過ぎるが「アスベストス」の織物等は更に完全なるものだとの意見もあつた、右の外防腐に關しても其構造の點など通風を良くする事に於て、全く防濕と同一の効果を擧げ得ると云ふことになる譯である、と云ふ樣な結論で座談會を閉ぢられた。

（松本幹事記錄）

アパート雜想

永戸俊雄

私は、勿論、建築については、すぶの素人で、アパートに關しても、建築上の專門的なことは何も知らない。たゞ、こゝ 4～5 年來、外國でも日本でも、アパート生活をしてゐるので、過去現在の私のアパート生活について――私のアパート生活についての僅かな體驗と智識は、地理的に、パリ、ロンドン、ジユネーヴ、東京、大阪に局限されてゐる。しかも、そのうち、比較的よく知つてゐるのは、パリと大阪にすぎない――思ひ出すことや考へてゐることを、雜然と書いて見るにすぎない。

東京や大阪で、アパートといへば、新しい、特殊な生活樣式と觀念される。お爺さんやお婆さん達は、普通の人間でない、不思議な男女、昔は存在してゐなかつた種類の人間が住む、特殊の住宅をアパートと考へてゐるようだ。一般の人は、そんなに、アパートを近代化けもの屋敷のようには考へないにしても、アパートと普通の住宅とを、きつぱりと區別して、觀念してゐる。この觀念は、しかし、日本の現狀――住宅文化の現狀――に照らして見ると、決して間違ひではない。まさにその通りであるといはねばなるまい。日本では、近頃、アパートがはやり出したといつても、既存のいはゆる借家住宅に比較すれば、アパートの數など問題にならない。だから、アパートとは、普通の借家、普通の住宅から明確に區別される新しい、毛色の變つた、特殊の居住樣式を意味することになる。それが東京や大阪での現實である。

アパートを、新しい特殊の居住樣式と考へないものゝなかには、アパートを下宿と同一視する連中がゐる。

――僕は何々アパートに住んでゐますよ。

――はゝあ、下宿ですね。

といふような會話は決して珍しくない。そして、こんな斷片的會話のなかにしばしば眞理がある。實際、內實は從來の下宿屋とちつとも變りがなく、表の看板だけがアパートとなつてゐる。實例を見かけるからである。これは、從來の下宿屋生活階級の心境と趣味に進化が來て、今迄通りの御下宿といふ看板には引力を感じなくなり、アパートと看板だけでも出てゐるところなら、行つて見よう、といふ風に、世の中が變つて來たことを物語る事實であらう。

とにかく、大都市、東京や大阪では市內でも郊外でも、アパートが、居住の新樣式として、流行してゐる。10 年前にくらべたら、今日はアパートが流行してゐる、といつていゝような氣がする。しかし、まだ大きな流行とはいへない。ちよつとした流行の傾向が見える程度である。アパートの本當の流行は、もしそんな時代が來るとして、餘程先の話で

あらうと思はれる。日本のアパート文化は今のところ、その創生期であり、赤ん坊時代である。だから、東京や大阪のアパートの多くが幼稚貧弱で、住み心地が悪くても、またこれまでの下宿と變化のないものがアパートと呼ばれてゐても、驚くにも當らないし、それで氣に食はぬものは、普通りの借家住居普通りの下宿生活をしてゐればいゝといふわけ。誰もアパート生活を强制するものはないのだから。

とはいふものゝ、私は、日本のアパートは現在のまゝでよろしいといふのでは決してない。私はまた、現在の日本のアパート文化に滿足してゐるものでは決してない。それは、赤ん坊時代だからやむを得ぬことだが、餘りに不完全で幼稚すぎる。貧弱すぎる。殺風景すぎる。

殺風景で思ひ出したが、大阪郊外のある高級アパートに臨時獨身生活を營んでゐるある老人が、私はまるでブリキ製の豆腐のなかに住んでゐるような氣がすると嘆息して、聞くものに哀感を催さしめたことがある。ブリキ製の豆腐のなかに住む憂鬱は、殺風景な白い壁面から來る。白い裸の壁の部屋は無情冷淡である。神經系統の弱い人、デリケートな心臟を持つ人には、きつと冷藏庫の感じであらう。家具をつけ、部屋飾りもしてアパートを貸す經營者は、も少し人間味を持つて、も少し、アパート生活者の感受性に、思ひやりがあつてよからう。壁が眞つ白ならさつぱりと綺麗で、これほどいゝことはあるまい、と考へてゐるなら、それは頭が餘り單純すぎる。私のアパートも、大阪では最新式のアパートださうであるが、やはり白い裸の壁面、ブリキ製の豆腐だ。ちつとも部屋に暖か味がなくて、全くやり切れない、決してラマルチーヌのような心臟を持つてゐない私でも。

それが、はじめから、建てつ放しの家具も部屋飾りもなく、さういふものはすべて、借り手が自分で勝手にやるといふ行き方のアパートなら、話は自ら別である。そしてこの行き方が、アパートの本道、正道であらうと、私は思ふ。しかし、アパート文化の赤ん坊時代にある日本では、まだなかなかそこまで行けない。赤ん坊を銀座の大通りへ放り出したら、命がなくなる。それと同じで赤ん坊らしく育てゝ行かねばなるまい。

アパートメントといひアパルトマンといひ、フラツトといふ。これみな、日本でいふ借家であり、住宅である。宮殿、王宮、貴族富豪の大邸宅、郊外の別莊は別として、西洋の大都市には、アパート以外の借家も住宅もないのである。すべての普通の人間の住居はアパートなのである。すべての普通の人間の居住樣式として、アパート以外のものはないのである。アパートが唯一普遍の居住樣式だ。アパート以外に家はない、住宅はないといつてもいゝ。すべての人がアパートに住んでゐる。これが日本と大變違ふところである。西洋の大都市では、居住のために、アパート以外の觀念は存在しない。東京や大阪と同樣、西洋の大都市でもアパートは特殊人の住む特殊の居住樣式だらうと思つてゐる人が案外多い。かういふ觀念錯誤が一般的である間は、日本のアパート文化も容易に發展しないであらう。

で、發展途上にあるといふよりも、やつと芽をふいたばかりの日本のアパートは、これからまだ相當長い期間、生活の單純化を望む獨身ものと、それから、さういふ獨身ものに

近似した生活態度を持つ風變りな夫婦ものを目當てとし、顧客とせねばなるまい。といふことは、當分、一般人が、既存の、傳統的居住樣式から離れて、アパート生活に轉向する可能性は認められない、といふことだ。して見ると、建てつ放しの、まる裸の、家具も飾りも、何にもなしのアパートでは困る。何しろ、目當てにする相手が、ものぐさの獨身とそれに類似の風變りな夫婦ものなのだから、やはり、家具つき飾りつきアパートといふことになる。私はこの方式のアパートが、今後なほ相當長い間續くだらうと思ふ。そして、無家具、無飾り、赤裸のアパート、居住者がさういふこと一切を自分でやる別の方式が出來て來るだらうと思ふ。その時、日本のアパート文化も、正道を歩み、本式になり、本格になつて來る。いひかへると、アパートが住む家になつて來る。

私は、しかし、日本に、さういふ時代、アパート時代が必ず來ると豫言してゐるのではない。今の小さなアパート流行に、意外に大きな反動が來て、アパート文化は沒落してしまふかも知れない。これは結局、大きくいふなら、日本人の國民的氣質の問題であると同時に、アパート經營者、アパート文化建設者の智惠と注意と洞察力との問題である。そこで、どちらかといふと、私は、日本のアパート文化の將來に對して、割に樂觀的である。日本人はひどく日本固有の傳統に愛着を持つ一面、ひどく外國模倣が好きである。これは日本の全面的近代文化の樣相が立證してゐるところで、近頃のアパート流行を外國模倣の一つとして見るのも、確かに根據のある見方だ。映畫が一般に普及愛好されてゐるようなわけには行くまいが、アパートの普及も、外國模倣熱の非常に高い東京や大阪では、かなり望みがあるような氣がする。それから、經營者、アパート文化建設者の方を見ると、そこに、流行に伴ふ自然の競爭といふようなものがあつて、建築設備その他の改良改善を、相當考へてゐるらしい。して見ると、現在の家具つきアパート、赤ん坊アパートが段々よくなる、ひとつアパート住居をやつて見よう、といふ獨身もの、夫婦ものゝ數が增加して來る、のではないかと想像される。

それにはまづ、經營者が、壁面の印象といふような、誰にでも氣のつく原始的な室內設備に注意することだ。給水給湯の裝置が各部屋にないようなのは論外。夫婦ものが住むためには、共同炊事場なんて悲慘なものは全廢し、やはり、小さくてもいゝ、各部屋に炊事場をつけることだ。獨身ものでも、自炊で安くやりたいといふしまり屋は勿論のこと、さうでなくても、炊事場があれば、いろいろ便利で樂しい場合もあるものだ。も一つ、問題は風呂場である。日本人はいもの子を洗ふような共同入浴になれてゐるから、一つの建物に、一つの共同浴場があれば、まづ我慢が出來るだらうとも考へられるが、これも、實際はどうかと思ふ。獨身ものなら、すべて、朝九時に出勤、六時まで勤務といふわけではない。アパートで終日勉强するもの、仕事をするものもゐるはず。現在の制度のように、一つの共同浴場て、入浴時間をきちんと制限するなど、面白くない。朝出て、夜おそく歸る稼業の、例へば新聞記者など、殊に閉口するであらう。また、朝風呂に入る習慣のあるものが、午後の四時、五時まで待たされるのは、生活の能率を殺減すること夥しい。そこで

浴室附きの部屋の必要が感じられて來る。浴室附きの部屋を、經營者は考へねば嘘だ。家具つきで、浴室があつて、炊事場もある部屋、となると、アパートらしいもの、住居らしいもの、家らしいものになつて來る。さうでないまでも、それらしい感じが幾らか出て來る。さうなつて來ると、夫婦もので、アパートに住むものが多くなつて來るのではないか、と私は想像する。アパートが從來の下宿と同樣であり、殆ど變りがなく、ちつとも自分の住居、自分の家といふ氣分が出ない狀態に止まる限り、普及の望みはないといつてもよからう。

自分の家、自分の住居といふ感じ、氣分が完全に出るのは、サロンと食堂と寢室と炊事場と浴室（便所を含む）とが一つの單位をなす、無家具のアパートである。それは、家らしい一軒の家を形作る部屋の構造と數とが揃つてゐるばかりでなく、家具その他一切の部屋飾りを、居住者自身が、自分の好みと趣味に合つたものにすることが出來るからで、この場合、壁なども、家主がどんな色にしてあつても差支へない、居住者は自分の好き勝手に壁紙を貼ればよいのである。それから、寢台。これは日常生活で一番重要な家具なのだが各人みな好みが違ふのが普通だから、家具つきのアパートで、每晩、いやな寢臺に眠るのは、たまらなく不愉快なもの。無家具のアパートなら、そんな不愉快は勿論ない。

家といへばアパート、アパート以外に家のない西洋の大都市に、この無家具アパートが榮えてゐるのは、當り前のことではなからうか。そして、これとアパート文化の本道といひ、本格のアパートと考へる私は間違つてゐるであらうか。アパートが不自由勝ちな、不愉快な貸室、貸部屋で、ちつとも家らしい氣分の出ないものなら、アパートの繁榮は永久に來ないであらう。

アパートは、そこに住むものの家でなければならぬ。單なる部屋でなくて家でなければならぬ。これが私の持つアパート理念である。1 個のアパートには 1 戶の家におけると同量の自由が、當然あるべきはず。無論、そこには、長屋生活者間の長屋道德に似た公德の拘束はあるけれども、經營者の餘計な干涉によつて生活の自由が、不合理に制限されるようなことがあつては、1 個のアパートは 1 戶の家ではなくなつてしまふ。だから、經營者は出來るだけ部屋を貸してゐるといふ考へ方をなくして、1 個のアパートは 1 軒の借家だといふ考へ方を持ちアパートの入口に、事務所といふものがあるのは、その意味において面白くない現象である。外國流に、そんな關所のようなところを突破しないで、誰にも顏を合はさないで、自由に出入り出來るアパートの方が、居住者は、自由の享樂とでもいふか、餘程氣持ちがいいに違ひない。

私はパリで、ホテル式のアパートにかなり長く住んでゐたが、その建物の中で、居住者の行爲を直接又は間接取締らんとする警察官の足音を 1 度も聞いたことがない。日本ではその足音を聞く夜が時々あるらしい。こんなのは、アパートを家と意識する、夫れは意識せんとする居住者の氣分と心理とを粉碎する原因になるだらう。人間は、せめて自分の家でだけは、自由を享樂したいのである。そして、アパートは家であるはずのものである。1 戶の家の中には自由が許されても、1 個のアパートの中ではそれが否定されるとなればアパートは家でなくなる。

神戸市改良住宅について

奥田　譲

これは不良住宅地區改良事業法によつて建設されたものであつてその大要については本誌昭和 8 年 5 月號に於て述べた所であるが更にその概要をあぐれば

指定地區、眞砂通 2 丁目、南本町通 5.6 丁目、北本町通 5.6 丁目、吾妻通 5.6 丁目

地區合計面積　10,426 坪

地區內居住者　734 世帶

人口　3.256

改良住宅建設　眞砂通 2 丁目　南本町 5.6 丁目

建設戸數　702 戸

其他建設豫定　隣保館、保育所、浴場、假收容所等

現在竣功せるもの　眞砂通 2 丁目　2 棟　103 戸　假收容所　35 戸

現在工事中のもの　眞砂通 2 丁目 1 棟 63 戸　南本町通 6 丁目　4 棟　160 戸

この事業は事業費の半額が國庫補助であつて實施設計に當つては社會局中村技師に負ふ所が甚だ多いのであり、且つ又東京、名古屋、大阪にこれと同樣の先例があるのであるが最初の計畫には多大の困難があつたことゝ察しられる。

以下當市の改良住宅建設の實施に關する二三の問題を擧げて述べることとする。

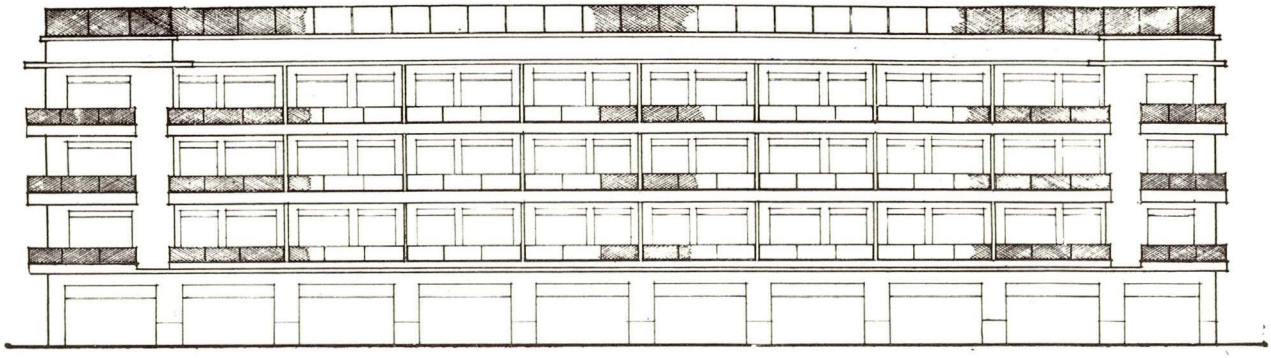
(1.) 改良住宅の特殊性、事業法で定められてゐる如くこれに收容すべき家族は現地に居住せるものに限られてゐる、それで單位「プラン」はその居住者を基として定めるべきで據り所がある譯ではあるがそれに應じて種々の大きの型式を用ひなければならない、その邊に可成りの考慮を要する譯である。又事業の名稱が示すが如く現地居住者の生活狀態又は心理狀態等は常識を以てしては計り切れないものがあつて建築の實施に當つても相當の對策を講じておかなくてはならない。

(2.)「ブロツクプラン」指定地區は市街地にあるのが普通であるからその點は一般の市街地に建つ集合住宅と同樣である、殊に當市の建築敷地は一方が電車道路に面してゐる、その爲街路を整へると云ふ都市計畫的な考慮も拂はなくてはならない、勿論それと建築本來の目的即ち住宅についての考慮とを並行させてゆかなければならないのであるがその利害が相反する場合にはその何れを取るかと云ふことが問題である。例へば (イ) 昇降に機械設備のない建築殊に住宅では 3 階建までが適當と見なされるが敷地內戸數の割當ての必要上電車通りに面せる側を 4 階建とした。(ロ)建築を外廊下式にしたのであるから廊下は

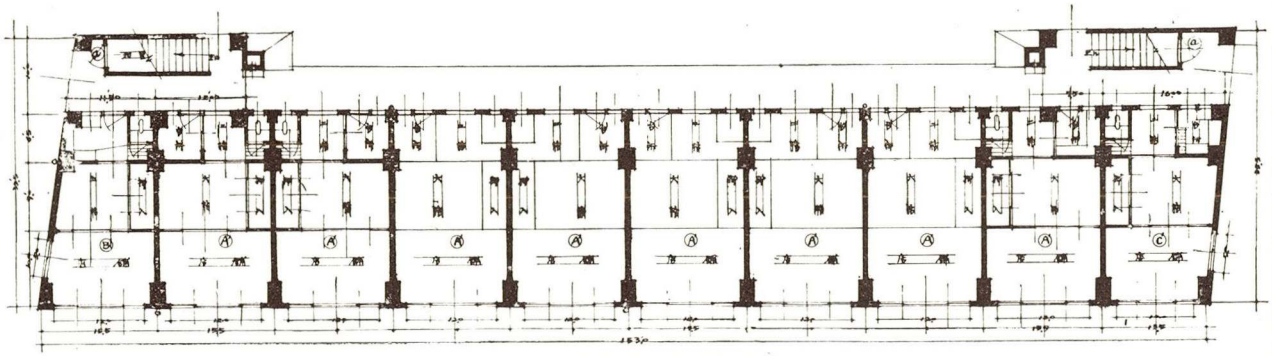
勿論北側に設置さるべきであるが、道路が北側にある場合美觀上廊下を南側に取り、その代り建物を南側で「セツト、バツク」させて採光を計つた、但し構造上、設備上多少の損失は免れない、(ハ)我國に於ては住宅の居間は南面せるを最も可とするは論をまたざる所であつて、集合住宅に於ては建物の軸を東西方向に配置するのが最も好ましいのである、これが郊外の空地も多く道路も建物と同時に計畫され得る場合であれば、住居の目的そのものから考慮して最善なる配置即ち建物の軸を東西方向にとり、建物間の距離は日照關係から算出された等距離とし通路はそれによつて計畫される、然し市街地に於ては戸數、空地、及び街路等の關係上多くはL又はC型になつてその爲建物の軸の一部が南北方向になり又餘り好ましくない入隅が生ずることになる、當市の改良住宅に於ても出來得る限りその點を考慮したのであるが一部は止むを得ず軸を南北方向にしたのであるが、此の所の住宅では二つの居間を夫々東、西に面せしめた、その他に建物を所謂外廊下式にしたのであるがこれに對する階段式の配置に比較するとその唯一の欠點は各住宅の獨立性の欠除であるが、その利とする所は建築費を節約なし得ること及び採光通風の可良なること等であつて、此の種の住宅に於ては外廊下式の優れること數等なりと考へられる。(3.)單位「プラン」(1.) 單位「プラン」の大さの標準は居間4帖半3帖の二間でその1戸の面積は 6.24 坪である、これを外國の最小限住宅に於ける多數のものが 60—70 平方米であるのに比すれば甚だ狹小である、これは生活狀態或は生活程度の差によつて生ずる所であるが、尙これを現地居住者の實況につき調査した結果に比すれば相當の餘裕がある、此の種住宅では此の程度で止むを得ない所であらう。(ロ)踏込土間、何分狹小な面積の內に居間、台所、便所、押入等を取るのであるから踏込土間の如きも最小限とならざるを得ないのであつて普通は3尺平方位である、然しこゝに下駄箱を置き履物を脫いでは如何にも狹く感じられる、それで關西地方の舊住宅に於けるが如く玄關と台所とを隣り合せにおき土間を續けて多少なり共餘裕がある樣にした。(ハ)露台、これは勿論建築費に關する事柄で廣い程よい譯であるがこれを費用の許す範圍でやらなければならない、それで一般の窓にはどうしても手摺が入用であらうからそれを少し變形して露台にして見た、出は2尺で少し小に過ぎるがその床を室內床まで下し階下の窓の庇兼用とした。(ニ)台所內燃料の問題、大體此處の居住者の日常の燃料費は零であつて何か薪の樣なものを集めてそれを用ふるのが常である、それで改良住宅に於てもそれに相應するためには台所に竈の如きを設備しなければならないのであるが一方又この事業法の根本は不良住宅地區改善であつて勿論居住者の生活向上と云ふことも期してゐる譯である、その意味から云つて當市のものは竈は設備せず瓦斯のみとしてゐる、この點に關しては異論も多いのであるが現在竣功せる第一期の眞砂住宅 103 戸についてその成績を見るに現在瓦斯を使用せるものはその內 21 戸であつてその他は七輪の如きものを使用してゐるがその爲に建物の汚損が相當甚だしい、この點に關しては尙考慮の餘地があると考へられる。

これを一般的に見て舊生活と改良住宅內の生活の程度の差と云ふことが問題であつて、勿論立法精神の一つである生活の向上を期しなくてはならないのであるが、その程度を如何にすべきやと云ふのがこの改良住宅についての先づ問題であらう。

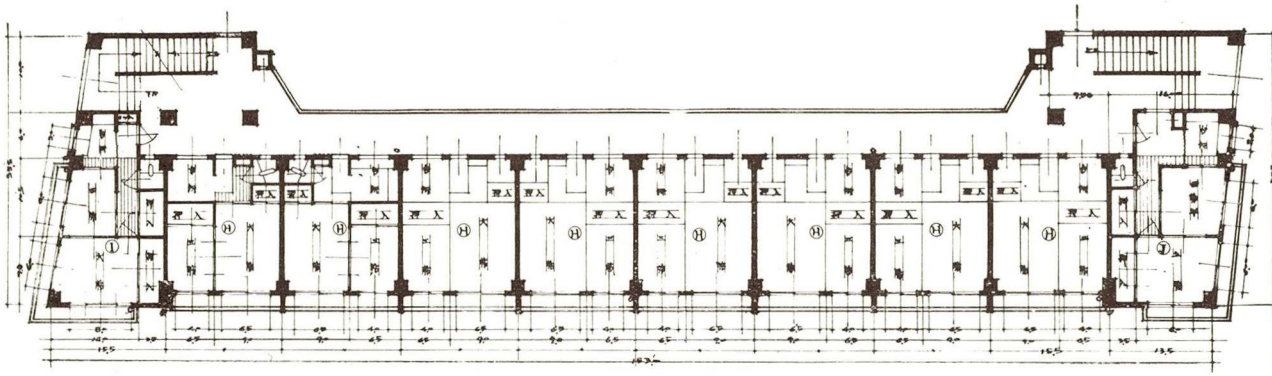
神戸市新川改良住宅第1號館(第2期工事)



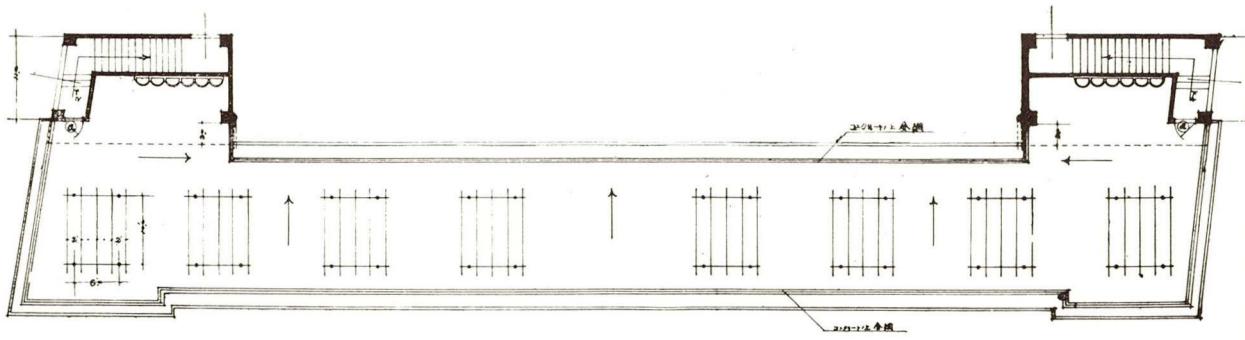
東側立面 1:100



二階平面 1:100



三、三、四階平面 1:100



屋上階平面 1:100

大阪パンシオンに就いて

パンシオンと言ふ名稱は他にも12あるがあまり使はれてゐない名前である。日本ではアパートと言ふものの目的を表はす適當な名稱が見つからないので普通「莊」とか「館」とか言ふ字をあてはめてゐる樣であるが今では何々アパートとしても別におかしい樣な氣もしなくなつた、この大阪パンシオンの如きアパートとホテルを兼業してゐる所では一寸名前も考へさされる。然し第一困るとはこんなハイカラな名稱は法規にないため建築認可申請間は矢張り下宿屋又は長屋であり、ホテルは勿論宿屋である。それでゐて一向かまはないのであるが此の建築をするまでの計畫はアパートに家族式のものをとる積りであつたのを、その家族式アパートは所謂長屋であるがために法規によればその各戸に對して公道9尺のものをとらなければならぬことになる。即ち公道に各戸の玄關は接しなければならぬここの餘裕のない地所には一寸出來ない相談である。

鐵筋コンクリートのアパートは關西にはそう澤山はないが建築費にかさむために經營者は仲々でないと言ふ話であるが大體坪あたり150圓內外で出來ればよい樣である。然し近頃では仲々六ケ敷いが3階以上にし樣と思へばどうしても鐵筋コンクリートにしなければ規則がゆるさない。經營と言ふ問題も地の利に大いに關係はあるが、與へられた敷地で出來得るだけ多く室を取ることも必要だし經營者の方針即ちテーストの問題と住ふ者の氣持よさと言つたことが何時とはしらず評判にもなつて、住ふ人間に引きつられて向上して行くと言つた樣なものである。

大阪パンシオンは南海本線玉出驛より約半丁東にあたり大阪南地に出るに便なるためよく演藝者の宿所として利用される樣であるが獨身アパート住ひも相當の知識階級の人をうまくキヤツチしてゐる樣である。

各室は只寢るだけならそう大きい部屋は必要ないと言ふ考へからせいぜい六疊位のもので凡てベツトを備へてゐる1階に談話室、娛樂室、及食堂をとつて2階以上を寢室にあてゐる。

娛樂室と言ふものがどこのアパートでもうまく利用されてゐるところが少い。これは住ふ人の最も寬いで家族的に樂むところであるからここが又評判にもなり話のたねにもなる稍もすれば下品にもなり易いところである。面白い話がある。或るところで、1臺の球臺を取りまいてよく多くの人が樂んでゐた。どうも品が惡いと言ふわけで止めてしまつたところが各人それから面白くない。何となく味氣ない夜長を外出でまぎらすと言つた具合で

はたから見れば誠に可愛相なことである。全く住む人はその家の小供なのだ。小供の様な氣持である、すきな玩具を取上げられては可愛相だと言ふわけで、その球臺は又後戻りをしたと言ふ話がある。大阪パンシオンにもその球臺が1臺ある。

前述の如く鐵筋コンクリートとして如何にして安く上げるかと言ふことが問題であるがそれには鐵筋を出來るだけ節約し、コンクリートのボリユームを輕減することも一つである。大阪パンシオンは外壁を厚さを仕上げ共に4寸、內部間仕切壁は3寸5分とし大部分の間仕切壁は木造とし、內部に絨毛を入れて防音構造となし表面は、メタルラス下地プラスター粗仕上ペンキ塗りとなつてゐる。

コンクリート壁の薄いのは假枠に隨分手間を喰ふものであるが、それでもよく薄く出來るものだと教へられる。

外壁の薄いことは雨仕舞の問題で懸念もあつた様であるが窓廻りの雨仕舞さへよければ大した問題にもならぬ様である。近頃の簡單な構造、シンプルな表現法も種々な點で相當な缺陷を見出すものであるが、しかしその工法に研究の餘地を殘すのみである。

これはインターナショナル式ですねと言ふ人のあまりに多いことに驚かされるが、これはどう言ふ式ですかと問はれた場合誠に困る場合が多い。そろそろ適當な式名をつけてほしいものである。（杉浦　巴）

大阪パンシオン新築工事概要

1 位　　置　大阪市南海本線玉出

1 敷地面積		271.89 坪
1 建築面積		105.47 〃
1 總延床面積		349.37 〃
內譯	地階	10.95 〃
	1 階	105.47 〃
	2 階	104.15 〃
	3 階	78.58 〃
	4 階	50.22 〃
外に	バルコニー	19.15 〃
1 軒　高	4 階建部分	40.50 尺
	2 階建部分	21.00 〃
1 各階高	地階	12.00 尺
	1 階	10.00 〃
	2 階	9.00 〃
	3 階	9.00 〃
	4 階	9.00 〃

1 構　造

主體は鐵筋コンクリートとし內部間仕切壁にして耐震壁以外は概ね構造簡易なる防音木造壁となす。

1 外部仕上

外部壁面は主として「リソイド」塗り仕上げとし軒庇、窓庇及窓臺等の水切り用には厚5厘の鐵板を使用しペンキ塗りとす。

2 階建部分の出窓には木骨下地に淺野スレート板厚3分のものを張る。

屋上は防水層の上に「プルーフセメント」モルタル厚1寸仕上とし目地切りとなす。

外部窓サッシは枠共總米檜ペンキ塗り、硝子は厚 3mm のものを使用す。

窓廻り構造として雨水の浸入せざる様特に注意せり。

庭園廻りは總てコンクリート打のまゝを規準とす。

1 內部仕上げ

1 階玄關及談話室廻り壁はカンバスペンキ塗りとし、天井はリソイド水性ペンキ塗り床は玄關はトラゾーブロツク白黑市松張りとし其他は

總て轉根太の上にオーク板張りとす。

2 階以上の各室は壁及天井をプラスター粗面仕上げとしペンキ塗り、床は轉根太の上にオーク板張りとす、特にホテルとなれる部分の部屋は國産壁紙貼りとせり、各階に 1.2 の日本室を配置せり。

1 室内家具裝飾　室内家具裝飾は家具の一部及カーテンをのぞく他はベッド及椅子等凡てケビンのものを使用せり。

1 煖房換氣設備　温水煖房を設置し、各客室の換氣は自然換氣とす。

1 衛生設備　各階水洗式便所を設く。

1 弱電設備　各客室には電話を設置す

1 工事關係者　設計者　村野建築事務所
施工者　藤木工務店

大阪セントラルハウス新築工事概要

所在地　大阪市西區江戸堀下通5丁目

構　造　鐵筋コンクリート造3階建一部地下室附

建築面積　152.356 坪

總延坪　529.934

内　譯

地下室	75.800
1　階	152.356
2　階	144.556
3　階	144.556
塔　屋	12.266

軒　高　37 尺 8 寸

塔屋高さ(地上より)　47 尺

起　工　昭和 8 年 4 月

竣　工　昭和 8 年 10 月

外　裝　外壁「ダークブリユー」色長手「タイル」張りとし、一部「リソイド」並に「モルタル」塗仕上とす。

外面各開孔部建具は總て「スチール」製ペンキ塗り仕上

内　裝　各室及廊下床見え掛り箇所は「フロアーリングブロック」敷き色付仕上とし其他は「モルタル」塗りの上敷物敷きとす壁、天井は漆喰仕上、各室出入口は「ベニヤフラツシユドアー」とし木部色付及「ペンキ」塗りとす

玄關及便所、各室洗面廻り床及腰は「タイル」張り仕上とす

一般貸室設備　貸室は純洋式にして温水煖房裝置とす各室に洗面所及造り附洋箪笥、寢臺、椅子、「テーブル」を設備す

京都アパートメント新築工事概要

位　置　京都市左京區吉田泉殿町1番地

敷地坪數　235 坪

建物坪數　建坪 110 坪

延坪 653 坪4合2勺・地階 39 坪1合7勺

1 階 110 坪・2 階 110 坪・3 階 110 坪

4 階 110 坪・5 階 110 坪・

6 階 57 坪7合5勺

建物の高さ　61 尺

塔の高さ　79 尺

設計の概要　外部は、新味をもてる近世式にして黄色、モルタル及同リシン仕上を主とし、要部人造石洗出仕上とす。

内部は、アパートメントとしての機能を全くすべき配置を取り、仕上材料としては、天井、壁大連ドロマイドプラスター仕上とし床コンベス仕上、外部スチールサツシユ及木製上下窓を用ひ各窓に虫除網障子及カーテンを取設けたり

貸室大小合計 83 室とし、各々押入、洋服入を有し寢臺テーブル、椅子、傘立等を設備し、大室には特に衝立及洗面及化粧臺を付せり。

構造の概要　基礎地質は硬質砂利層耐力平均6噸にして地盤面より深きは 14 尺 5 寸、淺きは 6 尺掘下げ、割栗石1尺捨コンクリート5寸の上に、鐵筋混凝土基礎床梁式構造により本建物の全重量を支持せしむ、主體構造、即ち、床梁柱階段、耐震壁等全部鐵筋混凝土構造とし、市街地建築物法に基き各種構造凡て耐震耐火を旨とせり。

各階配置　地階、厨房、倉庫、浴室、便衣室、電氣室、ポンプ室、下足場。

1 階　一般食堂、料理室、事務室、賣店、應接室、宿直室、小使室、理髪室、貸室、洗面

所、便所、ボイラー室

2階　貸室　洗面所　便所
3階　貸室　同　同
4階　貸室　同　同
5階　貸室　同　同
6階　大食堂、特別室、休憩室、玉突室、配膳室、倉庫、洗面所、便所
屋上　遊歩場
塔屋　エレベーター機關室及水槽

附帶設備概要

電氣設備　電力は市電氣局線地下ケーブルにより特設せる地階電氣室に引込同室より各電動機及各階配電盤を經て各室電燈に配電す。

給水設備　飲用水は市水道の供給を受け、雜用水は地中清水を地階ポンプ室を經て塔上水槽タンクに送り各階に給水し萬一障害のある場合は水道、井水、何れにも轉換し得る様にせり

消火設備　各階合計6ケ所の口徑2吋消火栓及80尺ホースを付し。常時屋上水槽タンクに連結し非常に市消火栓に消防自動車を經てスタンドパイプに連結するものとす。

衛生設備　各階便所何れも洗滌式とし汚水其他排水地下室の淨化槽に導き淨化したる上自動ポンプによりて屋外下水に連絡し排氣は鑄鐵管により屋上外に放散す。

煖房設備　各室瓦斯管を配設し現金メーターを經て煖房す。

電話設備　各室6ケ所宛の配管設備せり。

エレベーター設備　大阪製鋼所製 O.C 式エレベーター8人乘速力1分間100尺にして1階より6階に到る。

避雷針設備　地上90尺の塔上より地下10尺の底に埋設せる、銅板迄 BWG 14 番 19 本撚銅線に由り連結す。

設計者　松村次郎
施工　上田工務店

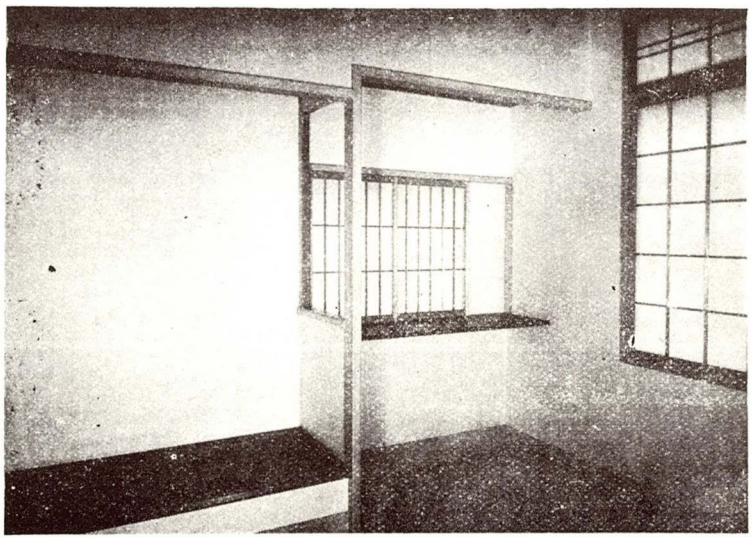
洛東アパートメント新築工事概要

位置　京都市左京區北白川停留場前

構造　鐵筋コンクリート建　地上5階地下1階　近代式耐震耐火

設備　地階　理髪室、浴場、ボイラー室、料理場其他
1階　ロビー、大食堂、應接室、娯樂室、賣店、客室大小 14 室
2階　客室大小 24 室
3階　客室大小 24 室
4階　客室大小 22 室
5階　客室大小 22 室
屋上　庭園を設く

本貸室にはベット（ヒキダシ2ケ付）洋服戸棚、押入、下駄箱、洗面器、本棚椅子等又煖房、防虫、消火、換氣の設備があります。



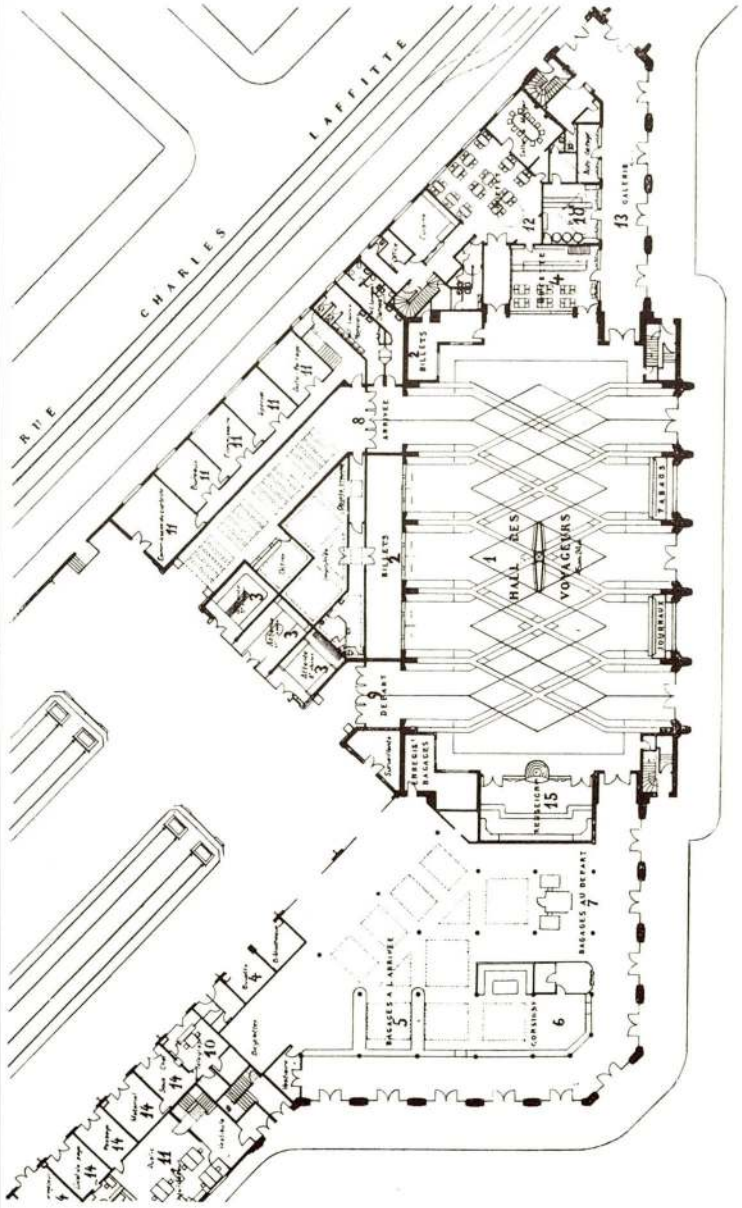
設計者は國有鐵道の主席建築家で、現代の構造主義に古典精神を盛つて、之を結合融和させやうとねらつてゐるが外觀は決して成功したものと思はれない。しかし内部に於ては、鐵筋コンクリートの大ホールと鐵骨のプラツトフオームの天井の對照は非常に効果的で、特に輕快な鐵骨の架構の美しさはフランス特有の構造美であると獨逸人すら激賞してゐる。

ホールは高20米、巾25米、長45米、その片側はアーケードでレストランと大通りに通じてゐる。建築面積 4,500 平方米、建築費 34,000,000 フラン。

(Moderne Bauformen 誌より　本多正道)



外觀時計臺

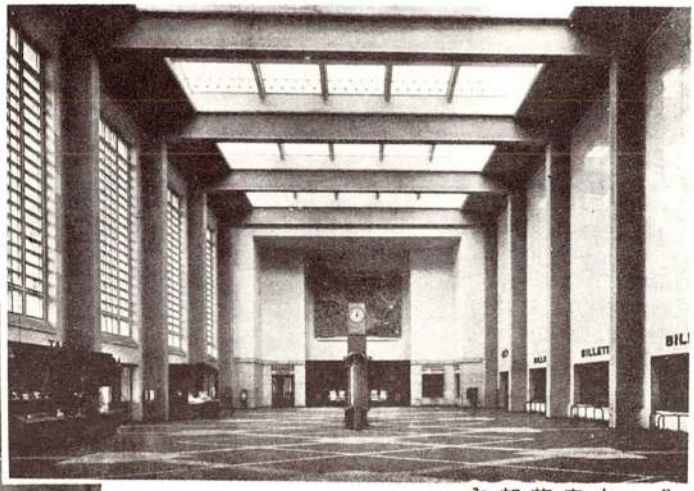


1. 旅客ホール
2. 切符賣場
3. 待合室
4. 食堂
5. 貨物渡所
6. 貨物分類所
7. 荷物受所
8. 降車口
9. 乘車口
10. 電話郵便
11. 事務所
12. 休憩室
13. ギヤレリー
14. 雜用室
15. 相談所

(フランス) ル・ハーブル停車場



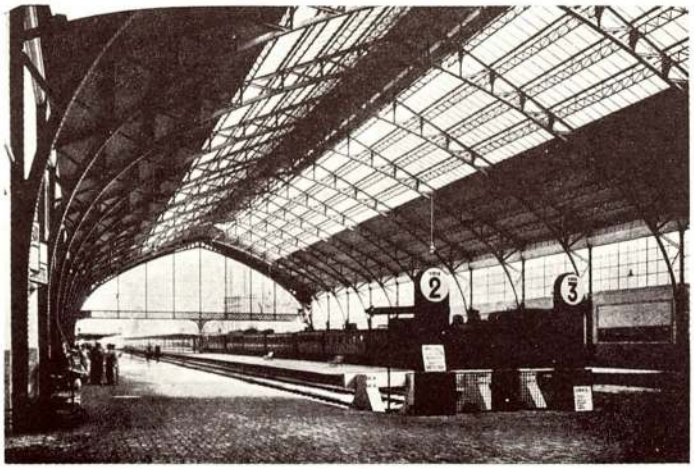
外　観



内部旅客ホール



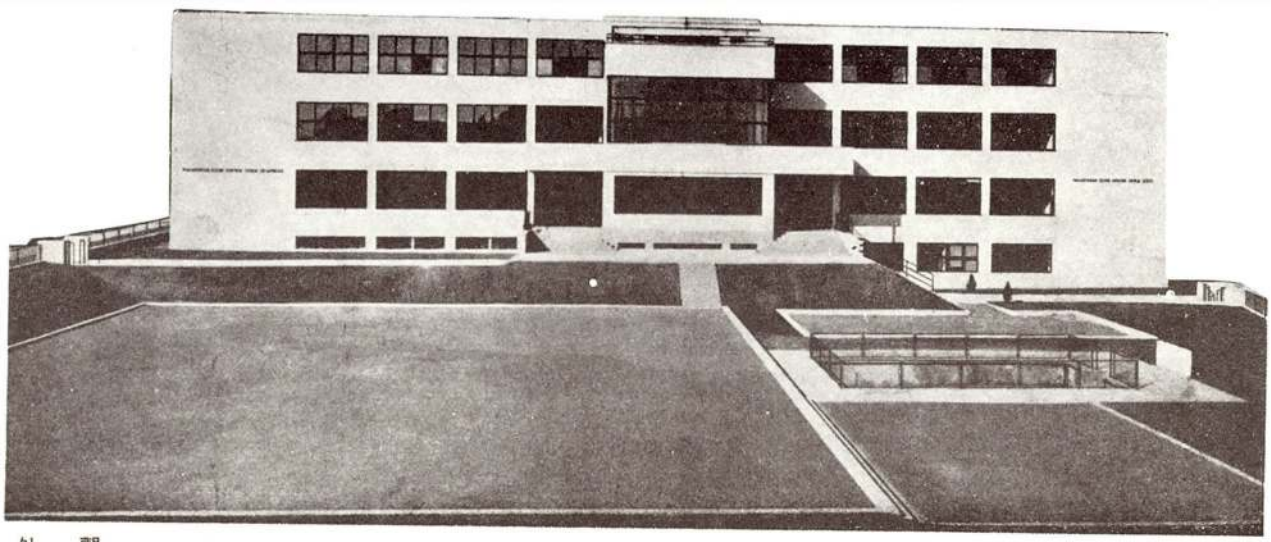
貨物取扱所



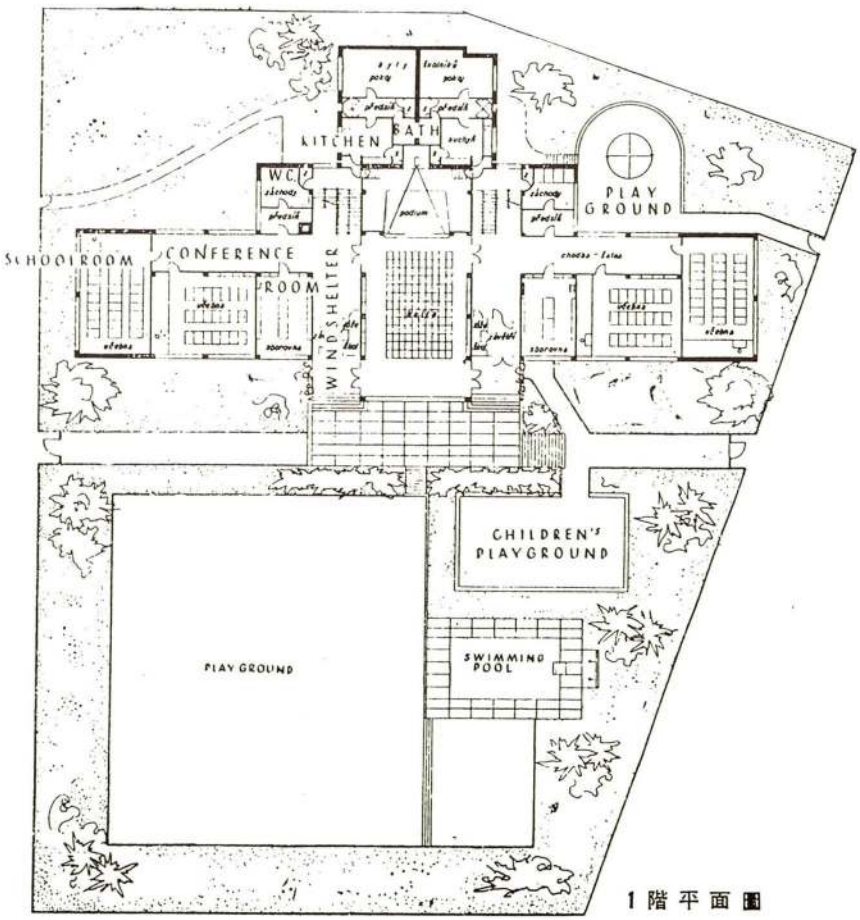
プラットホーム

VI 58　（フランス）ル・ハーブル停車場

建築家　アンリ・パコン



外　觀



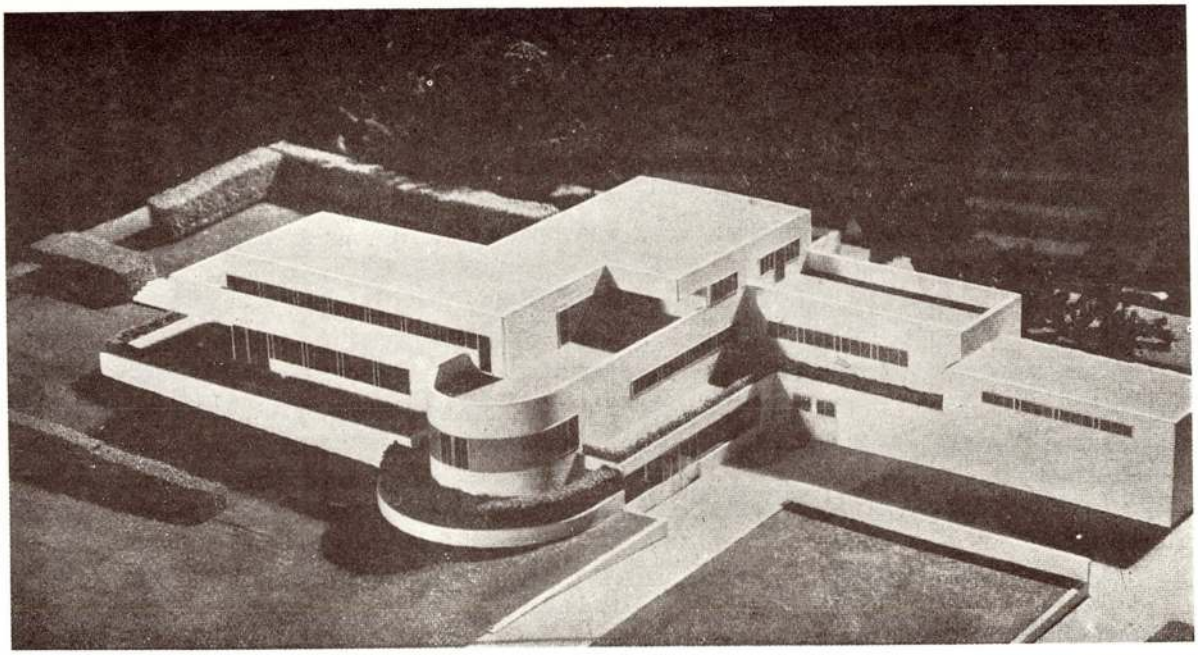
1 階 平 面 圖

チエツコスロバキヤの如き新しい國家の教育機關は1つの工場である。ここでは次の時代を形づくるべき原料が精練されるのである。

ここに示したるは Studenten heim と言ふべきもので、子供達はここで學ぶほか、食事から、お化粧から、入浴までなし得る設備がある。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)

(チエツコスロバキヤ) Brno の學校　　建築家 Majmir Kyselka



全景模型

現在工事中の大邸宅である。敷地はクロートンの貯水池を望む丘の上90英町を占め、最下階は敷地の傾斜を利用して半地階の形式をとり、何の部分にも日光と通風とを充分ならしむる様設計されて居る。

構造は施主の希望に依つて、大きな部屋も獨立柱の出ない様計畫されて居る。

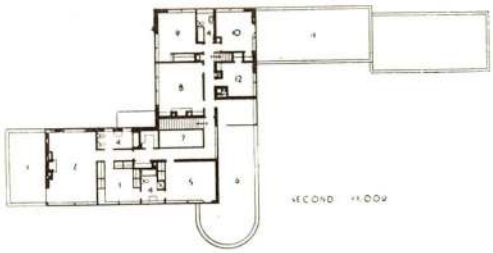
床は輕い鐵骨の梁と2吋厚の鐵筋コンクリート床版とから成り、外壁はシンダー•コンクリート•ブロツク積、白色スタツコ仕上、內部壁は石膏ブロツクで出來て居る。

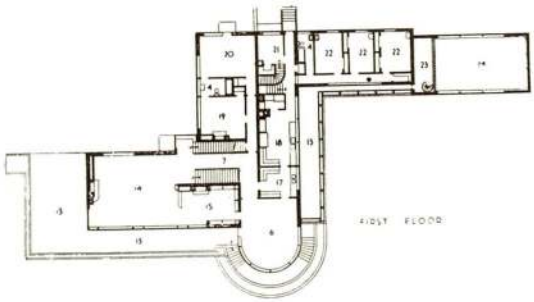
外壁は鐵骨の梁を輕快な柱で支へ、硝子窓が連續して大きく開く様に設計されて居る。

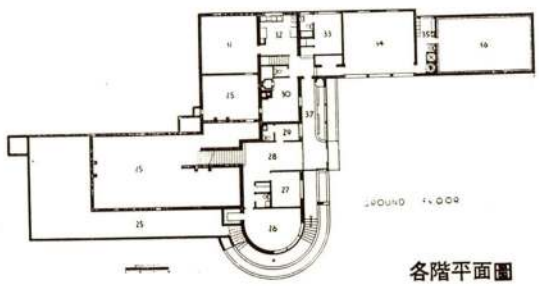
屋上庭園は切石敷き、其他の陸屋根はアスファルトの上砂利敷である。

半圓形の食堂の壁には硝子ブリツクを使用し、同時に採光と保溫との目的を達して居る。工費約6萬弗。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)







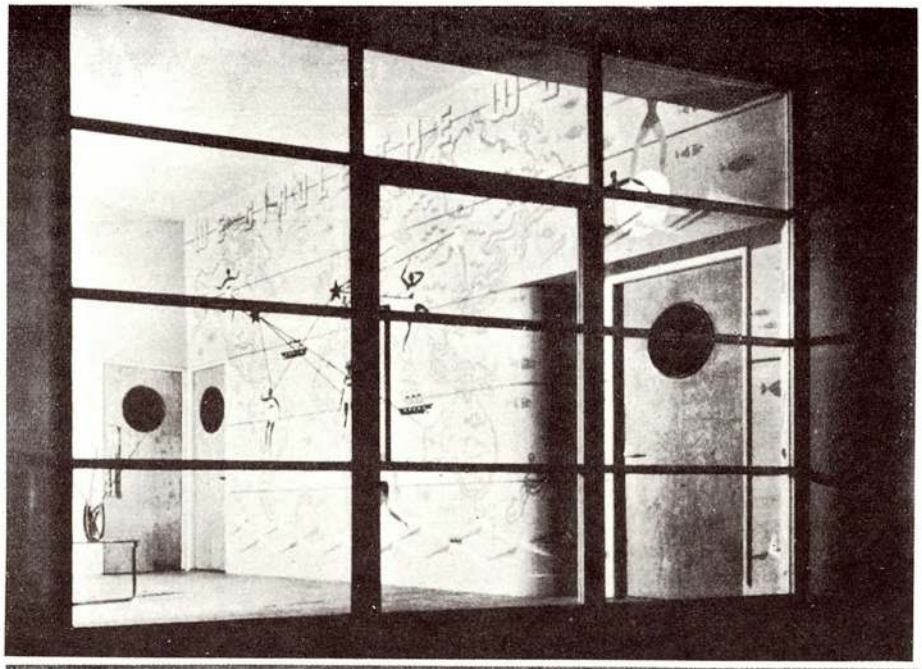
各階平面圖

2階
1 スリーピング・ポーチ
2 主人寢室
3 化粧室
4 浴室
5 主人寢室
6 日光浴用露臺
7 階段室
8 子供遊戲室
9 子供寢室
10 子供寢室
11 露臺遊戲場
12 女中室

1階
13 テレス
14 居室
15 書齋
16 食堂
17 配膳室
18 料理場
19 客室
20 客室
21 召使食堂
22 召使寢室
23 露臺
24 スカツシュ・コート

地階
25 地階不用部
26 酒場
27 事務室
28 玄關廣間
29 化粧品室
30 汽罐室
31 倉庫
32 洗濯場
33 運轉手室
34 自動車庫
35 更衣室
36 スカツシュ・コート
37 植物室

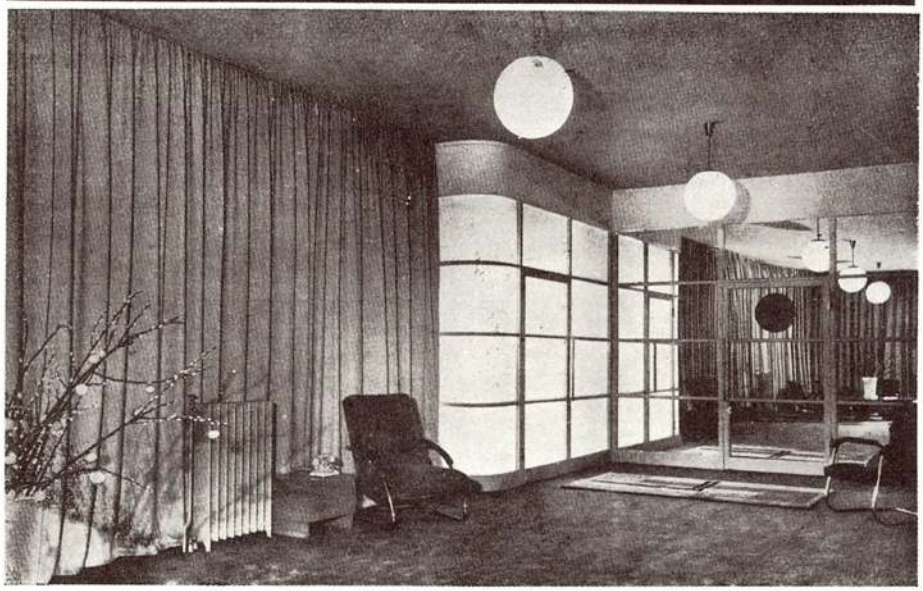
第１圖



第１圖　入口ホール

陳列室から窓越しに見た入口ホールで、フレスコで地圖を描いた壁を望む。

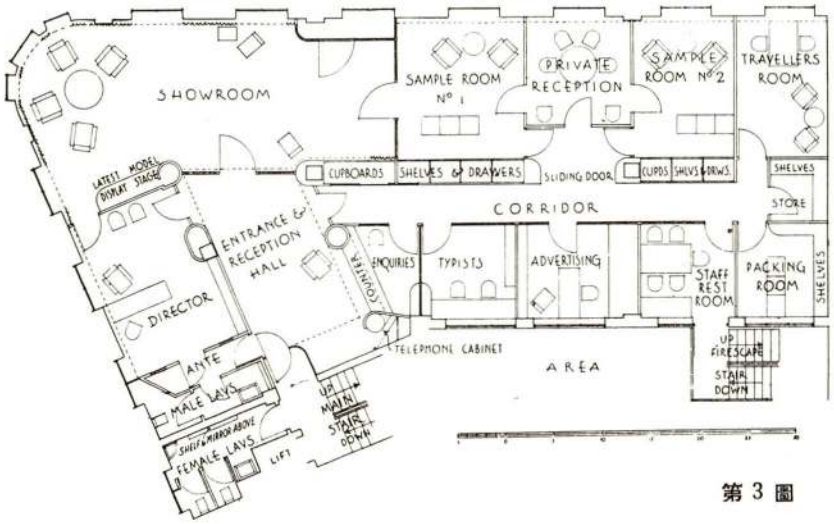
第２圖



第２圖　陳列室内部

下手のドアによつて第一見本室に通ずるが、ドア及び壁面は鏡を用ひて部屋を廣く見せやうとしてゐる。中央のガラス張りはマネキン陳列塲、天井はテツクス張り、照明器具は黄色である。

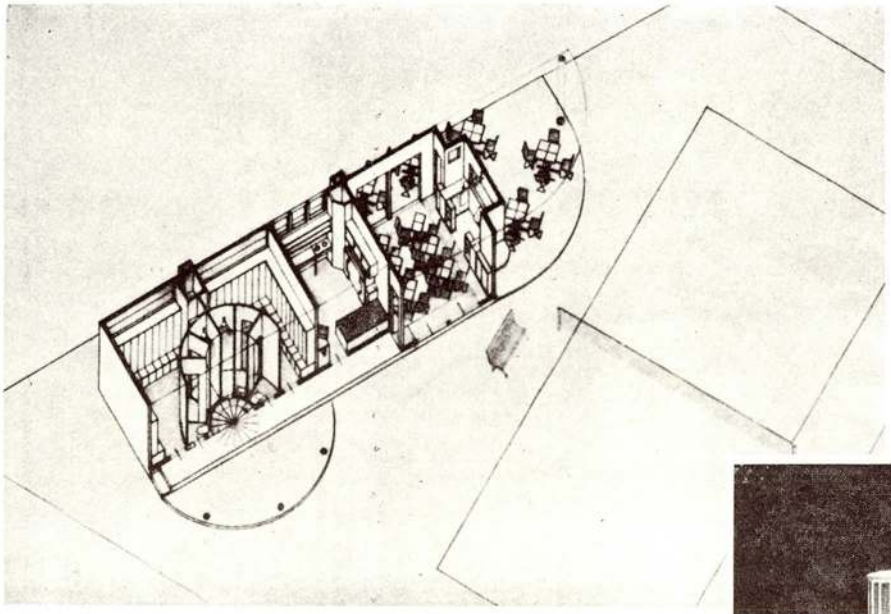
(Architectural Review 誌より　本多正道)



第3圖 平 面 圖

第３圖

（イギリス）コルセツト陳列室



平行透視圖

外　觀

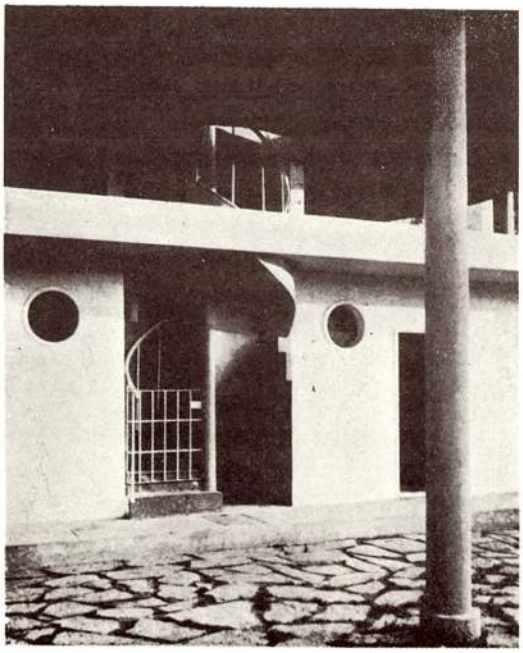


ジンゲルはライプチヒのバウシューレでグロピウスの指導をうけた若いウインの建築家で、他の現代ウイン派と大いに趣を異にし、モダンで、理論的で、空虚な所がなく、構造上の自由な手腕と、美と形に對する鋭い感受性をもつてゐると云はれてゐる。

透視圖に見る如く、出來るだけコートの部分の面積を多く有効に取るために、建物の敷地を3角形の部分に選んだが、矩形でない建物は面積に比して高價となるため建物自身は矩形とした。倚椅子、机もジンゲルの考案になる便利なもので、片付けた場合面積を取らないやうにうまく出來てゐると云ふ事である。

左側圓形の陸屋根は廻り階段によつて上る事が出來、日光浴及び散歩に役立つ。その下には男女別の更衣室と事務員の寢室、右側には休憩兼喫茶室があつて、更衣室には手洗、便所、シヤワーの設備がある。

((Architectural Review 誌より　本多正道)



廻り階段



圓形テラス

VI 62　(オースタリー) ウインのテニスクラブ

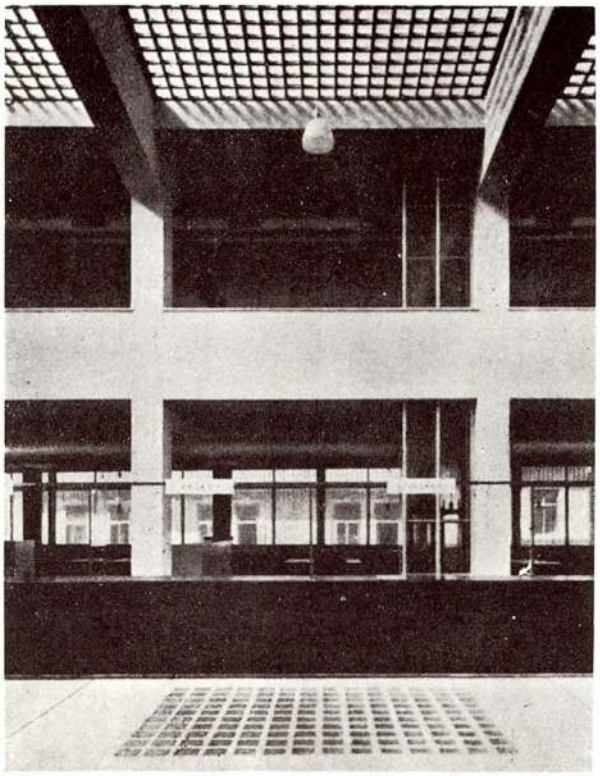
建築家　フランツ・ジンゲル

1. トレビツチユの貯蓄銀行

従来、貯蓄銀行は重厚な壁と堂々たる外観とを以て、その銀行の安全性を誇示せんことをこれ努めたものであつたが、最近にはそうした舊殻を脱した銀行が續々出來初めた。

圖はその1例である。外觀は極めて簡單、預金者を壓倒しやうなど言ふ意圖など微塵もないむき出しのカウンター、露出した放熱器等全て用途を正直に表示した儘である。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



内部客溜



外　觀

2. タトラ山の結核療養所

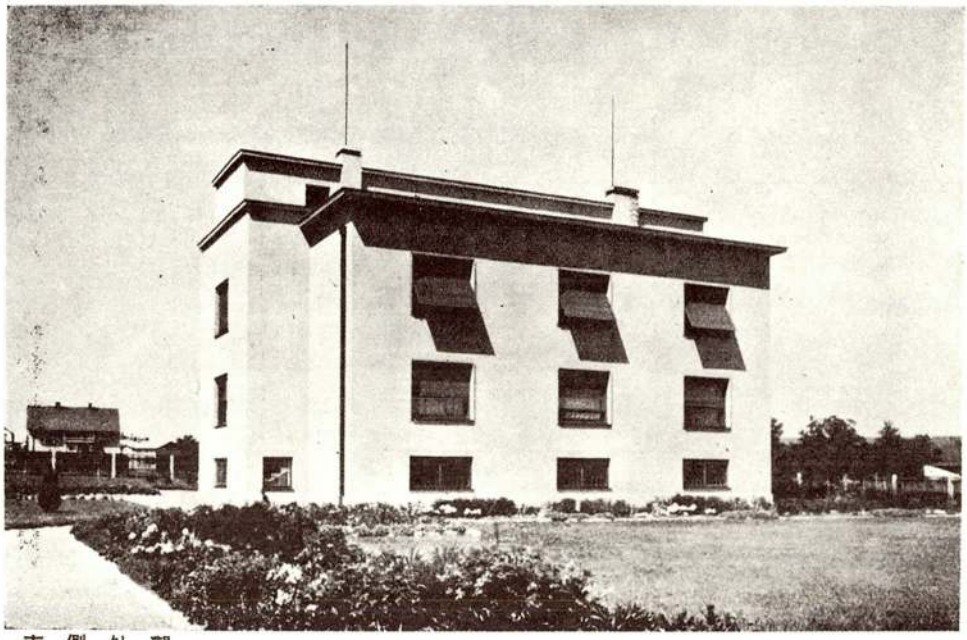
山に圍まれた、巨大な結核療養所である。1つの汽罐から熱を供給し、1つの調理場から給食し、1つの洗濯場で洗濯し、そして1つの事務所に依つて管理される點で、1戸建病室を多數建設するよりは餘程の利益があると――フオーラムは述べて居る。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)

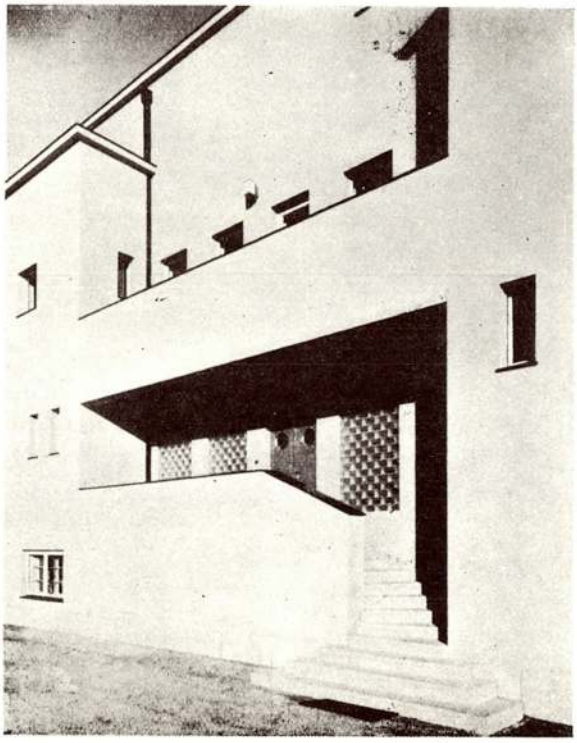


外　觀

1. (チエツコスロバキヤ) トレビツチユの貯蓄銀行
2. タトラ山の結核療養所　　建築家 Bohuslav Fuchs



南側外觀

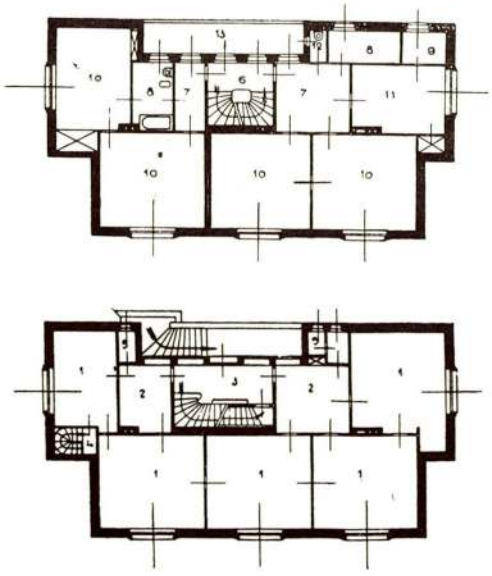


北側外觀

廣い庭園の中にあつて、1 階には二つの事務所 2 階には獨身向及家族向の二つの住宅、その上には屋上庭園と物置、豫備室がある。

（Moderne Bauformen 誌より　本多正道）

各階平面圖



1 階

1 事務室
2 ホール
3 階段
4 裏階段
5 便所

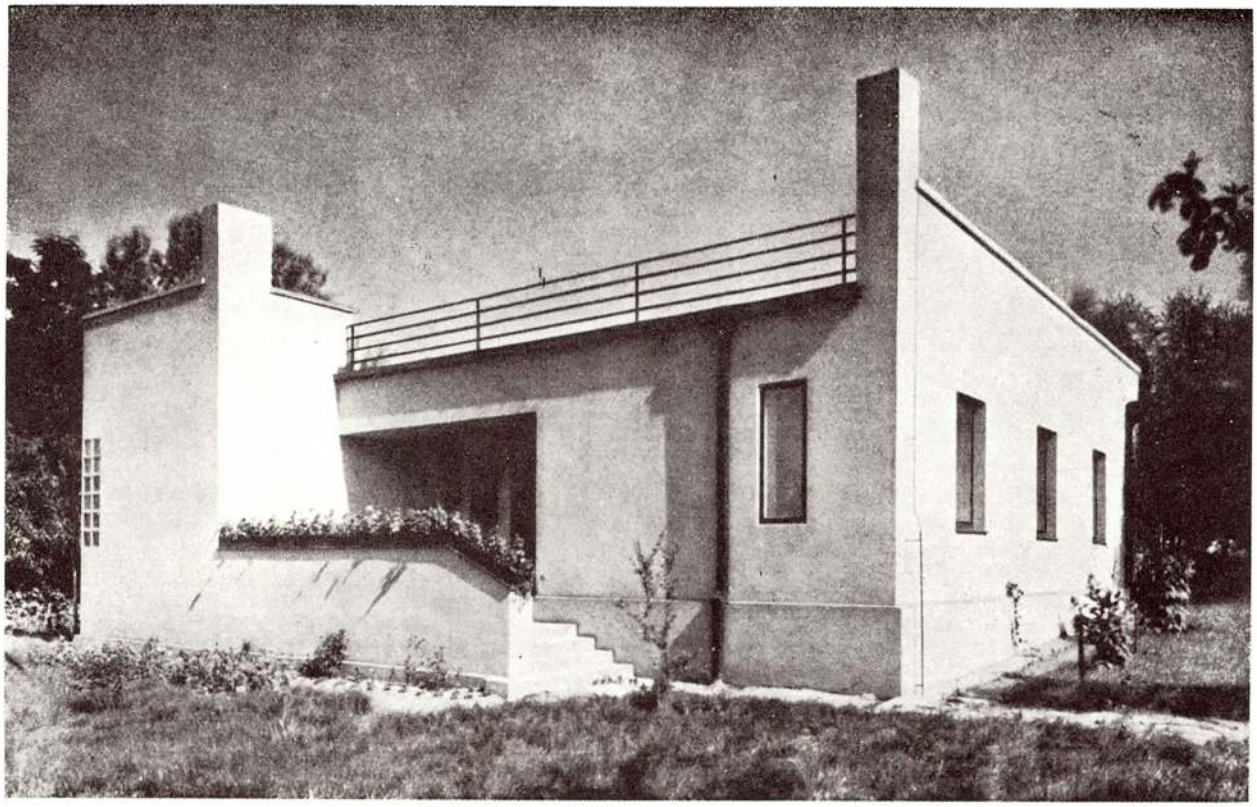
2 階

6 階段
7 ホール
8 浴室
9 食物置場

10 部屋
11 臺所
12 便所
13 テラス

VI 64　（オーストリー）事務所のある住宅

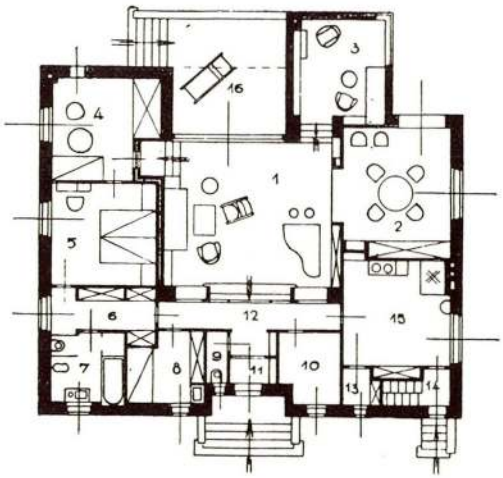
建築家　クルト・スピールマン（プラグ）



外　観

家の中央に居間があつて西側に讀書室、東側に寢室、背面に庭に通ずるロジヤがある。

（Moderne Bauformen 誌より　本多正道）

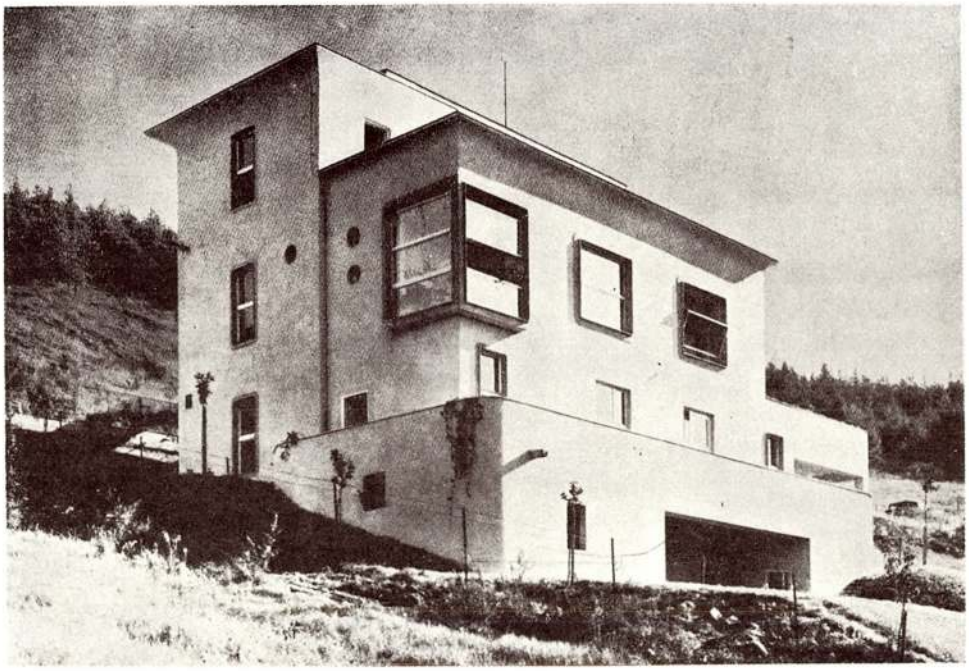


平　面　圖

1	居　間	2	食　堂
3	讀書室	4	小供室
5	寢　室	6	更衣室
7	浴　室	8	客　室
9	便　所	10	女中室
11	玄　關	12	玄關ホール
13	小食堂	14	勝手口
15	臺　所	16	テラス

（オーストタリー）　田園小住宅

建築家　クルト・スピールマン



外　觀

プラーグ市外緣の此の住宅地區はやがて最も特色のある美しい現代建築の見本市場とならうとしてゐるが、此の建物もその中の一つであつて、規則によつて屋根は平らである。

(Moderne Bauformen 誌より　本多正道)

左下地階

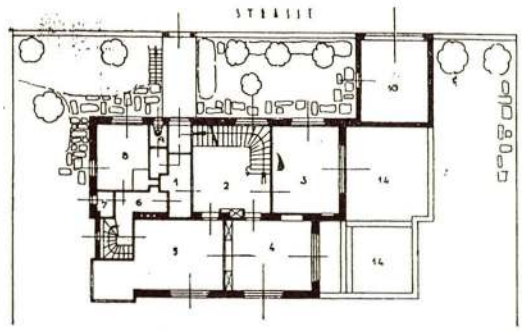
1 裏階段	2 臺所		
3 部屋	4 浴室・便所		
5 洗濯場	6 物干場		
7 コークス庫	8 汽罐室		
9 便所	10 門番		
11 女中室	12 ロジヤ		
13 テラス			

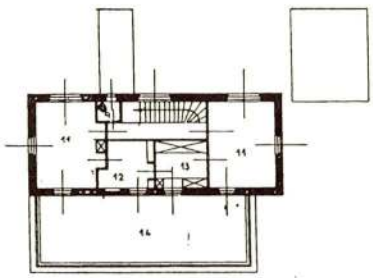
左上1階

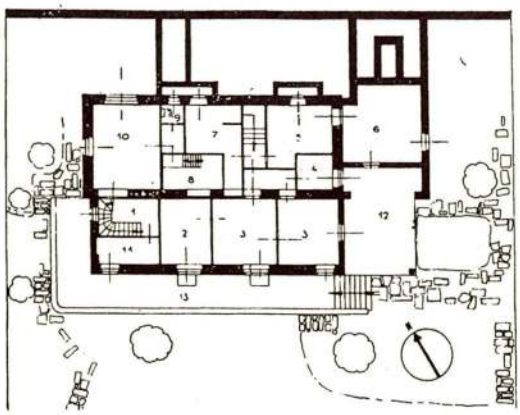
1 外套室	2 ホール		
3 音樂室	4 居間		
5 食堂	6 配膳室		
7 食物置場	8 臺所		
9 便所	10 車庫		

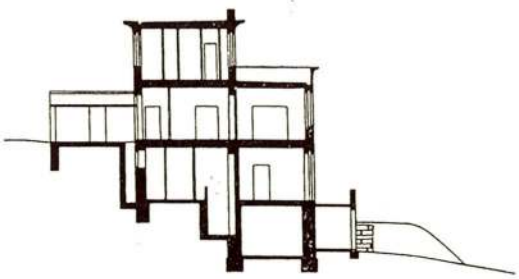
右上2階

11 寢室	12 浴室		
13 更衣室	14 テラス		





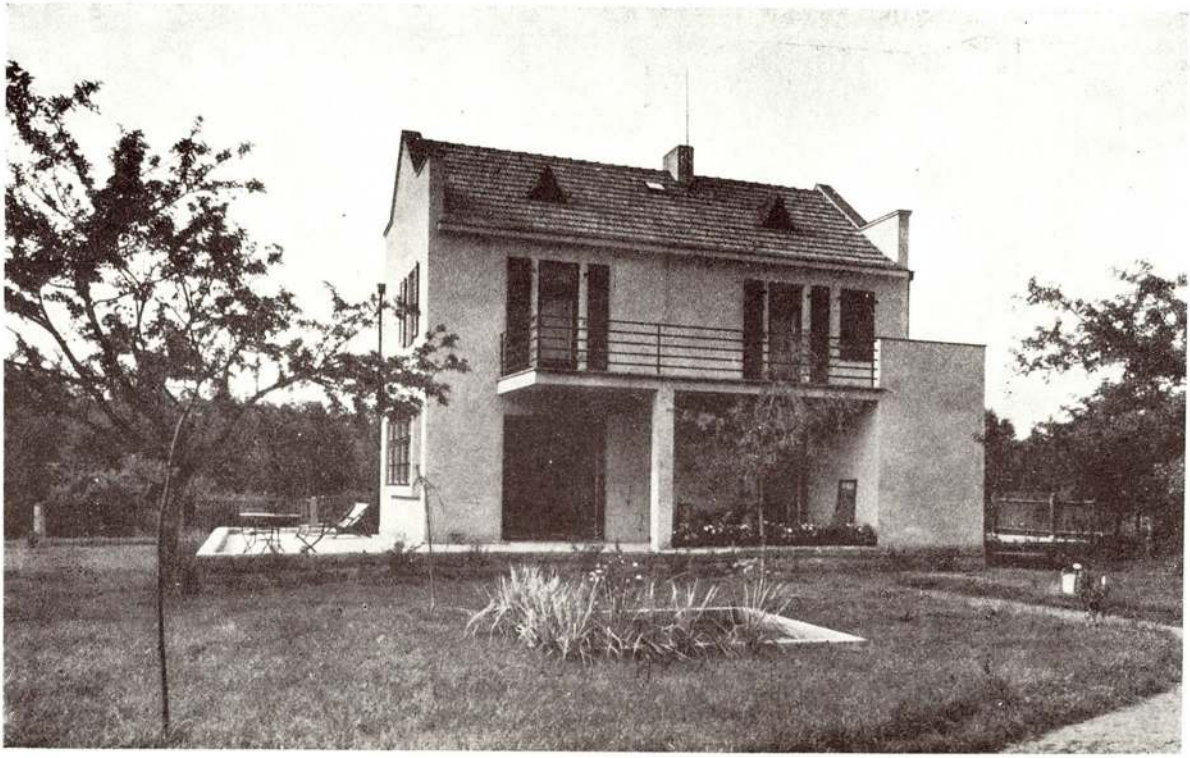




平面及斷面圖

VI 66　(オースタリー) カールリツクの住宅

建築家　クルト・スピールマン



外　觀

ボヘミアの温泉地にある小住宅で、冬期はあまり使用されず、降雪量が多いため屋根は急である。寝室、小供室はテラスに面してゐる。

（Moderne Bauformen 誌より　本多正道）

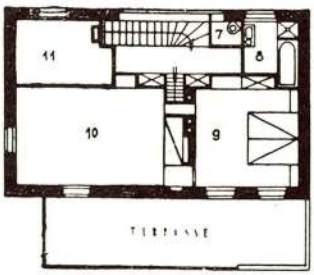
1 階

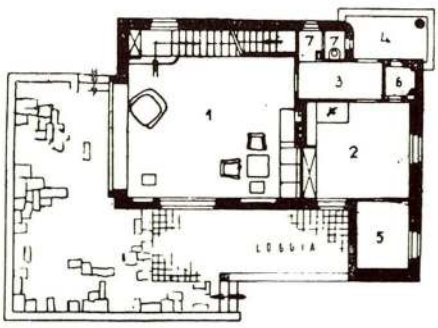
1 居　間	2 臺　所
3 玄關ホール	4 玄　關
5 女 中 室	6 食　堂
7 手洗及便所	

2 階

8 浴　室	9 寢　室
10 小 供 室	11 客用寢室

各 階 平 面 圖





（チエツコスロバキヤ）田園小住宅

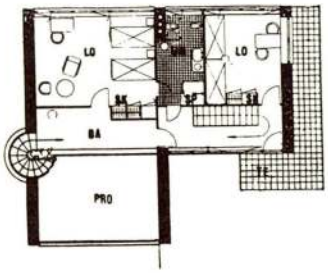


外　觀

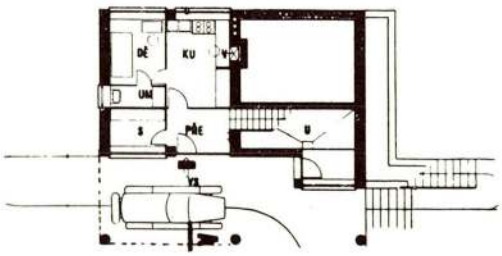
簡明直截な外觀と合理的な諸設備とを有する別莊の1例。

BA	廊　下	OD	居　間
DE	下僕室	PO	室
Jl	食　堂	PRO	露　臺
KU	臺　所	PR	事務室
LO	寢　室	PRE	控の間
		UM	浴　室
S	配膳室	V	料理運搬用リフト
SK	衣裳棚	VS	玄　關
SP	シヤワー・バス	WC	化粧室
TE	テレス	ZA	庭　園
U	薪炭庫	ZZ	溫　室

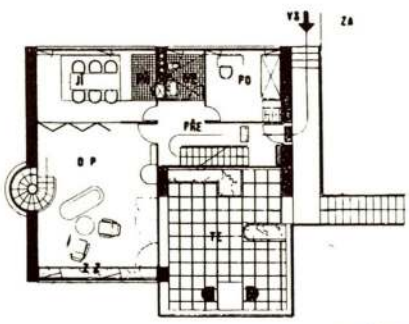
(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



3階平面圖



2階平面圖



1階平面圖

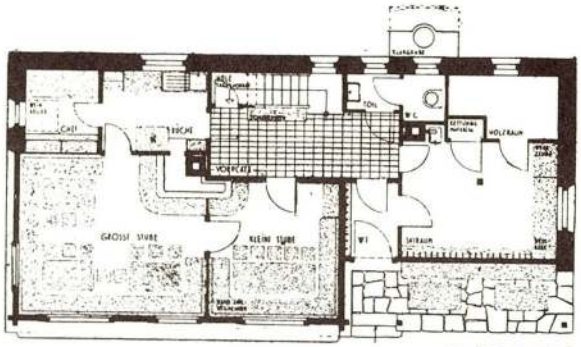
VI 68　(オーストリー) プラーグ近郊の別莊　建築家 Richard Podremny



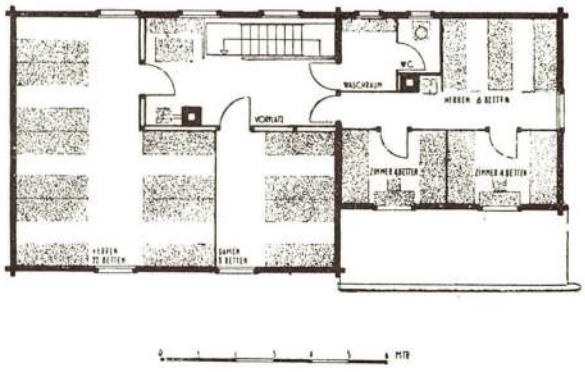
外　觀

構造及材料：柱脚はその附近から出る灰綠色の石礫で造つてある。
岩盤の上に第一階床まで堅固な腰積が高々と築かれ、外壁は 12 糎もある丈夫な丸太で造られ 2 米間に腰の石積にボルトを埋めて、緊結してある、居宅と寢室と間仕切壁は板張りで間に防水フエルトを以て遮斷してある、屋根はテクタ砲金板葺き、基礎土工事はクラブ會員等勞力奉仕によつて完成したものである。

（Baumeister 誌より　桐本楠雅）



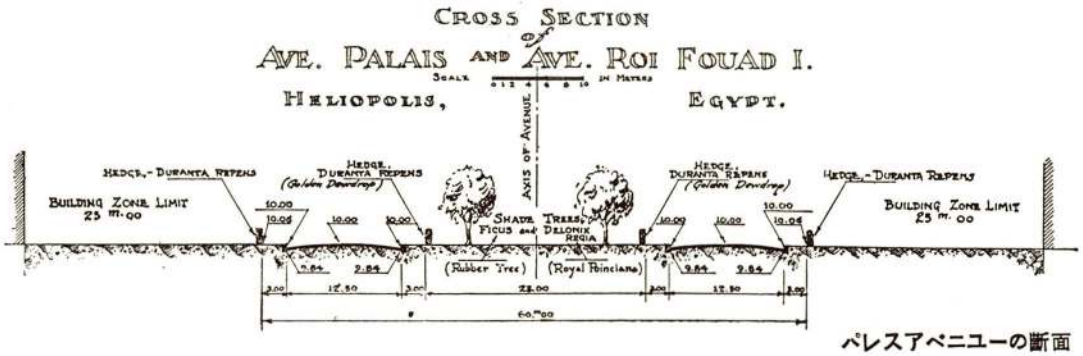
地階平面圖



1 階平面圖



ヒンドウパレスより眺めたるヘリオポリス



パレスアベニューの断面

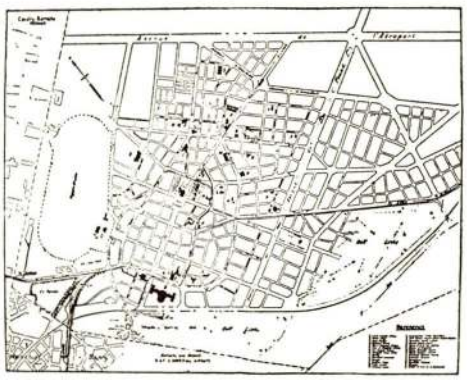
エジプトのカイロ市より、高速電車で 12 分　リビヤ砂漠の周邊部に近代都市ヘリオポリス——太陽の都市——が建設された。カイロより約 50 メートル高臺にあり、且北方より來る空氣の清涼なるによりカイロ市民の避暑地ともなり、エジプト人はニューカイロとも稱してゐる。

ヘリオポリスは、如何にして建設されたかと云へば、これは Heliopolis Oasis Co. の事業として建設されたので、1905 年に E. Empain 男を主導者とするベルギー人により計畫が初められ、當時は砂漠の中の小さなオアシスであつたものが今日では廣く鋪裝された並樹街を有する近代郊外都市となり 25 ケ年間に之を完成した記錄は大計畫に慣れたアメリカ人にさへ驚かれてゐる。

約 50 キロメートルの鋪裝道路を有する中にも、パレースアベニューは幅員 60 メートル、中央に 29 メートルの幅員の公園道路を有してゐる、而も如何なる建築物と雖も道路敷境界線より 25 メートルは建築することが出來ない、つまり建築線は25メートル後退して指定されてゐるのである。1927 年には地下 51 メートルの深さより、且つ 62 キロメートルの遠方より 2,000,000 立方メートルの水道配給施設をした。下水設備はエジプト中最も完備したものである。アメリカの諸都市と異り商業地區の建築は完全に調和のとれたものであり、設計圖はベルギーまで送付されて最終認可を受けるのである。

土地の價格は比較的低く家賃もカイロに於けるより安く最近5ケ年間にアパートメント又は住家の數は倍以上に增加した。人口 25,000 人、自動車の數は 2,500。臺所、浴室を持つ6室のアパートメントの家賃が約1ケ月 12 磅。立派な學校があり、教會があり競技場があり、せつかちな日本人には夢の様な都市でありますが、現在 Heliopolis Oasis Co. のマネジヤーである Victor Picher 氏は ヘリオポリスの將來に多大の理想と野心を持つて居ると云ふ。

(The American City, March 1934 より　内藤亮一)



ヘリオポリスの平面

日本ポルトランドセメント技術會第22回例會に出席して

三浦尚史

昨年 11 月に第 21 回例會が開かれました時我が日本建築協會から始めて代表を出席せしむる事になり不肖が參りまして、非常に有益な會合であり且又建築協會を斯會に紹介するにもよい機會となりますから今後是非連續して代表を派遣せられたき旨を報告致して置きました所、今回災害强度委員會に於て波江委員長始め各委員より前回出席して樣子も判つて居るだらうからとの理由から再び出張を勸められましたので御引受した次第で御座いました。

今回は 4 月 16 日より 18 日迄、東京丸ノ内帝國鐵道協會樓上で開催されました。この例會はセメント技術會の會員即ち全國 16 の各セメント會社の研究發表並に斯界の權威の研究發表と併せてセメント及びコンクリート等に關する諸規程規格等の研究に對する打合せ等を行ふのでありまして、セメント技術會より招待したる少數の人々が之等の發表を聞き又は討論をするのみで一般には公開せられず、且又その研究の內容其他に就ても餘り公表されませんので誠に惜しい事と存じまして會の大體を記錄して參りましたから簡單に御報告申上げます。

出席者はセメント技術會員側では小野田セメントの笠井眞三氏始め磐城、日本、豐國、東亞、土佐、秩父、大分、大阪窯業、小野田、七尾、宇部淺野、三河、常陸、各セメント製造會社より計 83 名、來賓では東京帝大の永井彰一郎博士、濱田稔博士、其他、京都帝大より坂靜雄博士、近藤敎授、吉岡氏、北海道帝大の小川敬次郎博士、東京工業大學より近藤清治博士、田邊、谷口兩博士其他狩野春一氏始め各學部より多數、早稻田大學より秋山加藤兩氏、名古屋高工の北澤氏、熊本高工の吉田彌七氏(缺席)、金澤高工の大串、永井兩氏、仙臺高工の內田氏、其他東京及大阪の工業試驗所、內務省の東京、橫濱、新潟、大阪、神戶の各土木出張所より、內務省土木試驗所、大藏省營繕管財局、陸軍省より經理局、築城本部工兵學校海軍省よりは建築局、吳海軍建築部、遞信省經理局、鐵道大臣官房研究所、警視廳建築課、東京市土木局、更に大林組、淸水組、大倉土木其他の各請負會社より代表者、尙建築學會より內藤多仲博士が出席せられ、計約 100 名、セメント並に混凝土方面の權威者の總出動と云つた形でした。

議事日程は第 1 日 (4 月 16 日) は第1、昭和 7 年 11 月より昭和 9 年 4 月迄の要務の報告、第 2 、標準砂委員報告。第 3 、早强セメント規格に關する件。規格委員報告。第4.研究報告及講演の A. (詳細は後述) 第 2 日(4 月 17 日)午前 9 時より第5、風篩試驗に關する件、第 6 、研究報告及講演のB(後述)。第7、軟練モルタルに關する件。第8、研究報告及講演の C。第9、負傷統計に關する件。第10、本會經費に關する件。 第 3 日 (4 月 18 日午前 9 時より)
第 11 、コンクリート委員報告。第 12 、篩網調査委員報告。第 13 、コンクリートに關する研究報告及講演。第 14 、コンクリート道路に關ずる件で同日日程終了後晩餐會があり解散しました、以下各議事、報告、發表等の大略を御紹介申上げます。

標準砂委員報告

標準砂は日本ポルトランドセメント技術會に於て昭和 4 年 5 月より檢査の上供給を開始されまして昭和 8 年 12 月迄にその數 33,849 袋に達しました。その各年度に於ける供給數量も逐次增加し月平均數に於きましても昭和 4 年には 463 袋でしたが昭和 8 年には 720 袋となり、昭和 4 年を 100 とする時 5 年は 113,6 年は 120,7 年は 131,8 年は 156 となつて居ります。その供給先も官公衙、學校、民間會社商店、會員會社等殆ど全國に渉つて居る由で、セメントの試驗が益々廣範圍に

なつて行くのはお互に喜ぶべき事で御座います。

標準砂の檢査は毎日午前 8 時及 10 時午後 2 時及 4 時の 4 回で之を平均して 1 日分の記錄として之を月に纏めて技術會に報告する樣になつて居ります。而してその方法は、充分混合均齊した製品約 130 袋分を貯槽に移し之の上、中、下、三層から試料を取り次の内規に合格したものを檢査濟と致します。

(1) 粒　度　1 cm² 64 孔篩を通り 1 cm² 144 孔篩上に 95 % 以上殘るもの

(2) 試　料　1 g に對する撰別合計粒數 1100 以上 1300 以内

(3) 夾雜物　重量の 2.5 %以内

檢査の結果は粒度に於ては 99% 以上になつて居り、粒數も 1,130 前後で、現今の標準砂が非常に向上して均齊されて居る事を示して居ります。

尚數年前より本年度に掛けて本委員會では相馬標準砂と外國標準砂との比較研究をされました。その結果も斷然我が國の標準砂が優良でありました。今磐城セメント社に於ける各國標準砂を使用したモルタル强度試驗の結果を見ましても下の表の如く米國産の標準砂が少し高いだけで他は皆我國のより弱い事を示します。

强度指數表

强度指數 / 砂名	引張應力			壓縮應力		
	3日	7日	28日	3日	7日	28日
相馬標準砂	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
米國標準砂	93.5	92.6	101.5	109.5	100.2	99.7
英國標準砂	82.3	82.4	82.8	91.0	90.6	93.9
獨逸標準砂	90.0	87.6	97.7	92.1	91.4	95.7

尚淺野社に於て撮つた顯微鏡寫眞を御覽下さい一見して日本のものが粒度均齊である事がわかります。



日本標準砂



米國標準砂



英國標準砂



獨逸標準砂



佛國標準砂



瑞西標準砂

早强セメント規格に關する件

（規格委員報告並に討論採決）

昭和7年2月に早强セメント規格案に關する照會を各方面に配布して、その解答を纏めて昭和7年11月の前回の例會で案を練り討議をした結果

（1）「早强ポルトランドセメント」規格を普通の「ポルトランドセメント」の規格と別にする案

（2）普通の「ポルトランドセメント」規格に早强ポルトランドセメントに關する規定を織込む案。

の二種を作り再び關係者の意見を求める事になりまして、昭和8年4月各方面に2案を示して回答を求められた結果が次の如くになつたのであります。

即ち照會狀發送數304に對し回答數230、75.7%の回答率（日本建築協會も災害委員合議の上回答しました）の中第1案に贊成のもの原案を其儘贊成のものと修正付贊成のものとを併せて 37.4 % 第2案に贊成のものも同樣2種を併せて 62.6%（但し回答中意見のないものと何れでもよいもの32通を除く）でありました、尙第2の原案其儘の贊成は41.4%しかありませんから、其他の修正意見をまとめて見ますと次の如くになります。第1案に對する修正案は名稱粉末の程度凝結時間强度灼燒減量等に對するもので第2案の修正意見中に包含されるものであります。第2案の修正意見中名稱を「早强」を「高級」としたいとの希望が會員たるセメント會社から10件もありました之は製造會社として或は無理のない希望とも考へられます。又28日の試驗を省略し得る事を加へたい希望も會員側から13件もあります其他强度の問題等も種々ありましたが結局規格委員の御意見としては、名稱は多數贊成の早强とする事、粉末程度、凝結時間、硫酸含有量等を普通ポルトランドセメントの其れと區別する事は合理的でありますが贊成者が甚だ少ないのは更に今後の研究を要する事であります。又强度試驗に於て1日2日の强度規定を設け或は28日の試驗を省略する等の意見がありますが結局第2原案を支持する樣でした以上の結果により討論を致しました。中安氏は第2案反對で少なくとも第1案に立脚して修正すべきであるとなし 23 日の試驗省略を訝かれ更に凝結の始發は 45 分でよいとの御意見を發表され之に對し小柳委員の應答があり、吉田氏、小川敬四郎博士等は第2案に御贊成の樣でした。笠井議長は各國には多く普通セメントと高級セメントの規格が別々になつて居り、規格上の强度の差は本邦のが最大であり、反對に實際の强度が非常に接近して居るとの參考意見があり大勢は第2案に傾き種々討論の結果委員に一任して、最後の決定の前に需要者側の早强セメントの試驗成績を參考にして强度の決定をする事になりました。從つて本年中には第2案を骨子とした成案を得て商工省に申請して來年の始め頃には規格として發表せられるのではないかと考へられました。之によつて久しく懸案でありました早强セメントが始めて公に使用される事になる譯であります。茲に第2案と云ふのは現行のセメント規格に第4章として强度の件を加へる事になるのです、即ち次の表以上の强度を有するものを早强セメントと稱する事を得る事になるのです。

成形後の日數	3日	7日	28日
耐壓力 kg/cm²	400 以上	500 以上	600 以上
抗張力 kg/cm²	30 以上	34 以上	38 以上

研究報告及講演

1. セメントクリンカーの構造に及す原料調合物の細度並に燒成後の處理の影響　松浦二郎氏

原料調合物の細度並びに燒成前に水を加へ、又は加壓して固め、密度を變化させる事によつて、1,450°で約1時間燒成後クリンカーの構造に及す影響を顯微鏡試驗をした結果の細かい發表でした

2. アリットの研究　小柳　勝藏氏

セメントの製造法の研究上最近X光線を使用するに至り、この結果アリットは珪酸三石灰である事が確定されました。從來アリットの生成溫度は1700°—1800°Cであるが、1500°C位で生成されるセメント燒塊中にこのアリットがある理由に就ては酸化鐵礬土等の熔媒の作用によるとなされて居たが、小柳氏は螢石等の酸化鐵礬土の少ない原料からもアリットを作る事を實驗して、且工業的に多量に生成し得る事を證されました。この結果セメントの品質を現在より更に充分に改良する餘地がある事を知る事を得たとの事でした。

3. 特殊ポルトランドセメントの研究　秋山　桂一氏

セメントクリンカー中にクロム及マンガンの合量8%以下を含有させる事により、各々を單獨に含むセメントより遙かに强力で且侵蝕作用に對する抵抗性の大なる特殊セメントを作られ、之に對する御報告がありました。

4. 本邦市販ポルトランドセメントの水和熱に就て　藤井光藏氏、淺岡勝彥氏

クリンカー化合物と水和熱との關係並に市販セメントの水和熱に關する研究を發表せられました

5. セメント回轉窯の熱經濟に關する研究　吉井豐藤丸氏

この方面の研究が從來區々たる結果を示して居るのは、窯及クーラーのセルから逃げる熱損失の研究の不充分とダストによる熱損失の看過及窯內燃燒理論の誤認によるものとの考へから之等の熱損失を正確に測定されたもので製造方面に對しては有益な研究でした。

6. ウエルドリル式爆破に依る石灰石採掘に就て　淺野　忠氏

小野田セメント會社に於て高さ24mの石灰石採掘場で孔徑150mmのウエルドリル式爆破を行ひ11回の爆破により34000tを採石した實績を述べられました。從來のベンチング式爆破に對し石灰石1t當り山落費で40%の經濟となり積込運搬費を含む石灰石原價に於て約50%の低減を見るとの報告です。

研究報告及講演のB

1. アンドレアセン氏法による粉末度の測定に就て　吉岡　藤作氏

セメント製造技術の一次的基礎事項たる粉狀物の粉末の程度の測定法としての新方法の研究である

2. 光電管に依る粗懸濁液の濃度、分散度の測定に就て　野田　稻吉氏

光電管を用ひてセメント粉末度を測定せんとした研究。

軟練モルタルに關する件

軟練モルタルに於ける九味浦砂混用に關する試驗報告が委員からありました。昭和7年11月前回の例會に於て軟練モルタル今後の試驗に關する打合せがあり其の後諸打合せの結果、軟練モルタルに用ふる砂に關しては現行標準砂は齊粒のため軟練モルタルに於てセメントと砂の分離多く不適當でありますから現行の標準砂に細砂を混じて相當のGradingを附けたものとする事になりその細砂も種々考慮の結果朝鮮九味浦產の海砂が品質粒度に於て最適として之を旭硝子會社の好意により分讓を受け、現行標準砂に何程を混合すれば軟練モルタル試驗に於てセメントと砂の分離を防げるかに對して關係各方面に豫備的試驗を依頼しました。その結果は次の如くでありました。

九味浦砂混入によりセメントと砂との分離を相當の程度に防げるが、一般に水比大なる程分離が大である事は認められました。又分離の小なるためのこの細砂の混入量は水比60—70の範圍では標準砂70に對し九味浦砂30を可とする所が多くありました。又强度に就ては細砂を混入したものは相當大となる事は一般に一致して居りましてその標準砂との比は70:30　80:20　60:40等種々ありました。軟度に關しては70:30程度の細砂混入に於て水比65のものは軟度著しく大で試驗不能となり水比を50としても軟か過ぎてコンクリートとの對比は困難との意見が多い樣でした之を要するに軟練モルタルの試驗は今後幾多の研究問題があり會員と一般と協力して之に進むべきであると考へられました。

研究報告及講演のC

1. 軟練モルタル試驗用砂に就て

眞田義彰氏、島田直意氏

軟練モルタルに關しては一昨年東大の永井博士より細砂混入其他の提案後各方面で研究されて居りますが、目下使用されて居る供試體の種類は、1. 圓筒 5cm×10cm （斷面 19.625cm²） 2. 圓筒 3.586×7.136 （10cm²） 3. 圓筒 1.595cm×3.19cm （2cm²） 4. 立方體 現行規格型、 5. 特殊供試體流用 （4cm×4cm×16cm 又は 4cm×4cm×20cm）の 5 種があり、標準砂と細砂との比も 70:30 80:20 水比は 65%, 50%, 軟度はスランプ 20cm に相當するものが多く行はれて居ります。本試驗者も之に準じて細砂は 400—3600 孔篩の間にある天然細砂（九味浦砂、大野砂）と人工破碎細砂（小高破碎砂）を使ひ、80:20 70:30 及天然グレーデイングを有する相馬原砂を骨材として水比 50 65 の 2 種に就て詳細なる試驗をされました。その結果分離に就ては水比大なる程砂とセメントの分離も大となり又標準砂と細砂の分離も軟度が大となる程激しくなりました。

强度に關しては 5cm×10cm 型と 1.595 cm×3.19cm 型の圓筒を用ひセメントと砂の比 1:3 に定めて試驗をされました。 80:20 の時水比 50 の時は前記 2 つの型の强度一致せず 70:30 の砂の時は水比 60 の時 2 型の强度が凡そ一致します次に同じ 280% のフローの時に就ては 80:20 の砂で 28日 の强度が 240kg/cm² 7 日は 120kg/cm² でした、又同じ軟度で 70:30 の砂の場合は大型では强度が凡そ一致したが小型では大分異りました。其他種々の場合の平均偏差を取りました結果前記 3 種の細砂中九味浦産が最良であり、セメントと骨材の分離に就ては 80:20 の砂の時が 70:30 の砂の時より分離が大でありました。强度に就ては水比 65 の時は各砂の强度が 50 の時より接近して居ります。强度の偏差は大型の方が小であり且强度は大であります、即ち九味浦砂を 70:30 の割に混じた砂が軟練モルタルの砂として最適である事を知りました。

2. 軟練モルタルの軟度測定に就て

田中 太郎氏

九味浦砂 1：標準砂 2.5 調合 1:3 の軟練モルタルの水比を變更して大型小型のスランプ フロー 兩法によつて軟度を測定しました。大型とは所謂普通のスランプ フロー器で、小型スランプとは大型の $\frac{1}{2}$ 搗棒の徑も $\frac{1}{2}$ としたもの、小型フローは型は上徑 7cm 下徑 10 cm のもの、テーブルの徑は 300mm。

試驗結果の一部は次の通りであります。

	水比	大量練り				小量練り	
		大型		小型		小型	
		スランプ比	フロー	スランプ比	フロー	スランプ比	フロー
普通セメント	45			3.2	132	3.7	124
	50	37	213	23.5	189	21.7	168
	55	74.3	266	67.1	242	54.8	218
	60	84.7	303	79.7	267	76.2	248

比較の結果スランプ法は偏差大で水比小の時は更に著しい。大型フロー法は偏差最小であります、次には小型フローの小量練が偏差小です。依てこの小型フローが操作の簡便と材料の少量な事によつて便利と認められます。

小型フロー法による個人偏差は 3 人の分を平均して 4.43% 又人的誤差は 11.07% であります。小型フロー法により水比と軟度とを一定して 2 名の試驗者によつてセメント對砂の調合比を求めましたら 1:3.63 1:3.46 を得ました。

3. 粉末程度を異にするセメントの軟練モルタル及コンクリートの强度に就て 眞田義彰氏

化學成分の同一で、粉末の程度が 4900 孔篩上の殘滓が 0.6 2.0 5.0 8.0 の 4 種類のセメントを使ひ標準砂 70 と九味浦砂 30 を混合したものを骨材として水比 50 60 70 の 3 種類の軟練モルタルのセメントと砂の分離、標準砂と細砂の分離、耐壓强度の實驗をされました。

型は 5cm×10cm のものです。セメントと砂の分離はセメントが細かくなる程大でありまして又標準砂と九味浦砂の分離、セメントが荒い程大ですがその差は少であります。

耐壓力は 4 個の供試體の平均ですが荒いセメントは細かいセメントより 20% 位少で而も偏差率が大であります。

更に 1:2:4 コンクリートで水比 50. 60. 70 に付試驗を致しますとその平均偏差は次の如く荒いセメントが大でありました。

	平均偏差			
セメント	A	B	C	D
コンクリート	2.17	2.79	3.17	4.87
軟練モルタル	3.06	4.28	4.3	5.41

又軟練モルタルの强度とコンクリートの强度の比を見ますと次の如く强度の增進率が異つて居ります。表中の数字は 軟練モルタル强度/コンクリート强度 の比であります。この比は寧ろ少し荒い細砂の相馬原砂等を使用した方が一致する様でありました。

水比	セメント	3日	7日	28日
50	A	.97	1.03	1.
	B	.86	1.02	.98
	C	.77	.94	.97
	D	.77	.85	.91

4. 砂入セメント試驗强度とコンクリート强度との關係　　橋本 太郎氏

使用セメント普通6種、高級1種、混合3種で3日、7日、28日、6ヶ月、1ヶ年の各材齡に於ける規格モルタル試驗、コンクリートと同一水比を有する軟練モルタルの强度とコンクリート强度との關係を調査されたものです。コンクリート及軟練モルタルの强度の上昇は $S=\frac{t}{a+bt}$ { S：强度 t：材齡 a：セメントにより異る定數（40—200）b：定數（21—27）} の實驗式によつて示されます。この定數 a はコンクリートの初期强度を支配し、b：は長期强度を支配するものです而して二定數共コンクリートと軟練モルタルとで餘り一致しません。

又規格モルタル3日の强度はコンクリート7日の强度と大體一致し軟練モルタルは同一材齡のコンクリートと一致する事を認められました。更に九味浦砂を用ひた軟練モルタル試驗で種々の型を使用した結果とコンクリートとの關係に就說明がありました。

篩網委員報告

昭和8年9月、メートル法に準據する混凝土骨材試驗用標準篩を新に制定するとき、A 篩網のみによるか B 篩鈑と篩網とを併用するか、其他修正案に付關係方面212箇所照會を出し、157の回答を得ました。その結果 A は 40%B は 60% となります。而してその內容は會員では B案が絕體多數で會員外では A 案と B 案が半數宛であります。

B 案は篩が正確に作製せられ、篩別の場合に誤差が小であり、耐久性があり國產品で間に合ひ價格が低廉である等の利點があります。其他 A, B 案共修正意見が多數ありましたが併用の場合に網と鈑との境界を 2.5mm にするか 5mm にするかの問題に關しては前者の方が 37% 後者が 18% の賛成でりました。又眼孔の大さ、其他は大體に於て委員案に賛成の様でしたので委員に於てその案により昨年 12 月に試作されました。その結果も大體良好なので結局之を採用する時には 1. 篩網のみ、2. 篩網と篩鈑を共に採用、3. 篩網を 2.5mm 迄 5mm から篩鈑にするとの3案の中、第3案を取る事に可決、商工省に上申の事になりました。即ち孔眼の寸法で申せば（0.15mm. .3 .6 1.2 2.5）以上網 5 mm, 7. 10. 15. 20. 25. 30. 40. 50. 60. 80. 100mm）以上鈑となる譯であります。

コンクリートに關する研究報告及講演

1. 警視廳に於ける現場コンクリート强度試驗續報　　樺藤 利光氏

昭和6年12月より8年6月迄の各種試驗の結果を發表されましたもので、本年度建築學會論文と同一でありました。

尙今回は軟練モルタルの試驗をもされて詳細な報告がありました、現場コンクリートのスランプに就ては 105 回の試驗中 10cm から 25cm 迄ありますが大體 19cm—23cm が多い、又鐵筋鐵骨構造の方が少し軟かい様です。强度試驗は1週では 31—124 kg/cm² 平均 62.7 kg/cm² 4 週では 33—250kg/cm² 平均 145.8kg/cm² であつた、許要强度を多く取る現場が次第に出來てきましたが、その合格率は 45 kg/cm² の時 86 回で 54.7% 50kg/cm² の時が 12 回で 66.7% の合格 60 kg/cm² の時 26 回で 76.9% の合格となつて居ります。又 135 kg/cm² を基調とした調合別の合格率は下表の如くで 1:6（セメント：砂＋砂利）以下の調合は矢張用ひない方がよい事を示

調合	1:4	1:5	1:6	1:7	1:8
合格率	100%	92	65	40	30
回数	1	27	130	38	7

します。更に含水率に就ては各砂を篩別して求められました結果粒の荒い砂は濕れて居る様でも含水率は小で細かい砂は乾いて居る様でも含水率は多い事を認めました。

2. 水平荷重を受けるラーメンの實驗

田邊　平學氏

之も本年度建築學會で御發表の論文の一部でありました、田邊博士は既にこの實驗を9年も續けて居られる由で全く敬服の他ありません、材料は1:2.5のモルタルで水比 75 スランプ 24—25cm 鐵筋は 6mm φ でフープは 12 番の針金を燒戻したものです鐵筋の有無に拘らず、壁厚が大となるに從つて初龜裂の値は大となり、降伏點は鐵筋がある方が强い。最大荷重は鐵筋のある壁の方が非常に大であります、又無壁のラーメンは僅かの荷重で撓みますが有壁ラーメンは撓が少なく。有壁ラーメンの無筋のものは龜裂後の變形はないが、有筋のものは龜裂後も大いに變形します。

又分布係數に關しては有壁ラーメンの撓みの小なる時は分布係數が大となりますが、撓みが大となると小になります即ち僅かの地震の時は壁は有効に働くが大地震の時は働が少なくなるとの事です。

3. コンクリート標準圓壔供試體の抗壓强度及び蒸發減と養生取出後の經過時間との關係

吉田　彌七氏

コンクリート供試驗體試驗は才中より取出し後直ちに行ふべきであり、之を空中に放置して置きますと關係濕度約 50% の時 30 時間に於て約 1% の蒸發減があります。この乾燥の結果强度は大體に於て增大します。然し短時間空中放置の場合は却つて減少する事もあります。依て現場に於ても假枠取外し後充分乾燥を避くべき事を痛感されます。

4. 鐵筋コンクリート最近の發達に就て

坂　靜雄氏

鐵筋コンクリート構造の發明後 80 年になりますが、最近材料、施工法、構造理論の進歩により鐵骨構造の部を浸しつゝあります。橋梁に就きましても 100m 以上のスパンのものが鐵筋コンクリートで多く出來る様になりました。即ち佛國に 186m セーヌ河に 134m 獨のメター河に 112.8m トルコに 108m 等の例があります。斯かる大橋梁が出來た譯はセメント品質の向上配合法の合理化した高强度コンクリートで自重の輕減等でありますアメリカで人工骨材として輕量の砂利を用ひて居りますが强度が思ふ様に出ません。又高級鋼の使用により梁の破壞强度を高められ、コンクリートも振動詰とすれば非常な强度の增加をなします、コンクリートアーチは硬化收縮のため二次應力の增大を來すから之を防ぐため振動詰とし更に機械力により應張鐵筋を引張つて置く方法等も講ぜられます。

建築方面で云へば、米國では 35 階以下の場合はコンクリートが有利であるとされて居ります。規則は 20 階ですから之は階數から見て鐵骨造を犯して居るものであります。又シヤーレーの研究により、柱梁スラブの他に平面及曲面の平衡による支持力をも考へる様になりました、之により荷重は壁自信が支へ各部分に曲げモーメントを受ける様にされます。この考へは潛水艦高速鐵道の車體等には利用されて居るのであります。又構造計算式でも 1931 年から獨逸では鐵筋の强度を 100% 迄使用し得る式が使用されて居ります。今後この方面の發達には構造理論上曲げモーメントが生じない様になる研究が必要であり、之には請負會社で優秀なる技術者を充分に優遇して研究の餘裕を與へ構造法の向上を期すべきであります。

5. コンクリートの膨脹及收縮に就て

加藤　順吉氏

ニートセメント、モルタル、コンクリート等のセメント種類、細度、混合物、水量、配合、骨材種類、環境、材齡等を異にする場合の熱膨脹含水分の變化による膨脹收縮、硬化作用による膨脹收縮並に骨材の熱膨脹、含水分の變化による膨脹收縮更に戶外にあるコンクリートの膨脹收縮に關する極めて詳細なる研究發表でありました。

コンクリート道路に關する件の報告以上で第 22 回例會の各議事の大要を御報告申上げましたが各講演者各位の御發表は私がノートして參りましたものと講演要旨の印刷とを參照しまして極く大略のみを記述したのみで却つて講演者各位の御迷惑になりはせぬかと案じて居ります。幸ひ御海容下さらば光榮です。(1934. 5. 1. 記)

建築材料陳列場記

●東亞ペイント製造株式會社

西淀川區高見町 1 ノ 36
電話土佐堀 1390 1877番

當社は大正4年創立せられ、後大正8年古河の經營に移さるゝに及んで、業界の一角に旺勃の氣を吐き、堅實なる資本的背景の下に、多數の各專門技師を擁する古河理化試驗所並に自社研究室に於て技術的研究を遂げ、責任ある製品の提供を以て需要家のための良きメーカーたるの使命を全うすべく、古河一統の良品主義を標識として且つこれを廉價に生產することに不斷の努力を傾注し、發賣に係る各種製品は國產品中の主流を以て目されその輝ける存在と業績は本邦塗料史の貴重なる幾頁かを飾るところのもので、現に陸軍省、海軍省、鐵道省指定工場である。

製造品目は

堅練各種ペイント	調合各色ペイント
美術壁塗料類	練合顏料類
各種ボイル油	乾燥劑類
各種ワニス	木材着色劑類
各種パテ	防錆塗料類
耐酸塗料類	各種船底塗料
各種特殊塗料	粉末顏料類
琺瑯用顏料類	ラッカー類

等である。

今、出陳の下記三種に就いて少しく說明を加へると。

新塗料『グリプトン』

〔特徵〕 待望の新塗料「グリプトン」は、固着力と彈性と耐久力との最優秀なるフタール酸樹脂を主成分とし、硬度と、早乾性と、耐水性と、光澤とを附與するために、其他の合成材料を配合し各種原料の調和によつて出來上つた新塗料であるから、ラッカー、石炭酸樹脂塗料、油性高級エナメル等と比較して、耐久力、可撓性、耐ガソリン性、耐重油性、耐グリース性、耐熱性、粘着性、耐酸性、木材塗裝戶外曝露試驗等の諸試驗成績頗る優秀で、塗膜の肉附良好、塗上りの光澤も絶美で研磨を要せず、故に塗裝の能率を高め、更に龜裂風化を見ることがない。

〔色合〕 近代明色を網羅してゐる。

〔用途〕 建築、車體、船舶、機械、電氣用品の塗粧に適してゐる。

〔容量〕 1 立、4 立。

合成樹脂ワニス『カクタス』

〔特徵〕 本品はその名「カクタス」(覇王樹)に表徵さるゝ如く、樹脂製ワニス界の覇王を以て任じ、最近急激の發達を遂ぐるに至つた樹脂合成化學の粹を聚め、それに配するに經驗深き植物油加工の熟練せる技術を以てして、この合成樹脂ワニスの新製品を完成したのである。

「カクタス」は原料が合成品であるため、品質一定してゐるから、隨つて製品の品質も亦均齊にして、塗肌の平滑優美さは誇るに足るものがあり乾燥迅速、毫も軟化粘着を來さず、加ふるに耐久力強く、熱湯、アルコールに耐へ、耐藥品性も亦最良である。

〔種類〕 外部用、家具用、艷消用の三種がある

〔用途〕

外部用＝建築物、車輛、自動車、船舶外部。
家具用＝一般家具、家屋、車輛、船室內部。
艷消用＝家具、扉、天井、壁面等。

〔容量〕 1 瓩、4 瓩、16 瓩。

スパーワニス『トアスパー』

〔特徵〕 スパーワニス＝それは直接濕烈な雨露日光の曝露下にある船のマストのスパーに塗用して、克く衝撃に耐へんがために作られた特殊のワニスで、塗裝物は必らずしもスパーに限られた譯でなく、その名稱は今日では耐久、耐水性の極めて優秀なるワニスといふ意味をもつに至つた。

「トアスパー」は當社が實に我國最初のスパーワニス研究發表に係るものにして、加工樹脂と、純粹の支那桐油との適量の配合、適度の加熱融合

等の技術的進歩から、優秀完全なる耐水、耐熱性スパーワニスの製造に成功し、ワニス塗装工業に新生面を開拓することゝなつたのであるらしい。

〔用途〕 建物、車輛、船舶の内外、床板、浴室化粧室等の塗装に最適である。

〔容量〕 1瓩、4瓩、16瓩。

●宇野洋瓦株式會社大阪支店

大阪市天王寺區大道3丁目 130
電話 天王寺 258 番

當社は大正5年岡山縣宇野港に創立專ら各種洋瓦（フレンチ瓦スパニッシュ瓦S型瓦日本型棧瓦）を製造販賣せし處年々需要增加の爲昭和5年愛知縣高濱港に第2工場を設置し現在年產約 3,000,000 枚製造してゐる。當社製品の特長として承知する諸點については次記の如くである。

フレンチ瓦の特長

1. 品質堅牢　耐火性特種粘土を科學方法により高壓式プレスを以て壓搾製形したるものを高熱にて燒成してゐるから他に比類なき堅牢なものとなつてゐる。

1. 色彩不變　ソリットに特殊釉藥を混合し高熱に燒成せる爲表面硝子皮膜にして風雨に曝らさるゝも褪色する事がない。

1. 防水耐寒　品質緻密なるを以て吸水せず寒氣烈しき所に於ても凍傷にかゝる虞なく且又耐酸の効がある。

1. 排水完備　瓦の表面に多くの溝を彫刻し且組合せを利用して排水に尤も工夫を凝らしてゐるから暴風雨吹雪時にも雨の洩れる事がない。

1. 脫落絕無　組合せ式に葺き上げ裏面の脚を屋根棧に引掛け且又釘にて打付け葺上ぐるに依り暴風震災に際しても脫落する事がない。

1. 葺土不要　防水排水確實なれば本瓦を葺くに葺土を要せず從つて屋上に草の生ずる憂がない

1. 重量輕減　屋根面1坪に 50 枚にて葺き上げ得られ且葺土を要せざるに依り在來の日本瓦に比し重量 6 割以上減少するから建築上經濟的である。

上記特色の外他の屋根材に比し陶器製なるが故高雅なる事其の追從を許さぬ處にて從つて納入先もあらゆる建築物に適し鐵道省、宮內省、文部省、農林省、商工省、陸軍省、海軍省、遞信省、內務省各官廳學校を初めホテル、アパート、店舖、住宅に、さては料亭にと陶器製洋瓦全盛時代を誇つてゐる。

●近江セールズ株式會社

大阪市西區土佐堀 1　大同ビル
電話 土佐堀 8156 番

近江セールズ株式會社が金物部を設け、サーヂエントの輸入品販賣を主要看板として業界にデビュしたのは約20年前の事である。爾來、"舶來に優る國產品製作"の眞摯なる念願の下に日夜研鑽を積み遂に數年前 O.S.C. と銘打つ優秀國產品を世に紹介するに到つた。昭和6年4月東京蒲田に東洋一を誇る理想的建具金物工場を設立し、本格的活動を開始し、O.S.C. シリンダー錠、ドーアクローザー、ホキツトコ、自由蝶番、L 型及 Z 型カーテンレール、ベスト欄間金物等を相次いで製作し、品質の改良向上に不斷の努力を重ね最近の大建築物——東京方面に於ては國會議事堂を始めとして文部省廳舍、日本銀行、住友ビル、橫濱大同ビル等、關西方面に於ては、兵庫縣廳、大阪大丸神戸商大、神戸女學院、三井ビル、阪大理學部、其他幾百千の高級建築物に納品し一流請負者及び建築事務所諸官省の指定品として其の眞價を認められ絕大の信用を博してゐる。

上記の通り、工場を東京蒲田に、營業所を東京芝琴平町、大阪西區土佐堀大同ビルに置き健實なる活躍をなしてゐる。

L 型、Z 型、カーテン金物は好評にして、日本家屋に、洋風家屋に廣く愛用されてゐる、米國一の百貨製造、卸、小賣店として名高いマーシャルフキールド會社の代理店として裝飾用裂地ベローア、カーテンレース、シーツ、ピローケース等シモンズ會社の寢臺、スローン會社の最高級家具其他英、佛、白國より家具裝飾用裂地類を輸入してこれを一流裂地問屋に販賣してゐる。

●株式會社 大谷金庫店

東京市京橋區新富町3丁目
電話 京橋 (56) 5619 番
京都市下京區松原通東洞院東
電話 下 (5) 532 番　190 番
大阪市東區平野町2丁目(堺筋)
電話 本局 (23) 3934 番
神戸市湊東區荒田町 1 丁目

（楠町6丁目交叉點西）
電話 湊川(5) 4807番
工場　東京市京橋區新佃島西町1丁目
京都市下京區松原通大宮西入

營業課目　輕量金庫、ベント式金庫、クレーヒンヂ裝鋼金庫扉、セーフデポヂツトボツクス、土藏入口扉、窓扉、金庫室扉、御眞影奉安庫、鋼製保管庫、鋼製家具。

沿革

株式會社大谷金庫店は初代大谷榮之助氏が明治26年東京京橋區に店舖を設け金庫及金庫扉の製造販賣に從事せしに創まり爾來家憲として「まさかの時に役立つ金庫」を信條とし不撓不屈製品の改良生産の合理化に努め或時は京大教授工學博士を顧問に推して其蘊蓄せる學說を聽き又或時は工業先進國たる獨逸より斯道に堪能なる技師を招聘して製品の改良機器の充實に努むる等多年一日の如く研究に沒頭せし結果遂に國立工業試驗所に於て試驗の結果攝氏 1160 度（華氏 2120 度）の灼熱中にある事實に 6 時間 50 分然も內藏物に毫も異狀なき業界空前の最高記錄を把持する事を得た。時偶々大正 12 年 9 月 1 日の關東大震火災に於て罹災金庫多數の內當大谷金庫は 1 個の不成績品をも出さず完全に金庫の使命を果し財寶保護の重責を完ふし得たる又偶然ではないのである。然るに震災を轉機として我建築界に高層建築勃興し從來の据付金庫に代ふるに金庫室を用ふる傾向漸く盛んとなり裝鋼金庫扉は盛んに輸入せられ我金庫界の牙城に肉迫してきた。大谷金庫店は茲に見る所あり即ち工場施設を整備擴張して輸入防遏の第一線に邁進し數次の研鑽を重ね遂に理想的裝鋼扉の出現に成功して其目的の一端を果し諸方の推奬と賞讃を博し絕へざる注文を受けつつあるは大谷金庫獨りの欣びでは決してないのである。最近同社が設計工作納入した主なる納先は

東京市　日本銀行本店、日本勸業銀行(本支店)、橫濱正金銀行(本支店)、第一銀行(本支店)、日本興業銀行(本支店)、產業組合中央金庫、東京火災保險株式會社、明治精糖ビルデイング、小倉石油株式會社、大橋邸。
靜岡市　靜岡銀行本店、遠州銀行靜岡支店
大阪市　造幣局、野村銀行(本支店)、朝日新聞社朝日ビルデイング、瓦斯ビルデイング、安田信託株式會社、十二銀行大阪支店、東京火災保險株式會社大阪支店、赤十字病院。
神戶市　神戶市役所、兵庫縣農工銀行(本支店)、神戶取引所、東京火災保險株式會社神戶支店、
宮崎市　宮崎縣廳
京都府　郡是製糸株式會社、交野無盡金融株式會社(本支店)、京都市野村證券京都支店、荒川邸
名古屋市　野村證券名古屋支店、安田信託株式會社名古屋支店、愛知銀行。
滋賀縣　滋賀縣農工銀行(本支店)
岐阜縣　大垣共立銀行岐阜町支店
大垣市　大垣共立銀行
長濱市　大垣共立銀行長濱支店
宇和島市　第二十九銀行
岸和田市　岸和田銀行本店
兵庫縣　川西邸須磨別莊
奈良縣　原納邸
廣島市　長尾邸
平壤府　朝鮮銀行平壤支店
京城府　東京火災保險株式會社京城支店

●合資會社 建材社

本社　東京市日本橋區通3丁目2番地2
電話日本橋 3501 3502 3503
出張所　大阪市北區中ノ島3丁目(朝日ビル內)
電話本局 4500 5540

營業種目

煖冷房部　空氣溫濕度調整裝置、冷房裝置、煖房裝置、パネルヒーチング、溫水供給裝置、換氣通風裝置、製氷、冷藏裝置、アイススケートリンク
昇降機及エスカレーター部　建材社國產エレベーター、建材社フロールエスカレーター
建築材料部　石材獨逸トラバーチン、內外裝用クンストスタイン、獨逸グラスモザイク、國產グラスモザイク、外裝材料獨逸リシン、獨逸タイルモザイク、山茶窯タイル、テラカツタ其他建築諸材料並諸機械類

營業內容概略

煖冷房部

建材社は獨逸を初め諸外國の優秀なる建築諸材料器具機械類を本邦に紹介するの目的を以て 20

有餘年前東京に創立せられたのてあつたが、獨逸ウエツラーのブデラス鐵工株式會社との提携なるに及び其能率卓越せる、煖房用汽罐放熱器等の輸入販賣を其營業種目の一に加へんとした、然るに當時未だ頗る幼稚であつた内地の技術は是等の材料の有する能率を發揮せしめ得る設計、施工を完成する事は到底不可能であつた。建材社は已むを得ず技術優秀熟練せる獨人專門技師數名を招聘して、設計、施工監督をせしめ顧客の要求を百パーセントの滿足さを以つて解決し得たのである。其當時既に近世的優秀なる煖房、通風裝置を施工し得る立派な組織を有したのは實に建材社を除いて他に求められなかつたのである。

爾來、其設計施工になれる煖房通風の諸裝置は内地、朝鮮、滿洲に及んで千有餘を數へ、建築家及び其所有者の多大の賞讃を博して居るのである。

建材社は更に一方、邦人の技術者多數をして、歐米各國の斯業の發達を研究せしめると共に、内地の氣候風土、習慣等の關係を調査せしめ現今ではあらゆる方面に向つて他社の到底及び得ぬ最も巧妙なる設計と施工をもつて益々其獨特の眞價を發揮してゐる。

近時必要缺く可らざるものとされて居る、エイヤコンヂショニングの科學をも完全に征伏し盡くして、其本家である米國の權威者をも凌駕した成績を示して居るのは賴もしき極みである。

建材社はオフイスビルデイング、銀行、ホテル劇場、百貨店はもとより、紡織工業を初め、種々の工業部門に向つて、品質の改善、生產の增加の目的の爲めに大活躍をしつゝある事は、我が生產工業界發展のために慶賀すべき事である。尙極最近工事獲得せし大ものゝ一つには松阪屋大阪店の全館冷房裝置工事あり益々其の基礎を固めつゝあり。

昇降機及エスカレーター部

外國製品を内地は勿論朝鮮滿洲までも供給した建材社過去の成績は實に目覺しいものであつた。

近時我國工業界の發達は遂に外國製品に數段優るものを各方面に製造供給してゐるに鑑み建材社も獨逸カールフロール社との特殊契約を結び其獨特の機構になるエレベーター、エスカーレーターの製造を内地でするべく總ての準備組織を完成した。其國產としての昇降機は旣に各所に供給設置せられて居るが、特に近年目覺しき進出振りを示してゐる「エスカレーター」に於ては先に東京白木屋、三越を始め連續的に大阪市地下鐵淀屋橋停留所に對する注文獲得爾來其の眞價を認められ居る矢先亦々今回大阪市地下鐵道心齋橋南詰停車場に設備せらるべき二基のエスカレーターも、同業者の劇烈なる競爭に打勝つて注文を受けた如きは注目に値する事であるが同社の眞摯、熱心な研究による技術を知るものは當然の事と首肯し得られるところである。

建築材料部

前記獨逸ブデラス會社のローラー汽罐、放熱器は、米國アメリカンラジエーター社の競爭に對抗して多大の需要を滿し其特色多き構造は、使用者の絶大なる賞讃を博したが、建材社は更にバルブ、繼手、其他の煖房用器具の他社の模倣し得ぬ特殊品を多數獨逸より輸入販賣して居た事は、同業者の羨望の的であつた。

タイル、モザイクタイル、外裝材料リシン、リノリウム、クンストスタイン、硝子モザイク、等常に獨逸の優良なる建築材料を本邦に紹介して、日本建築材料界に適時の革新を齎らしてゐた事も特筆すべき事であるが我建築材料製造工業界に覺醒を促し、間接的ながら之を誘導發展せしめたる功績も大書すべき事である。

我國民性の先天的手藝の才は、他國民の倣ねし得ぬ所であるが、建材社は、夫を適宜利用して、實に立派な建築材料を發表してゐる。最近に完成した、大日本麥酒會社東京銀座ビヤホール内部のグラスモザイク、クンストスタイン、山茶タイルトラバーチン等は衆人注目驚異の的となつてゐる。

一方、内地で製造し得ぬ、又は存在せぬ特殊材料はどんどん輸入供給してゐるが京都市美術館内部壁に使用せられた石材獨逸トラバーチンは、其色調の優雅なる、施工の巧妙なる、日本人古來の趣味にピツタリ適合して偉觀を呈し建築界の大評判となつてゐる。

會　　報

役　員　會

常務會（第 9 回）

日　時　5 月 7 日午後 6 時 10 分—8 時
會　場　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡　松室
　　監事　岡部
　　常務　今林　井上　浦　　清水
　　平塚　加藤
　　幹事　增山住宅　姫野敎化

議　　事

1 敎化委員會より要求に係る住に關する座談會開催に關する件(姫野幹事說明再考することに決)
1 住宅委員會より速記要求に關する件（增山幹事說明協議の上回答）
1 5 月例會開催に關する件
　1 神戸市脇之濱に於けるダンロップ護謨(極東)株式會社工場見學（可決）
　2 大阪附近に於ける飛行場見學（都市武裝促進委員會に於ける計畫）
1 都市武裝促進委員會より要求に係る委員增員の件（可決）
1 都市武裝促進委員會より經費金 3,000 圓支出方要求の件（可決總會附議）
1 法制委員會より要求に係る分科設置に付委員增員の件（可決）
1 建築倶樂部事務員に關する件（修正可決）
1 評議員落藤藤吉氏轉勤に付評議員及災害强度委員其他の委員辭任届出の件（承認）
1 編輯部員鹽見清氏東京に轉勤届出の件（承認）
1 函館市大火に關し視察報告者並講演會講演者に對する謝禮の件（可決）
1 桐田商會主入會に關する件（可決）
1 會員詮衡

報　　告

1 建築倶樂部代表者並幹事改選報告
1 陳列場出品規定一部追加並會計報告
1 春季大會決算報告
1 家具裝飾展覽會開催基礎案報告
1「續學校建築圖集」刊行終了報告
1 都市武裝促進委員會經過報告
1 塗工の魁新聞社主催塗裝競技會審査終了報告
1 建築學會より函館市復興對策に關する建議に付援助方の件
1 建築學會々長及聯合調査委員長より請負契約書等訂正要旨報告
1 第 4 回全國都市問題會議總會開催(地京都時 10 月）に付參加方の件
1 今村博士より關西南海方面地動研究に關し報告
1 三浦尙史氏より東京日本ポールトランドセメント業技術會第 22 回例會出席に付狀況報告

委　員　會

設備委員會（第 7 回）

日　時　4 月 25 日午後 7 時—8 時
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　小笠原
　　幹　事　松　井
　　委　員　西村　增井　村田

1 午後 7 時小笠原委員長座長となり開會前回に引續き研究を進め
1 矢板に代るウオールケーソン及現場騷音防止の 2 項は大體結論に近づきたるも改めて更に研究を重ね後日に決定することゝし一時保留し今後は次の 2 項に付研究を進めることに決定す
　1 デレツキ　其他機械設備に關する事項
　2 一般附帶工事施工上に關し現場に於て特に注意すべき事項
1 次回より當分の間定例日を第 2 第 4 の火曜日に變更することに申合せをなす

設備委員會（第 8 回）

日　時　5 月 8 日午後 6 時 50 分—8 時
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　小笠原
　　幹　事　伊東
　　委　員　塙　　村田

1 午後 6 時 50 分小笠原委員長座長となり開會種々協議の結果
次回より下の事項に付其內容を順次研究を進むることに決定

1 デレツキ其他機械設備に關する事項
1 杭打機械
2 堀方機械
3 土上ホイスト
4 巡環引上機
5 ポンプ
6 コンクリートミキサー、タワー、ミユートホツパー、運搬車
7 イナンデーター、ウヲーセクリーター、ポンプ、クリート、自働連續混和機
8 ボーリング鑿井機
9 デレツキ、マスト、二又、三又、ダテ
10 ウキンチ
11 足場、釣足場

設備委員會分科會（第 4 回）

日　時　5月4日午後6時30分—8時30分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　小笠原
幹　事　伊東
委　員　政岡　黒田　志岐　永澤　森山
1 午後 6 時30分小笠原委員長座長となり開會
委員長より前回委員會の經過に付報告あり、其際宿題となしたる下記事項に付本夕は研究を進めたき旨を述べ
配給所を1個所と假定して其設備及經濟兩方面を研究すること
先づ志岐委員に提案方を求め同委員考案による設計圖案に付說明し衆議に諮り大體決定
次に之れを設立するとすれば其總經費に付合議の上決定し次回定例日は幹事會を開き（分科會は休會）本夕の研究事項取纏めることゝし散會したり
設計圖は志岐委員の手許にて原紙に淨書協會に於て青寫眞となす豫定
總經費の計算書は小笠原委員長手許に於て淨書協會にて謄寫する豫定

材料委員會（第 8 回）

日　時　5月2日午後6時30分—9時
會　場　建築材料陳列場
出席者　委員長　池田
幹　事　松久保
委　員　楠瀨　高岡　道田　吉本
1 前回に於ける大阪材木商同業組合との打合事項に付協議を濟まし將來の研究方法を定め寸法の研究を進めることを申合す

住宅委員會（第 5 回）

日　時　5月9日午後6時30分—9時
會　場　建築倶樂部
出席者　委員長　武田
幹　事　小川　松本　增山
委　員　赤松　小川　岡本　三木
會　員　藤原　宮飼
1 本委員會より常務會に對し速記者使用に關し要求書の提出をなすと共に去る7日開會の常務會に增山幹事出席し說明をなしたる結果常務會に於ては編輯常務の意見を徵したる上追て回答するとの事なりし旨を報告す
1 次で委員長より本夕は防濕防腐の問題に關する座談會を開きますとて座談に入る（概要別紙の通り）

法制委員會（第 6 回）

日　時　5月3日午後6時30分—8時30分
會　場　建築倶樂部
出席者　委員長　津田
幹　事　玉置　坪井
委　員　石川　白川　武田　宮脇　山口
1 前回の決議に依る分科設置に關し玉置幹事より分科委員選定の結果報告ありたり氏名次の通り（外國法規の研究）
主査　玉置豊次郎氏(現在法制委員)
委員　宮脇　晴美氏(　同　)
委員　内藤　亮一氏(編輯部員 武裝都市總務部)
委員　吉田　信武氏(編輯部員、都市計畫 武裝都市調査部)
委員　荒木　正已氏
委員　村井　進氏
委員　和田　登氏
委員　田中　彌一氏
委員　淺野　新一氏
1 地域の種類に關する諸問題（例へば工業地域内の路線式商業地域の奥行の制限其他）を各自持寄りの上研究することを申合せ大體本夕は地域

に關する座談をなしたり

1 玉置幹事より各種大審判決例を蒐集すれば非常に參考となる諸問題多からんとの意見を述べられ新設の第2分科會に於て丸善より外國法規の到着する迄各種判決例を蒐集する事とす

尙第2分科會は本委員會と同日に開催すること

災害强度委員會（第 4 回）

日　時　5 月 10 日午後 7 時—8 時

會　場　建築材料陳列場

出席者　委員長　波江

幹　事　黒田

委　員　佐野　三浦　矢田　山田　篠原

1 ポルトランドセメント業技術會例會に出席せられたる三浦氏より其の報告書を常務會に提出せられ常務會より本委員會に對し雜誌に掲載するに付ての本委員會の意嚮（全部を掲載するや又一部的にするや）を求め來りたるに依り協議の結果全部其儘を掲載する事を申合せ直に編輯に回附す

1 落藤氏に對し本委員會委員より記念品を贈呈することを申合し其の品物の選定を黒田幹事に一任す

1 材料研究會、鎔接協會に災害强度委員會として入會したきことを申合す。但し團體の入會を承認するや否や一應問合する事

1 次回には各員石崖の文献を持ち寄る事を申合す

會員　西岡道臣氏



會員西岡道臣氏昭和9年4月6日病を以て長逝せらる、洵に哀悼に禁へず茲に照と肖略歴を掲げ謹で弔意を表す。

西岡氏は明治 17 年大阪市北區曾根崎上 2 丁目 77 番地に生れ明治 38 年 7 月關西商工學校を卒業す直に茂建築事務所に入る。

同 43 年 1 月元營道臣を西岡道臣と改名す

同年 2 月 任大阪市技手土木課營繕係勤務

大正 4 年尼崎紡績株式會社に入る

同 7 年 6 月 1 日攝津及尼崎紡績株式會社合併して大日本紡績株式會社と稱し同社々員となり

大正 13 年 5 月 19 日本建築協會々員に入會し現在に至る。享年 51 歳

會員動靜

轉勤轉居

會員

大澤　幸平君　住吉區昭和町中 4 ノ 2

佃　十　俊君　旭區生江町 528

藪中　一良君　住吉區帝塚山中 5ノ7

谷　義三郎君　東區森ノ宮西ノ町 607

葛野壯一郎君　西區北堀江御池通 1 ノ 3（葛野建築事務所）

岡部　眞則君　港區八幡屋中通 1 ノ 2（旭工業商會大阪出張所）

和田　友吉君　浪速區芦原町 1 ノ 199（新田帶革製造所建築場）

增井　敏克君　住吉區平野西脇町 1

地方會員

眞田　益市君　岡崎市外岩津村大樹寺岩附氏別邸

片山　勝君　山口縣小野田町榮町 6368

池田　訓章君　香川縣三豐郡觀音寺町倉紡社宅内

矢部　芳夫君　東京市大森區大森町 21 ノ 630

小林麟太郎君　京城府南大門通 21 ノ 1

篠田　和雄君　新京千鳥町 6 ノ 6 關東軍司令部新官舍 58 號東

豊島　義政君　大連市桃源臺桃林莊 2、ノ 12 號

萩原　惇正君　東京市大森區池上德持町 385

落藤　藤吉君　札幌市北八條西 7 北大官舍

特別賛助員

西岡　隆夫君　東京市京橋區木挽町 5 ノ 5 ノ 5

普通賛助員

齋藤　敏夫君　住吉區山之内町番外ノ 3 藥師孝方

古川　東一君　大阪市外茨木町寺町

小林　敏郎君　住吉區天下茶屋 1 ノ 35

今井　英雄君　西成區松原通 1 ノ 52
船木　　修君　旭區生江町 562
大林　　武君　兵庫縣明石郡垂水町西垂水町厚ノ上 184
藤平　正夫君　西成區粉濱本町 3 ノ 11
佐野　公夫君　德島市二軒家驛前齋藤殿方
池田雅一郎君　兵庫縣武庫郡本庄村深江野瀬 57
岩橋　省吾君　西宮市六甲苦樂園

入　退　會

入　會　者

會員

村井　　進君　大阪府警察部建築課
和田　　登君　大阪市住吉區南田邊町 1202 レークサイドハウス 151
川端與喜藏君　大阪府三島郡山田村山田字上山田弘濟會內
淺野　新一君　大阪市住吉區播磨町東 1 ノ 40 藤本方
宮川　蜜堂君　大阪府南河內郡長野町字古野 69 ノ 1
田中　彌一君　大阪市住吉區南田邊町 1202 レークサイドハウス內
荒木　正巳君　大阪市北區東野田 1 ノ 90 櫻宮アパート內
平野　忠雄君　兵庫縣武庫郡精道村打出折ノ上、瀧本方

普通贊助員

山本　忠孝君　大阪市西淀川區姬島町 2104
大谷愼次郎君　大阪市北區東野田町 5 ノ 26
山下　平司君　大阪市東成區猪飼野東 1 ノ 24
山本　正重君　大阪市此花區梅町 1 ノ 1
荒木　大作君　大阪市北區中ノ島 5　日刊工業新聞社內
泉谷　四郎君　泉南郡春木町大字春木 387
村田　眞一君　府下三島郡山田村上山田　弘濟會內
上田　虎男君　府下三島郡山田村上山田、弘濟會內
大道　廣輝君　大阪市住吉區北加賀町 299

退　會　者

會員　石橋昌三君
地方會員　西澤藤生君
特別贊助員　東勇之助君
普通贊助員　村本文田郎君　水谷延三君
伊丹　順一君　田中卯三郎君
竹內新兵衛君

訂　正

5 月號の入會者欄中普通贊助員として掲載せし堀口甚吉氏及重松傳三郎氏は共に會員の誤りに付訂正いたします。

本誌執筆者紹介　(50音順)

永戸俊雄　東京帝國大學卒業、大阪每日新聞社勤務
同社特派員として永く巴里に駐在されたることあり
奥田讓　工學士、東大建築學科卒業、神戸市技師神戸市營繕課勤務
杉浦巴　工學士、早大建築學科卒業、村野建築事務所勤務
三浦尙史　本會災害强度委員會委員、東京高等工業學校建築學科卒業、大阪市立都島工業學校教諭
山田守　工學士、東大建築學科卒業、遞信技師、遞信省營繕課勤務

新刊紹介

□續學校建築圖集　（四六倍判）

學校建築は近代建築中重要なる一分科である。教育の普及と收容人員の增加に依る學校の增築竝に移轉改築等に依つて、學校建築は最近特に近代的相貌を以て面目を一新した感がある。

「續學校建築圖集」は去る昭和6年日本建築協會が發行した「學校建築圖集」の續編である。內容は小學校より中等學校、專門學校から大學に至る各學校の、主として昭和8年以後に竣工したもの 40 餘校を中心として、その寫眞及平面圖に加ふるに主要なる立面圖詳細圖等を以てし、更に卷末には代表的な仕樣書と大阪市小學校用具の標準規格とを採錄したものである。

一般學校關係者の學校建築に關する好箇の資料たると同時に、建築科學生の有益なる參考書たるを失はぬ。敢て一般教育關係の人々竝に建築を習學する學生諸君に薦む。發行所日本建築協會、定價 1 圓。

□國立公園に建つ山小屋建築設計圖案集　（四六倍判）

國立公園の設定を機として、國立公園協會が、建築學會を通じて一般に募集したる懸賞競技の應募圖案集で應募總數 193 通中より當選したる 9 案を集めたものである。

募集規定に依れば、收容人員 50 乃至 80 人、工費 3,000 圓內外の山小屋で、冬季及夏季の兩シーズン共使用し得るものとある。

當選圖案は大部分は大體北歐のヒユツテ風の、丸太と荒削りの木材と山石とを主材とした建築であるが、最近登山やスキーとの猛烈な流行に伴ひ、此種山小屋や簡易な山宿の計畫せられるもの極めて多き折柄、建築家は勿論、登山家も一本を備へる價値あるものと思ふ。國立公園協會及建築學會發行、定價 50 錢

□中流住宅設計圖案集　（新菊倍判）

50 坪までの住宅の設計圖案集である。全て住宅改良會の懸賞競技應募圖案である。45 案何れも全數 246 案中より嚴選したる優秀なる設計で、募集ものゝ常として大部分和洋折衷式であるが、それに次いで簡明直截な新しい住宅案が相當にあるのは注目に値する。

卷末に、既に雜誌「住宅」で發表したものではあるが「これから家を建てる人々の爲に」實際家を建てた人々の意見を採錄したのは思ひ附である。住宅改良會發行、定價 1 圓 20 錢、送料 10 錢。

□材料文獻集　（菊倍判）

技術家、特に多種多樣の材料を使用して行く建築技術家に取つて、材料の知識の豐富なるか否かは、その人の技術的價値をも左右する重大な問題である。

忙しい事務の間に、日增しの新材料に就いて正確な知識を得ることは特に建築家に取つて極て困難なことに屬する。「材料文獻集」はこの困難を救ふ爲に大に役立つものがあらう

收むる所、工業のあらゆる分野に涉る材料の文獻であり、夫々內容の概略の說明が附いて居る。

或材料に就いて詳しい、知識を必要とする時、文獻捜獵の指針として大に役立つものがあらう。材料研究會編輯、常盤書房發行。定價 1 圓 20 錢。

編輯後記

□題して「住宅とアパートメント」號と言ふ。五月號の續編である。
諸家設計の住宅の實物寫眞 30 頁、アパートメントの寫眞 4 頁が本號の中心である。寫眞によいものが多かつたので寫眞本位とし、記事の方は自然集まつたものだけにした。住宅系統の建物に就いては讀者にしてもこの方がよいと思ふ。

□7 月號には都市防空に關する特輯號を出す豫定である。
7 月中に大阪を中心とし、近畿の各府縣に渉つて行はれる、軍部の防空大演習を機會として、大に都市空襲に對する建築物の保護と、それに伴ふ都市の火災に對する非常時防禦方法や平時よりの豫防施設等に就いて、一般の注意を喚起する豫定である。

□本協會に於ても、「都市防空委員會」が設けられ、堂々たる陣容を以て既に諸般の準備が進められて居る。

□今回の演習に直接關與せる軍部方面、竝に都市防空施設に關係ある各權威者には既に御依頼してあるから、委員會の活躍と相俟つて相當なものが出來やうと思ふ。

□過日東京で開催せられた、セメント技術會に出席の三浦氏のレポートを本號に採錄した、同氏の御努力に多謝する。

□3 月號 4 月號共に寫眞版の成績が非常によかつたので、口を酸くして印刷屋を鞭撻した編輯の努力が報ひられたものとして、5 月號で大に自慢しておいた所、同號の寫眞版の出來が又大に惡かつたことは汗顔の至である。印刷費の中特にインクが値上りして居る今日、原豫算の儘で而もインキ代に最も影響の多い寫眞版をよくせよと言ふのだから、いさゝか虫がよ過ぎる注文ではあるが、編輯としては、兎まれ出來るだけよくなる樣努力する心算である。

□本誌毎月の頁數は廣告を除き記事寫眞等合計 80 頁の豫定であるが最近は豫定の頁數を遙に超過する月の方が多い。が、有益なる記事に對しては頁數は惜まない方針である。

□原稿の締切を毎月 15 日に繰上げて居る御諒承を乞ふ。(新名)

建築と社會

第 17 輯第 6 號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和9年5月25日印刷　昭和9年6月1日發行

發行・編輯　鷹取陽
印刷人　西宮市今津町津門字賓津605番地
印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町1丁目7番地
發行所　(社團法人)日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長本局(23)4500番(6)
振替口座大阪39.975番
特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 2084番

禁轉載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

普通	1 頁	1 回	15.00
普通	½ 頁	1 回	8.00
普通(前附第1頁)	1 頁	1 回	45.00
普通(前附第2頁)	1 頁	1 回	40.00
普通(後附第1及最終頁)	1 頁	1 回	25.00
アート(中揷)	½ 頁	1 回	20.00
表紙 2	1 頁	1 回	60.00
表紙 3	1 頁	1 回	45.00
表紙 4	1 頁	1 回	80.00
建築事務所錄	1 欄	1 回	1.50
(建築關係業者案內)	1 欄	1 回	5.00

御注文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

（絶　版）**關東震火災視察記**　定價 3.50圓（送料12）
震災直後本協會員の視察報告集

（絶　版）**住宅懸賞圖案集**　定價 1.00圓（送料10）
サンマーハウス、貸長屋の懸賞圖案集

（絶　版）**婦人の住宅知識**　定價 1.00圓（送料10）
婦人に必要なる住宅の諸說を蒐集せるもの

（絶　版）**世界最近建築圖集**　定價 0.50圓（送料 8）
歐米尖端の新建築の寫眞集

（絶　版）**學校建築圖集**　定價 1.00圓（送料18）
幼稚園、小學校より大學校に到る迄の諸種の學校を網羅す

（絶　版）記念出版 **住宅圖案集**　定價 1.00圓（送料10）
工費 2500 圓以內建坪30坪以內の小住宅懸賞圖集

（新　刊）**最近建築懸賞圖集**　定價 0.70圓（送料10）
東京帝室博物館・東京美術館・軍人會館・日本生命館等東洋趣味を基調とせる大建築懸賞圖集

（四　版）**市街地建築物法令**　定價 0.50圓（送料 6）
六大都市施行細則其他關係命令を蒐めたもの

（新　刊）記念出版 **大阪市地質調査圖表**　定價 3.50圓（送料12）
大阪の地質を 500 箇所に亘り調査した圖表　（本協會員に限り 3.00圓）

（新　刊）記念出版 **續住宅圖案集**　定價 1.00圓（送料10）
工費 2500 圓以內建坪 30 坪以內の小住宅及同上の豪所圖集

（新　刊）**續學校建築圖集**　定價 1.00圓（送料14）
最近二三年間に竣工した大・中・小學校建築40餘校を蒐めたもの

日本建築協會發行　大阪・北區・朝日ビル　振替口座大阪 39975

賣捌　**柳々堂書店**　**丸善本支店**

國產元祖

コンヂットチューブ 各種

創立 明治四十四年

日本パイプ製造株式會社

大文遞鐵海陸
軍軍道信部藏
省省省省省省

指定工場

會長 工學博士 松村鶴藏

本社 東京市本所區林町三丁目
電話本所(二五五〇・二五五一・五三四六
(七二一八

大阪販賣所 大阪市西區新町南通五丁目
電話新町一四九八・二四八七・四五五一

工場 千葉縣東葛飾郡八幡町
電話(北八幡一七〇五
(市川三

海外代理店 三井物産株式會社機械部

建築と社會第17輯第6號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……35
　　淺野スレート株式會社……18
　　淺海商店……22
イ　岩元商會建材部……22
エ　榮進社……17
　　英進商會建材部……26
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……14
　　大野製作所……1
　　奥村重兵衛商店……19
　　押谷商店……26
　　大澤商會……8
カ　金岡盛樹園……中挿
キ　木下證三商店……14
　　桐田商會……25
　　協和商會……28
ク　黒川化學工業所……12
　　久保商店……35
ケ　建盛商會……10
　　輕量建材合資會社……20
サ　三機工業株式會社……表紙 2
　　佐久間パブコ工業株式會社……5
　　佐渡島商店……33
シ　島貿易株式會社建材部……38
ス　須賀商會……29
セ　政正合資會社……32
　　清光社……34
ダ　大元塗料店……10
　　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　　大理石工業株式會社……32
ト　東洋リノリユーウム株式會社……13
　　東洋工業株式會社……30
　　東京商會……31
　　東京建材工業所……7
　　東京電氣株式會社……42・43
ナ　内外土木建築材料合資會社……27
　　南滿鑛業株式會社……20
ニ　日本建築紙工株式會社……31
　　日本ドアーチエック製作所……37
　　日本パイプ製造株式會社……39
　　西原衛生工業所……6
　　西孫商店建築金物部……21
ノ　野澤幸三郎商店……3
ハ　汎建製作所……36
フ　福原商店……24
　　福島合名會社……4
ベ　ベニス工房……30
マ　マルエス工業株式會社……11
ミ　ミナト製作所……12
　　三井物産株式會社……15
　　宮島康夫商店……34
ヤ　矢橋大理石商店……16
　　大和護謨製作所……9
　　ヤマト商會……28
　　山本窯業商店……24
ヨ　横河橋梁製作所……23
　　米本榮商店……16
ラ　ライトラバー工業合資會社……41
レ　玲光社(木内眞太郎)……4